PENTAX

デジタルカメラ

Optio WG-1 GPS
Optio WG-1

使用説明書

Compatible with Windows®7

ArcSoft®　HDMI™ HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE　SDXC™　CERTIFIED HI-SPEED USB

カメラの正しい操作のため、
ご使用前に必ずこの使用説明書をご覧ください。

はじめに

このたびは、ペンタックス・デジタルカメラをお買い上げいただき誠にありがとうございます。本製品の機能を十分活用していただくために、ご使用になる前に本書をよくお読みください。また本書をお読みになった後は必ず保管してください。使用方法がわからなくなったり、機能についてもっと詳しく知りたいときにお役に立ちます。

本書は「Optio WG-1 GPS」と「Optio WG-1」共通の説明書になっております。本文中のイラストは、「Optio WG-1 GPS」のものを使用しています。

著作権について

本製品を使用して撮影した画像は、個人で楽しむなどの他は、著作権法により、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物の中には、個人として楽しむ目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

商標について

PENTAXおよびペンタックス、OptioおよびオプティオはHOYA株式会社の登録商標です。

SDXCロゴは、SD-3C,LLCの商標です。

Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。Windows Vistaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Macintosh、Mac OSは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。

ArcSoft®の名称及びそのロゴ は、ArcSoft Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

HDMI、HDMI ロゴ、High-Definition Multimedia Interfaceは、米国およびその他の国々における、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

「Eye-Fi」、「Eye-Fi *connected*」およびEye-FiロゴはEye-Fi,Inc.の登録商標です。

本製品は、PRINT Image Matching IIIに対応しています。PRINT Image Matching対応プリンタでの出力及び対応ソフトウェアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。なお、PRINT Image Matching IIIより前の対応プリンタでは、一部機能が反映されません。「PRINT Image Matching」「PRINT Image Matching II」「PRINT Image Matching III」に関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。

その他、記載の商品名、会社名は各社の商標もしくは登録商標です。

本機を使用するにあたって

- テレビ塔など強い電波や磁気を発生する施設の周囲や、強い静電気が発生する場所では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが誤作動を起こす場合があります。
- 画像モニターに使用されている液晶パネルは、非常に高度な精密技術で作られています。99.99％以上の有効画素数がありますが、0.01％以下の画素で点灯しないものや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。なお、記録される画像には影響ありません。
- カメラを明るい被写体に向けると、画像モニターに光の帯が現れることがあります。この現象をスミアといいますが、故障ではありません。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って、正しい取り扱いをしてください。

本文中のイラストおよび画像モニターの表示画面は、実際の製品と異なる場合があります。

本書ではSDメモリーカードならびにSDHCメモリーカード、SDXCカードのことをSDメモリーカードと表現しています。

ご注意ください

この製品の安全性については充分注意を払っておりますが、下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

警告 このマークの内容を守らなかった場合、人が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

注意 このマークの内容を守らなかった場合、人が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。

本体について

警告

- カメラの分解・改造などをしないでください。カメラ内部に高電圧部があり、感電の危険があります。
- 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手をふれないでください。感電の危険があります。
- ストラップが首に巻き付くと危険です。小さなお子様がストラップを首に掛けないようにご注意ください。
- 使用中に煙が出ている・変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止し、バッテリーまたはACアダプターを取り外したうえ、サービス窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

注意

- ストロボの発光部に手を密着させたまま発光させないでください。やけどの恐れがあります。
- ストロボの発光部を衣服などに密着させたまま発光させないでください。変色などの恐れがあります。
- このカメラには、使用していると熱を持つ部分があります。その部分を長時間持ち続けると、低温やけどを起こす恐れがありますのでご注意ください。
- 万一液晶が破損した場合、ガラスの破片には十分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付いたり、口に入らないよう十分にご注意ください。
- お客様の体質や体調によっては、かゆみ、かぶれ、湿疹などが生じることがあります。異常が生じた場合は、直ちに使用をやめ、医師の診察を受けてください。

バッテリー充電器とACアダプターについて

警告

- バッテリー充電器とACアダプターは、必ず専用品を指定の電源・電圧でご使用ください。専用品以外をご使用になったり、指定以外の電源・電圧でご使用になると、火災・感電・故障の原因になります。AC指定電圧は、100-240Vです。
- 分解したり、改造したりしないでください。火災・感電の原因となります。
- 使用中に煙が出ている・変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止し、当社お客様相談センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 万一、内部に水などが入った場合は、当社お客様相談センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 使用中に雷が鳴り出したら、電源プラグをはずし、使用を中止してください。機器の破損、火災・感電の原因となります。
- 電源プラグにほこりが付着している場合は、よくふいてください。火災の原因となります。

注意

- AC コードの上に重いものを載せたり、落としたり、無理に曲げたりしてコードを傷めないでください。もしACコードが傷んだら、当社お客様相談センター、またはお客様窓口にご相談ください。
- コンセントに差し込んだまま、AC コードの接続部をショートさせたり、さわったりしないでください。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 強い衝撃を与えたり、落としたりしないでください。故障の原因となります。
- バッテリー充電器で充電式リチウムイオンバッテリー D-LI92 以外のバッテリーは充電しないでください。他のバッテリーを充電しようとすると、発熱や爆発、充電器の故障の原因となります。

バッテリーについて

警告

- バッテリーは乳幼児の手の届かない所に保管してください。特に、口に含むと感電の恐れがありますのでご注意ください。
- バッテリーの液が目に入ったときは、失明の恐れがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。

注意

- このカメラでは、決められたバッテリー以外は使用しないでください。バッテリーの爆発、発火の原因となることがあります。
- バッテリーは分解しないでください。無理に分解をすると、爆発や液漏れの原因となります。
- 万一、カメラ内のバッテリーが発熱・発煙を起こしたときは、速やかにバッテリーを取り出してください。その際は、やけどに十分注意してください。
- バッテリーの「＋」と「－」の接点に、針金やヘアピンなどの金属類が触れないようにご注意ください。
- バッテリーをショートさせたり、火の中へ入れないでください。爆発や発火の原因となります。
- バッテリーの液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害をおこす恐れがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- 発熱、発火、破裂の恐れがありますので、バッテリー使用の際は、下記注意事項を必ずお守りください。
  1. 専用充電器以外では絶対に充電しないこと。
  2. 火中投入、加熱、高温での充電・使用・放置をしないこと。
  3. 変形や、ショートさせたり分解・改造をしないこと。

カメラや付属品は乳幼児の手の届かない場所に

警告

- カメラや付属品を、乳幼児の手の届く場所には置かないでください。
  1. 製品の落下や不意の動作により、傷害を受ける恐れがあります。
  2. ストラップを首に巻き付け、窒息する恐れがあります。
  3. バッテリーやSDメモリーカードなどの小さな付属品を飲み込む恐れがあります。万一、飲み込んだと思われる場合は、直ちに医師にご相談ください。

取り扱い上の注意

お使いになる前に

- 海外旅行にお出かけの際は、国際保証書をお持ちください。また、旅行先での問い合わせの際に役立ちますので、製品に同梱しておりますワールドワイド・サービス・ネットワークも一緒にお持ちください。
- 長時間使用しなかったときや、大切な撮影（結婚式、旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能しているかを確認してください。万一、カメラや記録媒体（SDメモリーカード）などの不具合により、撮影や再生、パソコン等への転送がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の保証はご容赦ください。
- このカメラはレンズ交換式ではありません。レンズの取り外しはできません。

バッテリー・充電器について

- バッテリーをフル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。特に高温下での保管は避けてください。
  またバッテリーを長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電になり、電池寿命を縮める原因となります。
- 充電は使用する当日か前日にすることをお勧めします。
- 本製品に付属しているACコードは、バッテリー充電器D-BC92専用です。他の機器に接続してお使いにならないでください。

持ち運びとご使用の際のご注意

- 高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでカメラを車内に放置しないでください。
- 破損や故障、また防水性能が損なわれる原因となりますので、強い振動・ショック・圧力などを加えないでください。オートバイ・車・船などの振動からは、クッションに包むなどして保護してください。万が一、強い振動・ショック・圧力などが加わってしまったら、当社のサービス窓口に点検にお出しください。
- カメラの使用温度範囲は-10～40℃です。
- 高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。

- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることもありますが、これは液晶の性質によるもので、故障ではありません。
- 急激な温度変化を与えると、カメラの内外に結露し水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- ゴミや泥、砂、ほこり、水、有害ガス、塩分などがカメラの中に入らないようにご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、よく拭いて乾かしてください。
- 破損や故障の原因になりますので、画像モニターの表面を強く押さないでください。
- カメラを腰のポケットに入れた状態で椅子などに座ると、カメラが変形したり画像モニターが破損する恐れがありますのでご注意ください。
- 三脚使用時は、ネジの締め過ぎに十分ご注意ください。

お手入れについて

- 汚れ落としに、シンナーやアルコール、ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
- レンズのほこりは、きれいなレンズブラシで取り去ってください。スプレー式のブロアーは、レンズを破損させるおそれがありますので、使用しないでください。

保管について

- 防腐剤や有害薬品のある場所では保管しないでください。また、高温多湿の場所での保管は、カビの原因となりますので、乾燥した風通しのよい場所に、カメラケースから出して保管してください。

その他

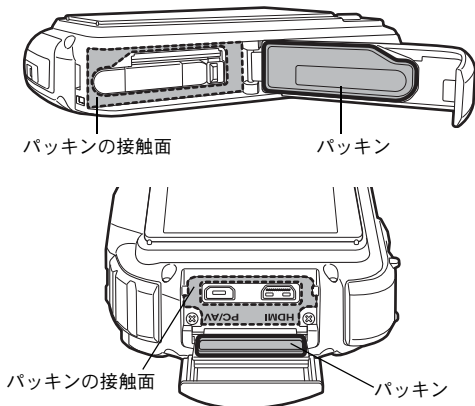
- 高性能を保つため、1～2年ごとに定期点検にお出しいただくことをお勧めします。
- SDメモリーカードの取り扱いについては、「SDメモリーカード使用上の注意」（p.47）をご覧ください。
- SDメモリーカードや内蔵メモリーに記録されたデータは、カメラやパソコン等の機能による消去やフォーマットを行っても、市販の修復ソフトを使用すると、データを再び取り出せることがあります。データの取り扱いや管理は、お客様の責任において行ってください。

防水・防塵・耐衝撃性能についての注意

- このカメラはJIS防水保護等級8級、JIS防塵保護等級6級（IP68）準拠の防水・防塵性能を備えています。
- このカメラの耐衝撃性能は、MIL-Standard 810F Method 516.5-Shockの測定方法に準じた、当社独自の基準（高さ:1.5m、落下面:厚さ5cm合板）での落下テストをクリアしています。
- 本製品の防水性能・耐衝撃性能については当社試験方法によるものであり、無破損・無故障を保証するものではありません。
- 本製品をぶつけたり落下させたりなどの衝撃を与えた場合、防水性能は保証しません。

水中でお使いになる前の注意

水辺（海上・湖上・海辺・湖畔等）から離れた場所で確認してください

- バッテリー／カードカバー、端子カバーのパッキンにひび割れ、キズなどがないことを確認してください。

- バッテリー／カードカバー、端子カバーを閉じる前に、パッキンとその接触面に異物（ゴミ、ほこり、砂、髪の毛や糸くず、液体など）が付着していないことを確認してください。異物が付着している場合は繊維くずの出ない清潔な布で拭き取ってください。

- カチッと音がするまで、バッテリー／カードカバー、端子カバーをしっかり閉じてください。2ヶ所のカバーが確実に閉まっていないと、カメラ内部に水が入り、故障の原因となります。

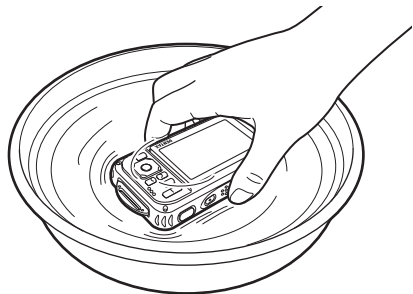
水辺に来たら注意してください

- 水辺（海上・湖上・海辺・湖畔等）でのバッテリー／カードカバー、端子カバーの開け閉めや、濡れた手での開け閉めは避けてください。バッテリーやSDメモリーカードを交換する際は、完全に乾いてから、濡れたり汚れたりしやすい場所を避け、濡れた手をよく拭いてから交換してください。
- このカメラは水中では沈みますので、必ずストラップを取り付け、使用する際は腕に巻いて落ちないように注意してください。
- このカメラは、防水性能を高めるために、レンズ正面に保護ガラスを配置しています。保護ガラスが汚れていたり、水滴が付いていると、撮影した画像に影響を与えますので、保護ガラスは常にきれいな状態を保つようにしてください。

水中でご使用中の注意

- 水深10m以内の場所で使用してください。また、連続して水中で120分を超えて使用しないでください。
- 水中ではバッテリー／カードカバー、端子カバーの開け閉めをしないでください。
- 温泉・温水では使用できません。
- 水中に勢いよく飛び込むなど、カメラに衝撃を与えないでください。カバーが開いたり、防水性能を保てない場合があります。
- 浜辺などでカメラを砂の上に置いたままにすると、カメラの使用温度を超えたり、スピーカーやマイクに砂が詰まることがあります。
- カメラに強い振動・ショック・圧力などが加わると、防水性能が損なわれる原因となります。もし強い振動・ショック・圧力が加わってしまった場合は、当社のサービス窓口に点検にお出しください。
- 日焼け止めやサンオイルが付着すると、カメラの表面が変色することがあります。万が一付着させてしまった場合は、速やかにぬるま湯で洗い流してください。
- 急激な温度変化を与えると、カメラ内外に結露し水滴が生じます。カメラをバックやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。

水中でお使いになった後の注意

- カメラが水にぬれた状態でバッテリー／カードカバー、端子カバーを開けないでください。カメラがぬれているときは、繊維くずの出ない清潔な布で拭き取ってください。
- バッテリー／カードカバー、端子カバーを開くとき、カバーの内側表面に水滴がつくことがあります。水滴がついているときは、必ず拭き取ってください。
- カメラに砂などがついた状態で布で拭くと、表面が傷付く恐れがあります。バッテリー／カードカバー、端子カバーが確実に閉まっていることを確認してから、水道水を少し流しながら水洗いしてください。水洗い後には乾いたやわらかい布で水分を十分に拭き取ってください。
- 防水パッキンやパッキンの当たる面にゴミや砂が付いたときは、よく拭き取ってからご使用ください。パッキンやパッキンの当たる面に傷が付いていたり、へこんだり、パッキンがはがれると防水性能が損なわれます。このような場合は、当社のサービス窓口にご相談ください。
- 汚れのひどいときや海水がかかったときは、電源が切れていること、バッテリー／カードカバーと端子カバーが確実に閉まっていることを確認してから、水道水を少し流しながら水洗いするか、底の浅い洗面器などに真水をため、短時間（2～3分）でカメラをつけ置き洗いしてください。

- 石けん水・中性洗剤・アルコールなどでの洗浄は防水効果を損ないますので避けてください。
- カメラの防水性能を維持するために、1年に1度は防水パッキンの交換をお勧めします。パッキンの交換については、当社のサービス窓口にご相談ください。（有料）
- 本製品の付属品には防水性能はありません。

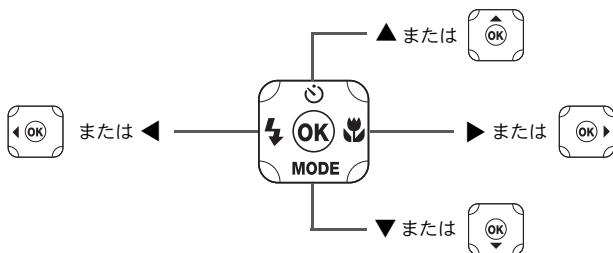
目次

音声の録音と再生 217

設定 225

パソコンと接続する 253

付録 279

本書では、十字キーの操作を次のように表記しています。

操作説明中で使用されている表記の意味は次のとおりです。

☞	関連する操作の説明が記述されているページを記載しています。
メモ	知っておくと便利な情報などを記載しています。
注意	操作上の注意事項などを記載しています。
📷モード	静止画と動画の撮影をするモードです。本書では、静止画を撮影するモードを「静止画撮影モード」、動画を撮影するモードを「🎥モード」と表記します。
▶モード	静止画と動画、音声を再生するモードです。

本書の構成

本書は、次の章で構成されています。

1 準備 ――――――――――――――――――――――――――――――

お買い上げ後、写真を撮るまでの準備操作を説明しています。撮影をはじめる前に必ずお読みになり、操作をしてください。

2 機能共通操作 ―――――――――――――――――――――――――

各ボタンの機能やメニューの設定方法など、各機能に共通する操作を説明しています。詳しい内容は、3章以降をご覧ください。

3 撮影 ――――――――――――――――――――――――――――――

さまざまな撮影方法や、撮影に関する機能の設定方法を説明しています。

4 画像の再生と消去 ――――――――――――――――――――――

静止画や動画をカメラやテレビで再生する方法とカメラから消去する方法を説明しています。

5 画像の編集と印刷 ――――――――――――――――――――――

撮影した静止画の印刷や、カメラでの編集方法を説明しています。

6 音声の録音と再生 ――――――――――――――――――――――

音声の録音や静止画像に音声（ボイスメモ）を追加する方法、音声の再生を説明しています。

7 設定 ――――――――――――――――――――――――――――――

カメラの機能の設定方法を説明しています。

8 パソコンと接続する ―――――――――――――――――――――

カメラとパソコンのつなぎ方や、付属ソフトウェアのインストール方法と概要を説明しています。

9 付録 ――――――――――――――――――――――――――――――

困ったときの対処方法や、別売品のご紹介などをしています。

このカメラの楽しみ方

このカメラでは、一般的な写真撮影のほか、いろいろなシーンに応じたバリエーションに富んだ撮影方法がお楽しみいただけます。ここでは、このカメラの特長的な楽しみ方をご紹介します。詳しい操作方法は、各操作説明のページをご覧ください。

アウトドアシーンで威力を発揮！

タフなボディに防水・防塵性能を装備。たとえばフィッシング中の水しぶきや、トレッキング中の突然の雨や砂ぼこりにも安心して使えます。

海で、山で、川で、撮影フィールドが広がる機能

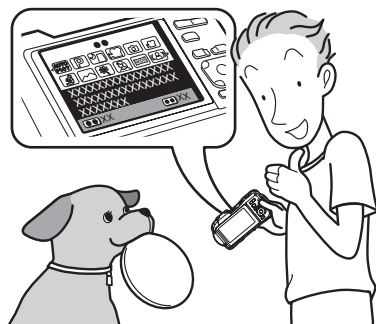
- 水深10m防水性能
- 連続2時間の水中撮影
- ロック機構(※1)
- 耐衝撃性能(※2)
- レンズ保護ガラスに撥水コーティング

（※1）バッテリー／カードカバーと端子カバーにロック機構を採用しています。カバーの内側は防水・防塵性能を備えていません。水中や浜辺などカメラが濡れたり汚れやすい環境では、バッテリー／カードカバーと端子カバーを確実にロックしてください。
（※2）このカメラの耐衝撃性能は、MIL-Standard 810F Method 516.5-Shockの測定方法に準じた、当社独自の基準（高さ:1.5m、落下面:厚さ5cm合板）での落下テストをクリアしています。

- 本製品をぶつけたり落下させたりなどの衝撃を与えた場合、防水性能は保証しません。
- すべての条件で無破損・無故障を保証するものではありません。

- 葉脈や小さな昆虫標本などを細密に撮影できるデジタル顕微鏡モード（p.98）。
- 自慢の釣果写真を魚拓風画像に変える魚拓フィルター（p.195）。

撮影も再生も、カメラがナビゲートしてくれる！

少ないボタンで操作ができるカンタン設計。いろいろな撮影シーンで最適な設定を選べる「撮影モード」（p.78）も、再生・編集を楽しむための「再生モード」（p.166）も、わかりやすいアイコンを選ぶだけでOK。各モードの機能や使い方も、画像モニターに表示されるガイドで確認できる親切設計です。

- モードパレットでモードを選ぶと、その説明を表示（p.77、p.164）。
- グリーンモードを使うと、標準設定で手軽に撮影可能（p.85）。

人物撮影が得意！

人物の顔を認識してピントや露出を合わせる「顔検出」機能を搭載。最大で32人の顔を認識（※1）するので、集合写真もキレイに撮影できます。人物が笑顔になったら自動的にシャッターを切ったり、まばたきしたことをお知らせするだけでなく、自分撮りのときに画面のどのあたりに顔があるかも教えてくれる（※2）ので、ベストショットがたくさん撮れます。さらに再生時には、人物の顔を順に拡大して再生できるので、表情の確認も簡単です。

※1 画面上に表示できる顔検出枠は、最大31個です。
※2 顔の位置をお知らせできるのは、2人までです。

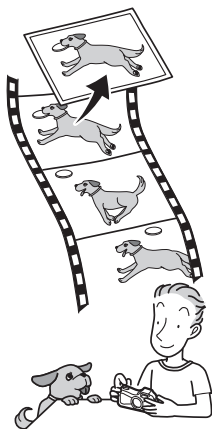
- **人物の顔を認識する顔検出機能（p.79）。**
- **人物をキレイに撮影する撮影モード（p.91）。**
- **みんなの顔が確認しやすい顔アップ再生（p.172）。**
- **画面上の顔の位置を教えてくれる自分撮りアシスト機能（p.82）。**

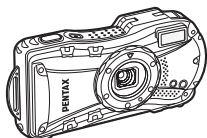
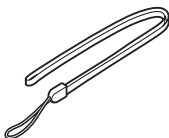
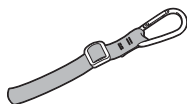
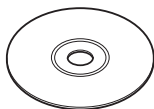
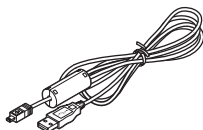
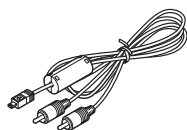
動画撮影の機能が充実！

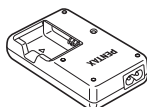
手ぶれ補正機能を使って動画撮影時のぶれを補正（Movie SR）することができます（p.151）。1280×720のハイビジョンサイズ対応なので、大きな画面でもきれいな動画が見られます。

- **お子様やペットの成長記録に、躍動感あふれる動画撮影を（p.148）。**

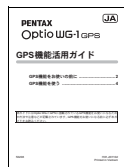
パソコンなしでも、カメラの中で楽しめる様々な機能が充実！

パソコンに接続して画像を転送しなくても、画像の再生や編集などが楽しめる様々な機能が充実。パソコンを起動するのが面倒だな、というときでも、これ一台で撮影から画像加工、動画の編集まで楽しめます（p.186）。

- **カメラでの画像再生時に、リサイズ（p.186）、トリミング（p.187）、赤目補正（p.201）が可能。**
- **動画の分割、動画から静止画を取り出すといった動画編集が可能（p.209）。**

主な同梱品の確認

本体
Optio WG-1 GPS／
Optio WG-1

ストラップ
O-ST104（※）

カラビナストラップ
O-ST117（WG-1 GPS）（※）
O-ST118（WG-1）（※）

ソフトウェア（CD-ROM）
S-SW117

USBケーブル
I-USB7（※）

AVケーブル
I-AVC7（※）

充電式リチウムイオン
バッテリー D-LI92（※）

バッテリー充電器
D-BC92（※）

ACコード
D-CO24J（※）

マクロスタンド
O-MS1

GPS機能活用ガイド
（WG-1 GPSのみ）

使用説明書（本書）
簡単ガイド
保証書

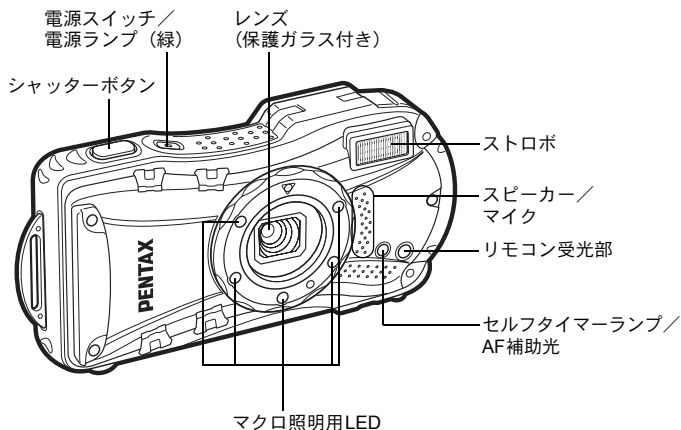
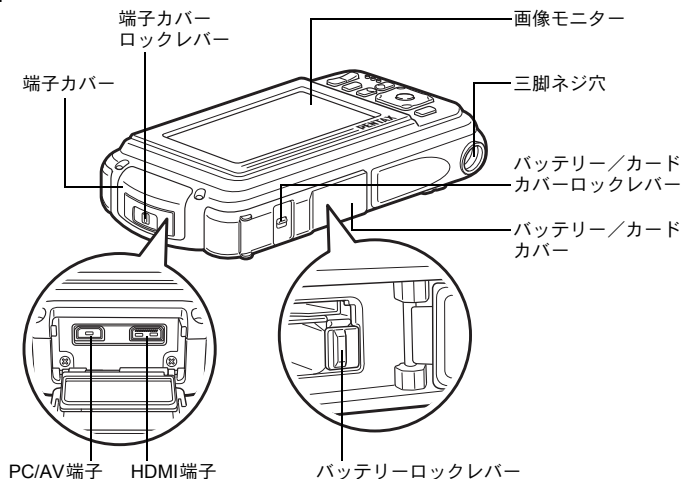
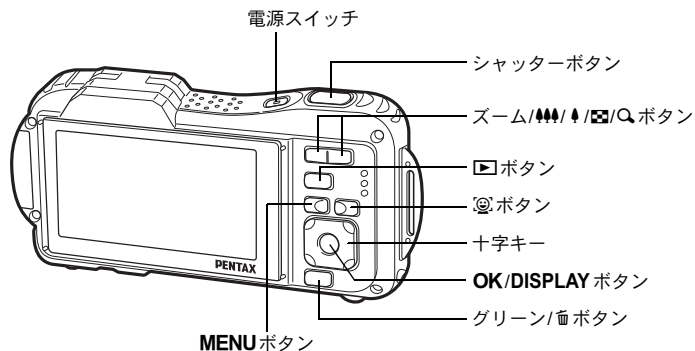
（※）の製品は、別売アクセサリーとしてもご用意しております。
（バッテリー充電器とACコードはセット（バッテリー充電器キット K-BC92J）でのみの販売となります。）
その他の別売アクセサリーについては、「別売アクセサリー一覧」（p.293）をご覧ください。

各部の名称

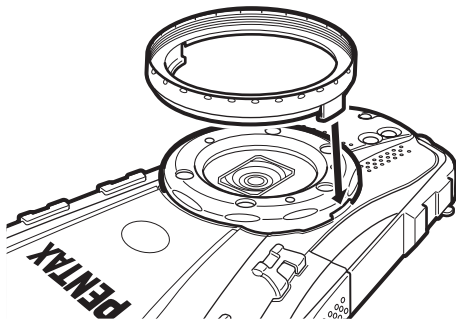
前面

電源スイッチ／
電源ランプ（緑）
レンズ
（保護ガラス付き）
シャッターボタン
ストロボ
スピーカー／
マイク
リモコン受光部
セルフタイマーランプ／
AF補助光
マクロ照明用LED
PENTAX

背面

端子カバー
ロックレバー
画像モニター
端子カバー
三脚ネジ穴
PENTAX
バッテリー／カード
カバーロックレバー
バッテリー／カード
カバー
PC/AV端子
HDMI端子
バッテリーロックレバー

操作部の名称

各ボタンの機能は、「ボタンの機能を使用する」（p.60～63）をご覧ください。

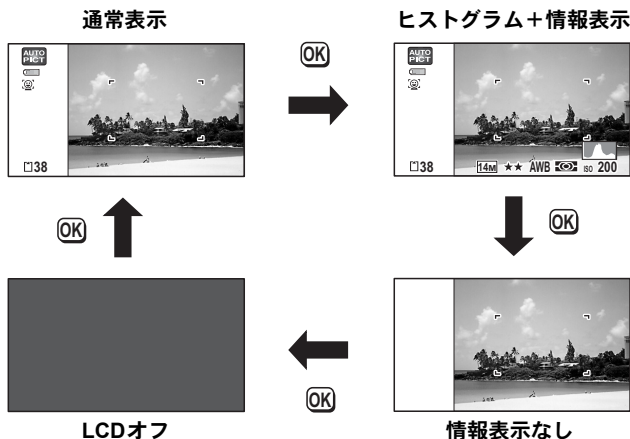
マクロスタンドについて

付属のマクロスタンド（O-MS1）を使うと、デジタル顕微鏡モード（p.98）での撮影時の手ぶれを防ぐことができます。2箇所のツメをマクロ照明用LED部の上下に差し込んでください。取り付け・取外しのときは、ツメのない部分を持ってください。

* マクロスタンドを使用する場合、被写体に凹凸があると、ピントが合わないことがあります。

画像モニターの表示

モードの表示

OK/DISPLAYボタンを押すたびに、画像モニターの表示が「通常表示」「ヒストグラム＋情報表示」「情報表示なし」「LCDオフ」に切り替わります。

- LCDオフの時にも、すべてのボタンは通常通り使用できます。シャッターボタンを押せば、通常通り撮影できます。
- 手ぶれしやすい条件のとき、シャッターボタンを半押しするとが表示されます。手ぶれを防ぐには、三脚を使い、セルフタイマーまたはリモコン（別売）での撮影が有効です（p.101、p.104）。
- （フレーム合成）、（ペット）、（パノラマ）モードでは、LCDオフへの切り替えができません。
- （グリーン）、WIDE（デジタルワイド）モードでは、**OK/DISPLAY**ボタンを押して表示を切り替えることはできません。
- （デジタル顕微鏡）モードでは、通常表示と情報表示なしのみ**OK/DISPLAY**ボタンで切り替えできます。

静止画撮影モード　通常表示

1 撮影モード（p.77）	**12** ドライブモード（p.101～p.108）
2 バッテリー残量表示（p.42）	**13** フォーカスモード（p.117）
3 顔検出アイコン（p.80）	**14** Eye-Fi通信状態表示（p.243）
4 日付写し込み設定中（p.143）	**15** デジタルズーム／インテリジェントズーム表示（p.87）
5 露出補正値（p.131）	**16** フォーカスフレーム（p.74）
6 シャッタースピード	**17** 現在の日時（p.55）
7 絞り値	**18** ワールドタイム設定中（p.234）
8 手ぶれ補正アイコン（p.133）	**19** D-Range設定（p.132）
9 メモリー状態表示（p.49）	**20** GPS取得情報表示（Optio WG-1 GPSのみ）
10 撮影可能枚数	
11 ストロボモード（p.115）	

※ 6・7は、シャッターボタンを半押ししたときのみ表示されます。

※ 8は、「撮影」メニューの「手ぶれ補正」が「☑（オン）」に設定されていると、が表示されます。「手ぶれ補正」が「□（オフ）」に設定されていて、手ぶれの危険がある場合にシャッターボタンを半押しすると、が表示されます。

※ 13は、フォーカスモードが **AF** に設定されているときにオートマクロ機能が作動するとが表示されます（p.117）。

※ 14の表示は「🔧 設定」メニューの「Eye-Fi」の設定によって変わります。

Eye-Fi •)) Eye-Fi通信中。「Eye-Fi」が☑に設定されていて、通信を行っているか、アクセスポイントを探しているとき

Eye-Fi •-- Eye-Fi通信待機中。「Eye-Fi」が☑に設定されていて、通信を行っていないとき

Eye-Fi Eye-Fi通信禁止。「Eye-Fi」が□に設定されているとき

Eye-Fi ⚠ Eye-Fiバージョンエラー。Eye-Fiカードのバージョンが古いとき

※ 17は、電源をオンにしてから2秒間だけ表示されます。

※ 19の表示は、「📷 撮影」メニューの「D-Range 設定」の設定によって変わります。

DH 「ハイライト補正」が☑に設定されているとき

DS 「シャドー補正」が☑に設定されているとき

D 「ハイライト補正」と「シャドー補正」の両方が☑に設定されているとき

「ハイライト補正」と「シャドー補正」の両方が□（オフ）に設定されているときは何も表示されません。

※ 20の表示は、「🔧設定」メニューの「GPS」の設定によってかわります。

GPS 「GPS」で「GPS測位」が☑（オン）に設定されていて、GPS衛星からの電波を受信できているとき

GPS 「GPS」で「GPS測位」が☑（オン）に設定されているが、GPS衛星からの電波を受信できていないとき

GPS⚠ GPSエラー（*）

(*) いったん電源を切り、バッテリーを入れ直してから再度、電源を入れることで、エラーが解消します。それでもGPS⚠が表示される場合は内蔵GPSユニットの故障が考えられますので、当社サービス窓口にご相談ください。

「GPS測位」が□（オフ）に設定されているときは何も表示されません。

※ 撮影モードによっては表示されない情報もあります。

静止画撮影モード　ヒストグラム＋情報表示／情報表示なし

「ヒストグラム＋情報表示」ではA1～A21・B3が表示されます。「情報表示なし」ではB3のみ表示されます。

A1　撮影モード（p.77）
A2　バッテリー残量表示（p.42）
A3　顔検出アイコン（p.80）
A4　日付写し込み設定中（p.143）
A5　露出補正値（p.131）
A6　手ぶれ補正アイコン（p.133）
A7　メモリー状態表示（p.49）
A8　撮影可能枚数
A9　ストロボモード（p.115）
A10 ドライブモード（p.101～p.108）
A11 フォーカスモード（p.117）
A12 Eye-Fi通信状態表示（p.243）
A13 デジタルズーム／インテリジェントズーム表示（p.87）
A14 ヒストグラム（p.33）
A15 感度（p.129）
A16 ワールドタイム設定中
A17 D-Range設定（p.132）
A18 記録サイズ（p.123）
A19 画質（p.125）
A20 ホワイトバランス（p.126）
A21 測光方式（p.128）
A22 GPS取得情報表示（Optio WG-1 GPSのみ）
B1　シャッタースピード
B2　絞り値
B3　フォーカスフレーム（p.74）

※ A6は、「撮影」メニューの「手ぶれ補正」が「☑（オン）」に設定されていると、が表示されます。「手ぶれ補正」が「□（オフ）」に設定されていて、手ぶれの危険がある場合にシャッターボタンを半押しすると、が表示されます。

※ 情報表示なしの場合、A6は電源をオンにした後、手ぶれ補正をオンに設定した後、撮影画面にした後、それぞれ2秒間だけ表示されます。

※ A12の表示は「🔧 設定」メニューの「Eye-Fi」の設定によって変わります。

Eye-Fi •)) Eye-Fi通信中。「Eye-Fi」が☑に設定されていて、通信を行っているか、アクセスポイントを探しているとき

Eye-Fi •-- Eye-Fi通信待機中。「Eye-Fi」が☑に設定されていて、通信を行っていないとき

Eye-Fi ⊘ Eye-Fi通信禁止。「Eye-Fi」が□に設定されているとき

Eye-Fi ⚠ Eye-Fiバージョンエラー。Eye-Fiカードのバージョンが古いとき

※ A17の表示は、「📷撮影」メニューの「D-Range設定」の設定によって変わります。

- 「ハイライト補正」が☑に設定されているとき
- 「シャドー補正」が☑に設定されているとき
- 「ハイライト補正」と「シャドー補正」の両方が☑に設定されているとき

「ハイライト補正」と「シャドー補正」の両方が□（オフ）に設定されているときは何も表示されません。

※ A22の表示は、「🔧設定」メニューの「GPS」の設定によってかわります。

- 「GPS」で「GPS測位」が☑（オン）に設定されていて、GPS衛星からの電波を受信できているとき
- 「GPS」で「GPS測位」が☑（オン）に設定されているが、GPS衛星からの電波を受信できていないとき
- GPSエラー（*）
  (*) いったん電源を切り、バッテリーを入れ直してから再度、電源を入れることで、エラーが解消します。それでも⚠が表示される場合は内蔵GPSユニットの故障が考えられますので、当社サービス窓口にご相談ください。

「GPS測位」が□（オフ）に設定されているときは何も表示されません。

※ B1・B2は、シャッターボタンを半押ししたときのみ表示されます。

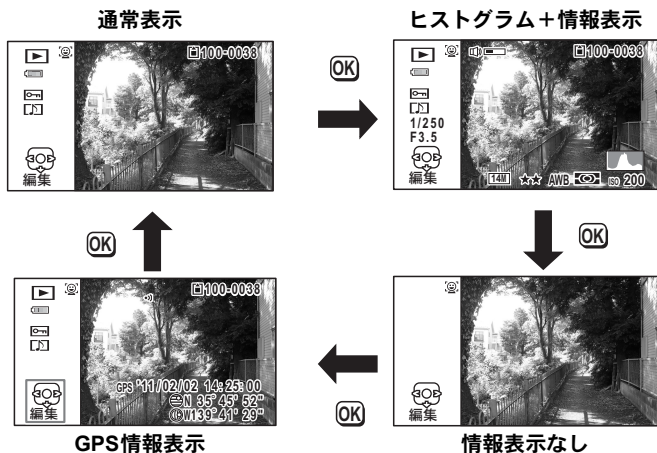
※ 撮影モードが AUTO PICT（オートピクチャー）のときは「情報表示なし」でも、シャッターボタンを半押しすると、A1の位置に選択されたモードが表示されます（p.83）。

※ 撮影モードによっては表示されない情報もあります。

※ 画面の中で明るすぎて白くとんでしまう部分がある場合、その部分が赤の点滅で警告表示されます。また暗すぎて黒くつぶれてしまう部分がある場合、その部分が黄色の点滅で警告表示されます。

▶モードの表示

再生時には、撮影したときの画像の情報が表示されます。**OK**/**DISPLAY**ボタンを押すと、表示が切り替わります。

- ボイスメモの再生中／動画の再生中／動画の一時停止中は**OK**/**DISPLAY**ボタンによる情報表示切り替えができません。
- GPS表示はOptio WG-1 GPSのみ表示できます。
  Optio WG-1では情報表示なしで**OK**ボタンを押すと通常表示に切り替わります。

再生モード　ヒストグラム＋情報表示
（説明のためにすべてを表示させたイラストで記載しています。）

撮影条件などを表示します。A1～A11は「通常表示」の場合にも表示されます。B1～B8は「ヒストグラム＋情報表示」のときにのみ表示されます。

A1　顔検出アイコン（p.79）
A2　再生モード表示
　　：静止画（p.160）
　　：動画（p.161）
　　：音声（p.220）
A3　バッテリー残量表示（p.42）
A4　画像プロテクト表示（p.178）
A5　ボイスメモ表示（p.223）
A6　十字キーガイド表示
A7　ファイル番号
A8　フォルダー番号（p.238）
A9　メモリー状態表示（p.49）
A10 Eye-Fi通信状態表示（p.243）
A11 音量表示
B1　シャッタースピード
B2　絞り値
B3　ヒストグラム（p.33）
B4　感度（p.129）
B5　記録サイズ（p.123）
B6　画質（p.125）
B7　ホワイトバランス（p.126）
B8　測光方式（p.128）

※ A1は、撮影時に顔検出した場合のみ表示されます。
※ A3は、通常表示時に2秒間何もボタン操作をしないと消えます。
※ A6は「情報表示なし」時でも表示されますが、2秒間何もボタン操作をしないと消えます。また「通常表示」「ヒストグラム+情報表示」時に2秒間何もボタン操作をしないと、「編集」の文字のみ消えます。
※ A11 は、動画／音声／ボイスメモ再生中に音量調節をしているときのみ表示されます（p.161、p.220、p.223）。
※「通常表示」時には、B4～B8の位置に、現在の日時が2秒間だけ表示されます。
※ 画面の中で明るすぎて白くとんでいる部分がある場合、その部分が赤の点滅で表示されます。また暗すぎて黒くつぶれている部分がある場合、その部分が黄色の点滅で表示されます。

再生モード　GPS情報表示（Optio WG-1 GPSのみ表示できます）

1 顔検出アイコン
2 再生モード表示
3 バッテリー残量表示
4 画像プロテクト表示
5 ボイスメモ表示
6 十字キーガイド表示
7 ファイル番号
8 フォルダー番号
9 メモリー状態表示
10 Eye-Fi通信状態表示
11 音量表示
12 GPS情報取得時刻
13 GPS取得緯度情報
14 GPS取得経度情報

※ 12は、GPSで取得した時刻が表示されます（カメラで設定された時刻ではありません）。

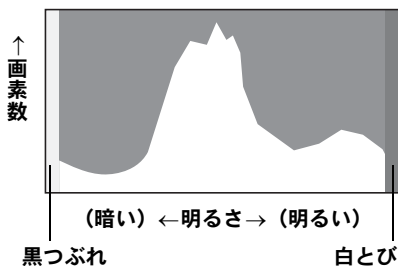
ガイド表示

操作中は、画像モニターにボタン操作のガイドが次のように表示されます。

▲	十字キー（▲）
▼	十字キー（▼）
◀	十字キー（◀）
▶	十字キー（▶）
MENU	**MENU**ボタン

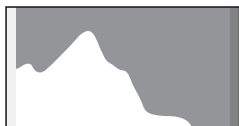
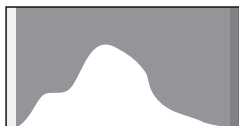
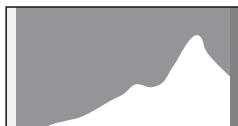
🔍	ズームボタン
OK	**OK/DISPLAY**ボタン
SHUTTER	シャッターボタン
●／🗑	グリーン/🗑ボタン
😊／😊	😊ボタン

ヒストグラム

ヒストグラムとは、画像の明るさの分布を表したグラフです。横軸は明るさ（左端は黒、右端は白）を、縦軸は各明るさごとの画素数を示します。
撮影前や撮影後にヒストグラムの形状を見ることで、画像の明るさと明暗差が適正かどうかを確認し、露出補正や撮り直しの判断に利用できます。

露出を補正する ☞p.131

画像の明るさを見る

画像の明るさが適正な画像では、グラフの山は中央にあります。しかし、暗い画像ではグラフの山は左側に偏り、明るい画像では右側に偏ります。

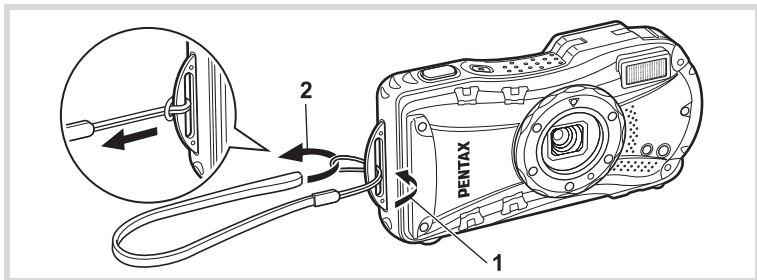
暗い画像

適正な明るさの画像

明るい画像

また、画像の中で、暗過ぎてヒストグラムの左端よりも左になる部分は真っ黒になり（黒つぶれ）、明る過ぎてヒストグラムの右端よりも右になる部分は真っ白になってしまいます（白とび）。
このカメラには黒つぶれ部分を黄色く、白とび部分を赤く点滅表示させる機能があります。

明暗差のバランスを見る

明暗差のバランスが取れた画像では、グラフの中央部がなだらかな山のピークになります。しかし、明暗差が激しく、中間的な明るさの部分が少ない画像では、左右に山のピークがあり、中央部分がくぼんだグラフになります。

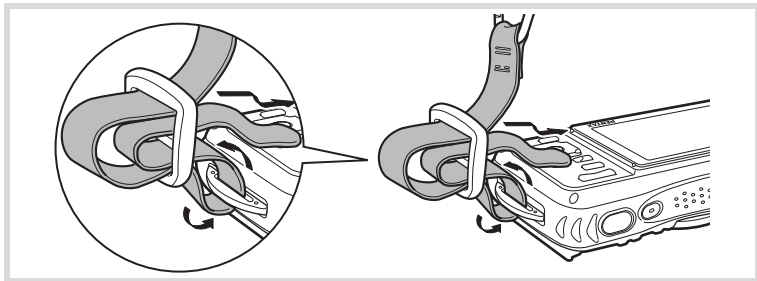
1 準備

ストラップを取り付ける

付属のストラップ（O-ST104）を取り付けます。

1　ストラップの細いひもの部分を、本体のストラップ取り付け部に通す

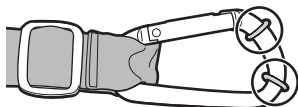
2　ストラップ端を細いひもの輪にくぐらせて引き締める

カラビナストラップを取り付ける

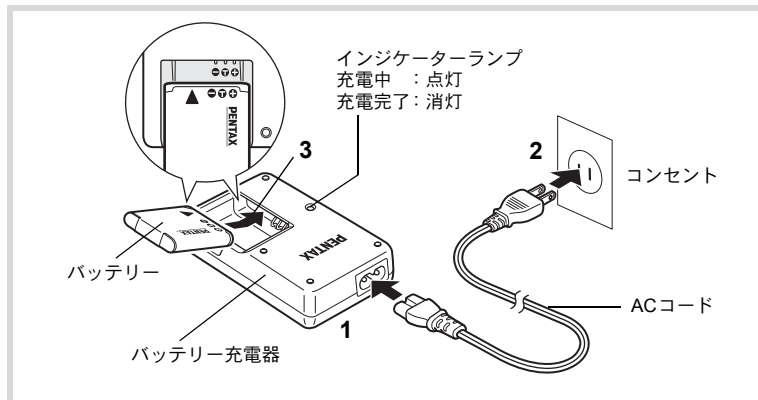
付属のカラビナストラップ（O-ST117／O-ST118）を取り付けます。

1　ストラップの先端を、本体のストラップ取り付け部に通す

2　ストラップの先端を留め具の内側に固定する

防傷ゴムリングについて

付属のカラビナストラップ（O-ST117／O-ST118）のカラビナ部には、画像モニターと接触した際の衝撃をやわらげ、モニター表面に傷がつきにくくするための、防傷ゴムリングが取り付けられています。
防傷効果を高めるために、ご使用前には必ず、ゴムリングを下図のように位置調整してください。

電源を準備する

バッテリーを充電する

はじめてご使用になるときや長時間使用しなかったとき、「電池容量がなくなりました」というメッセージが表示されたときは、付属のバッテリー充電器（D-BC92）で充電式リチウムイオンバッテリー（D-LI92）を充電してください。

1　バッテリー充電器にACコードを接続する

2　ACコードをコンセントに差し込む

3　PENTAXロゴ面を上にしてバッテリーをセットする

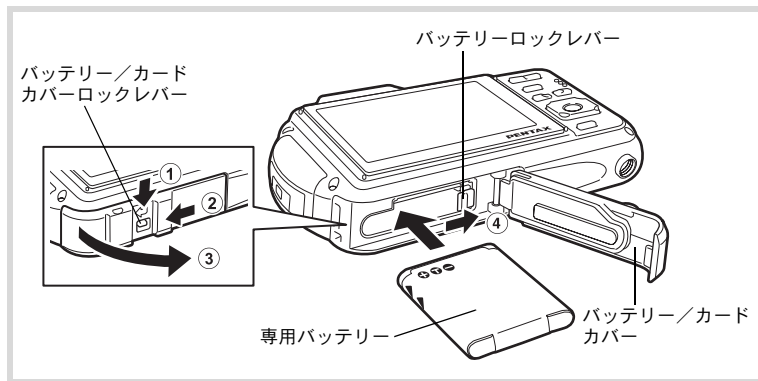
充電中はインジケーターランプが点灯します。
充電が完了すると、インジケーターランプが消灯します。

4　充電終了後、バッテリー充電器からバッテリーを取り出す

- 付属のバッテリー充電器D-BC92では、充電式リチウムイオンバッテリー D-LI92以外のバッテリーは充電しないでください。充電器の破損や発熱の原因となります。
- 正しく充電しても使用できる時間が短くなったらバッテリーの寿命です。新しいバッテリーと交換してください。
- バッテリーを正しい向きにセットしてもインジケーターランプが点灯しない場合は、バッテリーの異常です。新しいバッテリーと交換してください。

充電時間は、最大で約120分です（周囲の温度や充電状態によって異なります）。周囲の温度が0～40℃の範囲で充電してください。

バッテリーをセットする

付属の充電式リチウムイオンバッテリー（D-LI92）をセットします。はじめてご使用になるときは、バッテリーを充電してからセットしてください。

1　バッテリー／カードカバーを開ける

①の方向にバッテリー／カードカバーロックレバーを押しながら、②の方向にスライドさせ、③の方向に開けます。

2 バッテリーの PENTAX ロゴ面をカメラのレンズ側に向け、バッテリーの側面でバッテリーロックレバーを矢印④の方向に押しながら挿入する

ロックされるまでバッテリーを挿入してください。

注意 バッテリーは、必ずPENTAXロゴ面をカメラのレンズ側に向けて挿入してください。逆向きに挿入すると、カメラの電源が入らないだけでなく、故障の原因にもなります。

3 バッテリー／カードカバーを閉じる

バッテリー／カードカバーを②と反対方向に軽く押さえながらスライドさせ、カチッと音をたててロックされたことを確認します。

バッテリーを取り出す

1 バッテリー／カードカバーを開ける

2 バッテリーロックレバーを矢印④の方向に押す

バッテリーが少し飛び出します。落とさないように気をつけて引き抜いてください。

- バッテリー／カードカバーを開閉するときは、防水パッキンが外れるおそれがありますので、カメラの前後方向に無理な力を加えないでください。防水パッキンが正しい位置から外れると、カメラの防水性能が発揮できなくなります。
- バッテリー／カードカバーを閉じるときは、ロックがしっかりされていないと、カメラ内部に水・砂・泥が入る原因となります。
- 充電式リチウムイオンバッテリー D-LI92 が、このカメラの専用バッテリーです。他のバッテリーを使用すると、カメラが破損し作動しなくなることがあります。
- バッテリーは正しく入れてください。間違った向きに入れると故障の原因になります。
- 電源がONのときはバッテリーを取り出さないでください。
- バッテリーを半年以上長期保存する場合は、バッテリー充電器で30分程度充電し、本体から外した状態で保管してください。
  その後、半年から1年ごとに再充電してください。また、高温になる場所は避け、できるだけ室温以下を保持できるような場所に保管してください。
- 長期間本体にバッテリーをセットしないと、日時の設定がリセットされることがあります。
- カメラを長時間連続で使用した場合、本体やバッテリーが熱くなっていることがありますので、ご注意ください。
- バッテリーを交換する際は、カメラが完全に乾いてから、濡れたり汚れたりしやすい場所を避け、濡れた手をよく拭いてから行ってください。
- 使用環境温度が下がると、バッテリーの性能が低下します。寒冷地で使用する場合は、予備のバッテリーを用意して衣服の中で保温するなどしてご使用ください。なお、低温によって低下した電池の性能は、常温の環境で元に戻ります。

- **静止画撮影可能枚数と動画撮影、音声録音、再生時間の目安**
  （23℃・画像モニター点灯・専用バッテリーフル充電時）

静止画撮影可能枚数※1（ストロボ使用率50％）	動画撮影時間※2	音声録音時間※2	再生時間※2
約260枚	約120分	約350分	約280分

※1　撮影可能枚数は CIPA 規格に準じた測定条件による目安であり、使用条件により変わります。（CIPA規格抜粋：画像モニターON、ストロボ使用率50％、23℃）

※2　時間は当社の測定条件による目安であり、使用条件により変わります。

- 使用環境の温度が下がると、バッテリーの性能が低下することがあります。
- 海外旅行など長期のお出かけ、寒冷地で撮影する場合や、大量に撮影する場合は、予備のバッテリーをご用意ください。

• バッテリーの残量表示

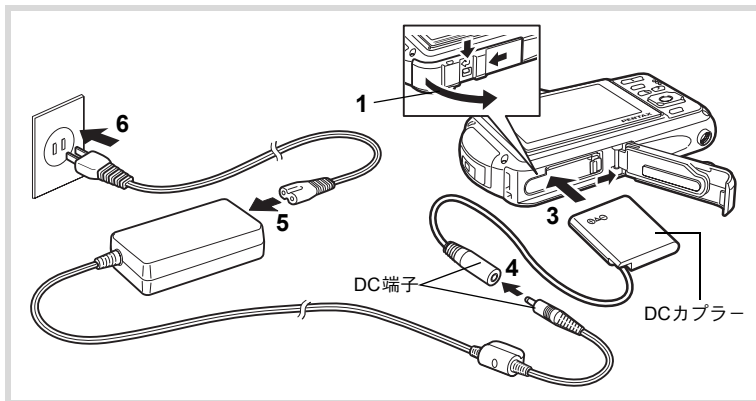
画像モニターの表示で、バッテリーの残量が確認できます。

画像モニター表示	バッテリーの状態
（緑）	バッテリーがまだ十分に残っています。
（緑）	少し減っています。
（黄）	だいぶ減っています。
（赤）	残量がほとんどありません。
「電池容量がなくなりました」	メッセージ表示後、電源が切れます。

● リサイクルについて

このマークは小型充電式電池のリサイクルマークです。ご使用済みの小型充電式電池を廃棄するときは、端子部に絶縁テープを貼って、小型充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

ACアダプターを使用する

長時間ご使用になるときや、パソコンと接続するときは、別売のACアダプターキット（K-AC92J）のご使用をお勧めします。

1 カメラの電源が切れていることを確認してから、バッテリー／カードカバーを開ける

2 バッテリーを取り出す

バッテリー／カードカバーの開け方と、バッテリーの取り出し方は、p.39～p.40を参照してください。

3 DCカプラーを挿入する

DCカプラーの側面でバッテリーロックレバーを押しながら挿入し、挿入後はDCカプラーがロックされたことを確認してください。
DCカプラーを挿入すると、バッテリー／カードカバーは閉じなくなります。ACアダプター使用中は開けたまま、無理に閉じないでください。

4 DCカプラーのDC端子に、ACアダプターのDC端子を接続する

5 ACコードをACアダプターに接続する

6 電源プラグをコンセントに差し込む

- AC アダプターの接続／取り外しは、必ずカメラの電源を切った状態で行ってください。
- 電源と接続ケーブルはしっかりと差し込んでください。SD メモリーカードまたは内蔵メモリーにデータを記録中にケーブルが外れると、データが破壊されることがあります。
- ACアダプターを使用する場合は、火災や感電に十分ご注意ください。ご使用の前に、必ず「バッテリー充電器とACアダプターについて」(p.3) をお読みください。
- ACアダプターをご使用になるときは、ACアダプターキットK-AC92Jの使用説明書をあわせてご覧ください。
- ACアダプター接続時は、DCカプラーのコードがカメラ底面から引き出されるため、卓上などにカメラを立てて置くことができません。
- バッテリー／カードカバーを開閉するときは、防水パッキンが外れるおそれがありますので、カメラの前後方向に無理な力を加えないでください。防水パッキンが正しい位置から外れると、カメラの防水性能が発揮できなくなります。

SDメモリーカードをセットする

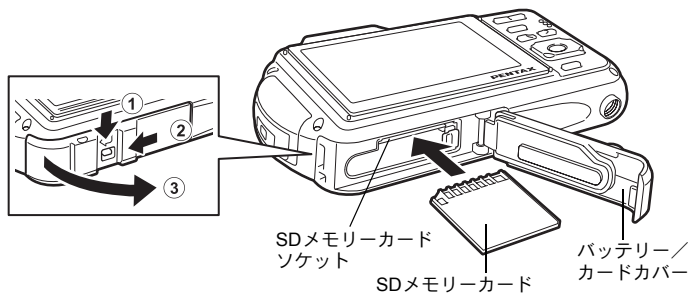
このカメラでは、SDメモリーカード、SDHCメモリーカードまたはSDXCカードが使用できます（本書では総称して「SDメモリーカード」と表記します）。撮影した画像や録音した音声はカメラにセットしたSDメモリーカードに記録されます。SDメモリーカードをセットしていないときは、内蔵メモリーに記録されます（p.49）。

注意

- **未使用または他のカメラやデジタル機器で使用したSDメモリーカードは、必ずこのカメラでフォーマット（初期化）してからご使用ください。フォーマットについては「フォーマットする」（p.226）をご覧ください。**
- SDメモリーカードのセット／取り出しは、必ずカメラの電源を切った状態で行ってください。
- SDメモリーカードを交換する際は、カメラが完全に乾いてから、濡れたり汚れたりしやすい場所を避け、濡れた手をよく拭いてから行ってください。
- バッテリー／カードカバーを開閉するときは、防水パッキンが外れるおそれがありますので、カメラの前後方向に無理な力を加えないでください。防水パッキンが正しい位置から外れると、カメラの防水性能が発揮できなくなります。

- 撮影できる静止画の枚数は、使用するSDメモリーカードの容量と画像の記録サイズ・画質によって異なります（p.295）。
- SDメモリーカードにアクセス中（データの記録や読み出し中）は、電源ランプが点滅します。

データバックアップのお勧め

内蔵メモリーに記録されたデータは、故障などの原因でまれに読み出しができなくなることがあります。大切なデータは、パソコンなどを利用して、内蔵メモリーとは別の場所に保存しておくことをお勧めします。

1 バッテリー／カードカバーを開ける

①の方向にバッテリー／カードカバーロックレバーを押しながら、②の方向にスライドさせ、③の方向に開けます。

2 SD メモリーカードのラベル面をカメラのレンズ側に向け、カメラのSDメモリーカードソケットに挿入する

カードは奥までしっかり押し込んでください。カードがしっかり入っていないと、画像や音声が正常に記録されないことがあります。

3 バッテリー／カードカバーを閉じる

バッテリー／カードカバーを②と反対方向に軽く押さえながらスライドさせ、カチッと音をたててロックされたことを確認します。

SDメモリーカードを取り出す

1 バッテリー／カードカバーを開ける

2 SDメモリーカードを中に押し込む

SDメモリーカードが少し飛び出すので、引き抜いてください。

バッテリー／カードカバーを閉じるときは、ロックがしっかりされていないと、カメラ内部に水・砂・泥が入る原因となります。

SDメモリーカード使用上の注意

- SDメモリーカードには、ライトプロテクトスイッチが付いています。スイッチをLOCK側に切り替えると、新たにデータを記録できなくなり、カメラやパソコンで削除やフォーマットができなくなります。
  画像モニターにはと表示されます。
- カメラ使用直後にSDメモリーカードを取り出すと、カードが熱くなっている場合がありますのでご注意ください。
- SDメモリーカードへのデータの記録／再生中、またはUSBケーブルでパソコンと接続中には、必ず、カードカバーを閉じ、カードを取り出したり電源を切ったりしないでください。データの破損やカードの破損の原因となります。
- SDメモリーカードは、曲げたり強い衝撃を与えないでください。また、水に濡らしたり、高温になる場所に放置しないでください。
- SDメモリーカードのフォーマット中には絶対にカードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- SDメモリーカードに保存したデータは、以下の条件で消去される場合がありますので、ご注意ください。消去されたデータについては、当社では一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
  (1) 使用者がSDメモリーカードの取り扱いを誤ったとき
  (2) SDメモリーカードを静電気や電気ノイズのある場所に置いたとき
  (3) 長期間カードを使用しなかったとき
  (4) SDメモリーカードにデータを記録／読み出し中にカードを取り出したり、バッテリーを抜いたとき
- 長期間使用しない場合は、保存したデータが読めなくなることがあります。必要なデータは、パソコンなどへ定期的にバックアップをするようにしてください。
- 静電気や電気ノイズの発生しやすい場所での使用や保管は避けてください。
- 急激な温度変化や、結露が発生する場所、直射日光のあたる場所での使用や保管は避けてください。
- 一部の書き込み速度の遅いSDメモリーカードでは、カードに空き容量があっても動画撮影時に途中で撮影が終了したり、撮影／再生時に動作が遅くなる場合があります。
- SDメモリーカードご購入の際は、あらかじめ動作確認済みのものであるかを当社ホームページでご確認いただくか、お客様相談センターにお問い合わせください。

SDメモリーカードに記録できる枚数

撮影した画像の記録サイズなどによって、画像のファイルサイズは異なり、SDメモリーカードに記録できる枚数は異なります。

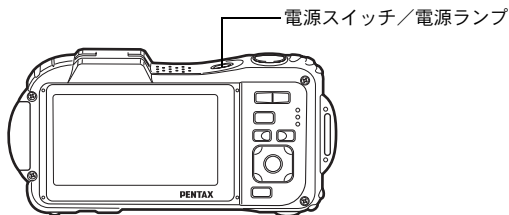
静止画の記録サイズの設定は、「📷撮影」メニューで行います。

記録サイズを選択する ☞p.123

動画の記録サイズとフレームレートの設定は、「📷撮影」メニューの「動画」で行います。

動画の記録サイズとフレームレートを選択する ☞p.150

SDメモリーカードに記録できる撮影可能枚数／時間の目安については、「主な仕様」（p.294）をご覧ください。

電源をON／OFFする

1 電源スイッチを押す

電源が入り、電源ランプと画像モニターが点灯します。
カメラの電源を入れたときに、「言語設定」あるいは「日時設定」の画面が表示された場合は、p.51の手順に従って設定してください。

2 もう一度電源スイッチを押す

電源が切れ、電源ランプと画像モニターが消灯します。

静止画を撮影する ☞p.74

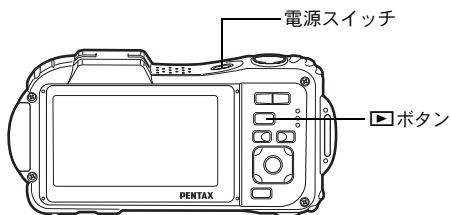
カードチェック

電源を入れると、カードチェックが行われ、メモリーの状態が表示されます。

メモリー状態表示

[SDカードアイコン]	SDメモリーカードがセットされています。画像や音声は、SDメモリーカードに記録されます。
[内蔵メモリーアイコン]	SDメモリーカードがセットされていません。画像や音声は、内蔵メモリーに記録されます。
[ロックアイコン]	SDメモリーカードのライトプロテクトスイッチがLOCKになっています(p.47)。画像や音声の記録はできません。

再生起動モード

再生起動モードは、撮影をしないで、すぐに画像や音声を再生したいときに使用します。

1 ▶ボタンを押しながら、電源スイッチを押す

画像モニターが点灯し、再生モードで起動します。

メモ

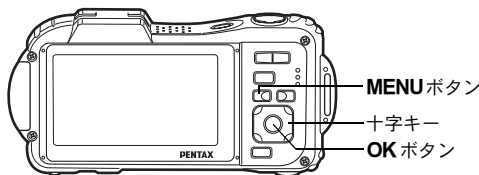
再生モードで起動後に📷モードへ切り替えるときは、▶ボタンを押すかシャッターボタンを半押ししてください。

静止画を再生する ☞p.160

初期設定をする

カメラの電源を入れて「Language/言語」画面が表示されたら、下記の「言語を設定する」の手順で言語を「日本語」に、「日時を設定する」（p.55）の手順で現在の日時を設定してください。

設定した「言語」と「日時」はあとから変更することもできます。操作方法は下記のページをご覧ください。
- 言語を変更したいとき：「表示言語を変更する」（☞p.237）
- 日時を変更したいとき：「日時を変更する」（☞p.229）

言語を設定する

1　十字キー（▲▼◀▶）で「日本語」を選ぶ

Language/言語		
English	日本語	Türkçe
Français	Dansk	Ελληνικά
Deutsch	Svenska	Русский
Español	Suomi	ไทย
Português	Polski	한국어
Italiano	Čeština	中文繁體
Nederlands	Magyar	中文简体
MENU取消		OK決定

2　OKボタンを押す

日本語の「初期設定」画面が表示されます。「現在地」が東京、「夏時間」がDST OFFに設定されていたら、手順3に進みます。
それ以外の設定になっていたら、「現在地と夏時間を設定する」（p.54）に進んでください。

3 十字キー（▼）を2回押して「設定完了」を選ぶ

4 OK ボタンを押す

「日時設定」画面が表示されます。「日時を設定する」（p.55）に進んでください。

もし誤って日本語以外の言語を選んで次に進んでしまったら、あわてず下記の操作で、日本語の表示に設定し直してください。

●「Language/言語」画面で、日本語以外の言語を選んでOKボタンを押してしまった！

1 十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼◀▶）で「日本語」を選んで、OKボタンを押す

日本語の「初期設定」画面が表示されます。

● 手順2で外国語の設定のまま次の画面を表示させてしまった！

1 MENUボタンを押す

設定画面を終了させて、一旦、撮影できる状態にします。

2 MENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

3 十字キー（▶）を押す

4 十字キー（▼▲）を押して、「Language/言語」を選ぶ

5 十字キー（▶）を押す

「Language/言語」画面が表示されます。

6 十字キー（▲▼◀▶）で「日本語」を選ぶ

7 OKボタンを押す

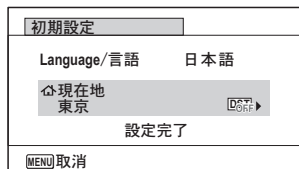
日本語の「設定」メニューが表示されます。

ここまでの操作で、「Language/言語」の設定が「日本語」に設定し直されました。「現在地」と「日時」を設定し直す必要がある場合は、下記のページを参照してください。

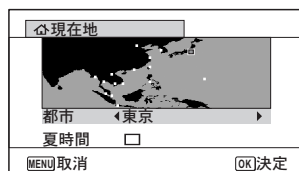
- 現在地を変更したいとき：「ワールドタイムを設定する」（☞p.234）
- 日時を変更したいとき：「日時を変更する」（☞p.229）

現在地と夏時間を設定する

3 十字キー（▼）を押す

選択枠が「⌂現在地」に移動します。

4 十字キー（▶）を押す

「⌂現在地」画面が表示されます。

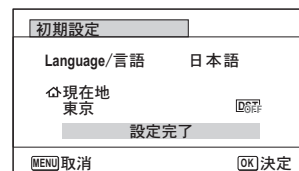
5 十字キー（◀▶）で「東京」を選ぶ

6 十字キー（▼）を押す

選択枠が「夏時間」に移動します。

7 十字キー（◀▶）で□（オフ）に設定する

8 OKボタンを押す

「初期設定」画面が表示されます。

9 十字キー（▼）で「設定完了」を選ぶ

10 OKボタンを押す

「日時設定」画面が表示されます。引き続き、日付と時刻を設定します。

初期設定で「現在地」を変更すると、ビデオ出力方式（NTSC／PAL）が選んだ都市の方式に自動的に設定されます。設定されるビデオ出力方式と、初期設定後の変更のしかたについては下記のページをご覧ください。
- 初期設定で設定されるビデオ出力方式：「都市名一覧」（☞p.292）
- ビデオ出力方式を変更したいとき：「ビデオ出力方式を選択する」（☞p.241）

日時を設定する

日付の表示スタイルと現在の日付・時刻を設定します。

1 十字キー（▶）を押す

選択枠が「年/月/日」に移動します。

2 十字キー（▲▼）で日付の表示スタイルを選ぶ

「年/月/日」「月/日/年」「日/月/年」から選択します。

3 十字キー（▶）を押す

選択枠が「24h」に移動します。

4 十字キー（▲▼）で「24h」（24時間表示）または「12h」（12時間表示）を選ぶ

5 十字キー（▶）を押す

選択枠が「表示スタイル」に戻ります。

6 十字キー（▼）を押す

選択枠が「日付」に移動します。

日時設定
表示スタイル　年/月/日 24h
日付 ▸ 2011/01/01
時刻 00:00
設定完了
MENU 取消

7 十字キー（▶）を押す

選択枠が「西暦年」に移動します。

8 十字キー（▲▼）で西暦年を設定する

同様に「月」「日」を設定します。
続いて時刻を設定します。
手順4で「12h」を選択した場合は、時刻調整に連動してAM／PMが切り替わります。

日時設定
表示スタイル　年/月/日 24h
日付 ◂2011/01/01
時刻 00:00
設定完了
MENU 取消

9 十字キー（▼）で「設定完了」を選ぶ

日時設定
表示スタイル　年/月/日 24h
日付 2011/01/01
時刻 00:00
設定完了
MENU 取消　OK 決定

10 OKボタンを押す

日時が確定します。

メモ
手順10で**OK**ボタンを押すと、0秒にセットされます。時報に合わせて**OK**ボタンを押すと、秒単位まで正確に日時が設定できます。

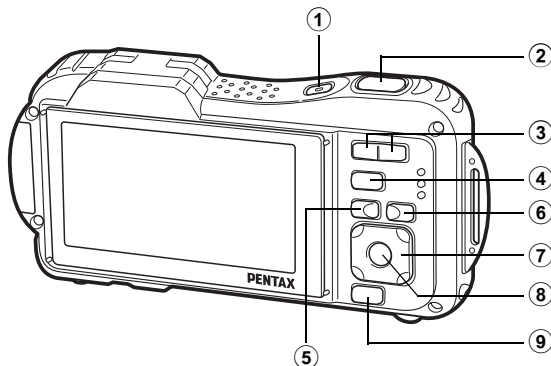
注意
初期設定の途中で**MENU**ボタンを押すと、それまで設定した内容がキャンセルされますが、撮影することはできます。この場合は、次回電源を入れたときに再度、初期設定を行う画面が表示されます。

設定した「言語」「日時」「現在地」「夏時間」はあとから変更することができます。操作方法は下記のページをご覧ください。

- 言語を変更したいとき：「表示言語を変更する」（☞p.237）
- 日時を変更したいとき：「日時を変更する」（☞p.229）
- 現在地、夏時間のオン／オフを変更したいとき：「ワールドタイムを設定する」（☞p.234）

2 機能共通操作

ボタンの機能を使用する

モード時

① **電源スイッチ**
電源を切ります（p.49）。

② **シャッターボタン**
静止画撮影モードでは、半押しするとピント合わせを行います（フォーカスモードが、**PF**、▲、**MF**のときを除く）（p.75）。
全押しすると、静止画を撮影します（p.75）。
（動画）、（マーメードムービー）モードでは、全押しすると動画の撮影を開始、終了します（p.146、p.149）。
（ボイスレコーディング）では、全押しすると音声の録音を開始、終了します（p.219）。

③ **ズーム/ / ボタン**
撮影する範囲を変えます（p.87）。

④ **ボタン**
モードに切り替えます（p.64）。

⑤ **MENUボタン**
「撮影」メニューを表示します（p.65）。

⑥ ボタン

顔検出機能（p.79）を切り替えます。ボタンを押すたびに、スマイルキャッチ→自分撮りアシスト→自分撮りアシスト＋スマイルキャッチ→顔検出オフ→顔検出オンと切り替わります。
（ペット）モードでは、ペットの選択／登録をします。

⑦ 十字キー

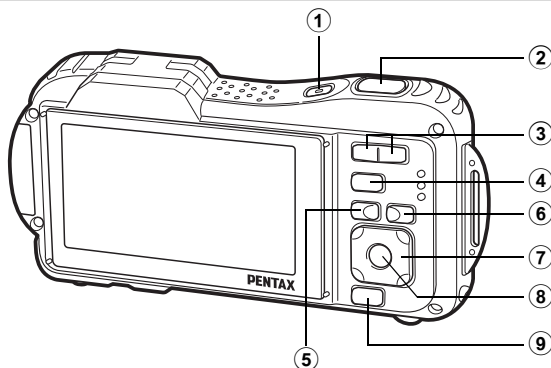
（▲）　：ドライブモードを切り替えます（p.101～p.108）。
（▼）　：撮影モードパレットを表示します（p.78）。
（◀）　：ストロボモードを切り替えます（p.115）。
（▶）　：フォーカスモードを切り替えます（p.117）。
（▲▼）：フォーカスモードがMFのときにピントを調整します（p.118）。

⑧ OK/DISPLAY ボタン

画像モニターに表示される情報を切り替えます（p.25）。

⑨ グリーンボタン

（グリーン）モードに移行します（p.85）。
特定の機能をすばやく呼び出します（p.137）。

▶モード時

① **電源スイッチ**
電源を切ります（p.49）。

② **シャッターボタン**
📷モードに切り替えます（p.64）。

③ **ズーム/▦/🔍ボタン**
1画面表示時に▦側を押すと6画面表示になります。もう一度▦側を押すと12画面表示になります（p.162）。🔍側を押すと、前の表示に戻ります。
1画面表示時に🔍側を押すと画像が拡大表示されます。▦側を押すと前の表示に戻ります（p.171）。
12画面表示時に▦側を押すと、フォルダー表示またはカレンダー表示になります（p.163）。
フォルダー表示時／カレンダー表示時に🔍側を押すと、12画面表示になります（p.163、p.164）。
動画／音声／ボイスメモ再生中は音量調節をします（p.161、p.220、p.223）。

④ **▶ボタン**
📷モードに切り替えます（p.64）。

⑤ **MENUボタン**
1画面表示時は、「🔧設定」メニューを表示します（p.65）。
再生モードパレット表示時は、1画面表示に戻ります（p.165）。

拡大表示／6画面表示／12画面表示時は、1画面表示に戻ります。
フォルダー表示時は、選択フォルダーの12画面表示に変わります（p.164）。
カレンダー表示時は、選択日付の12画面表示に変わります（p.164)。

⑥ 顔 ボタン

撮影時に顔検出が行われた画像を表示しているときに押すと、顔検出が行われた順に、被写体の顔がクローズアップ表示（顔アップ再生）されます（p.172）。

⑦ 十字キー

（▲）　：動画・音声を再生／一時停止します（p.161、p.220、p.223）。
（▼）　：再生モードパレットを表示します（p.166）。
再生中の動画・音声を停止します（p.161、p.221、p.223）。
（◀ ▶）：1画面表示時は、前後の画像・音声を表示します（p.160）。
動画再生時は、早送り／早戻し／コマ送り／コマ戻し／逆方向再生／順方向再生をします（p.161）。
音声再生時は、早送り／巻き戻し／インデックス位置への移動をします（p.220）。
（▲ ▼ ◀ ▶）：拡大表示時は、表示範囲を移動します（p.171）。
6画面表示／12画面表示時は画像、フォルダー表示時はフォルダー、カレンダー表示時は日付を選択します（p.162、p.163、p.164）。
フレーム合成時は、画像の位置を調整します（p.203）。
オリジナルフレーム時は、フレームや画像の位置を調整します（p.207）。

⑧ OK/DISPLAY ボタン

画像モニターに表示される情報を切り替えます（p.30）。
拡大表示／6画面表示／12画面表示時は、1画面表示に戻ります（p.163、p.171）。
フォルダー表示時は、選択フォルダーの12画面表示に変わります（p.163）。
カレンダー表示時は、選択日付の1画面表示に変わります（p.164）。

⑨ グリーン/削除 ボタン

1画面表示時は、消去画面に移行します（p.174）。
6画面表示／12画面表示時は、選択消去画面に移行します（p.176）。
フォルダー表示時は、カレンダー表示画面に移行します（p.163）。
カレンダー表示時は、フォルダー表示画面に移行します（p.163）。

◘モードと▶モードの切り替え

本書では、静止画の撮影など記録を行うモードを「◘モード」（撮影モード）と表記します。また、撮影して記録した画像を画像モニターに表示するなど再生を行うモードを「▶モード」（再生モード）と表記します。▶モードでは、再生した画像に簡単な画像処理を加えることもできます。
◘モードと▶モードの切り替えは、次のように行います。

◘モードから▶モードへ切り替える

1　▶ボタンを押す

▶モードに切り替わります。

▶モードから◘モードへ切り替える

1　▶ボタンを押す、またはシャッターボタンを半押しする

◘モードに切り替わります。

内蔵メモリー内のデータの表示について
SDメモリーカードがセットされているときは、SDメモリーカード内の画像、動画、音声が表示されます。内蔵メモリー内の画像、動画、音声を表示する場合は、SDメモリーカードを取り出してください。

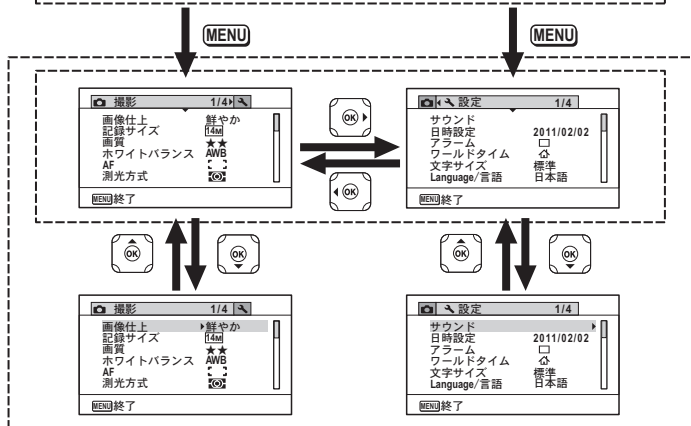
SDメモリーカードは、必ずカメラの電源が切れた状態で取り出してください。

カメラの機能を設定する

カメラの設定を変更するときは、**MENU**ボタンを押して、「撮影」メニューまたは「設定」メニューを呼び出します。また、画像や音声の再生／編集に関する機能は、再生モードパレットから呼び出します。

メニューの操作のしかた

モードで**MENU**ボタンを押すと、「撮影」メニューが表示されます。モードで**MENU**ボタンを押すと、「設定」メニューが表示されます。
「撮影」メニューと「設定」メニューは、十字キー（◀▶）で切り替えることができます。

撮影中　　再生中

MENU

MENU

設定を終了して◘モードへ　　設定を終了して▶モードへ

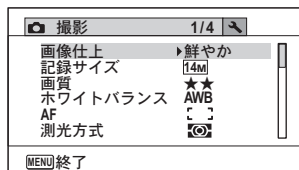
メニュー操作中は、使用するボタンやキーの機能が画像モニターに表示されます。

例）「📷撮影」メニューの「画質」を設定する

1 📷モードでMENUボタンを押す

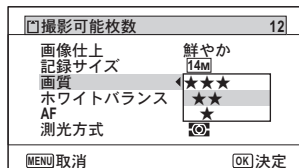
「📷撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▼）を押す

選択枠が「画像仕上」に移動します。

3 十字キー（▼）を2回押す

選択枠が「画質」に移動します。

4 十字キー（▶）を押す

選べる内容がポップアップで表示されます。
ポップアップには、現在のカメラの条件で選択できる設定が表示されます。

5 十字キー（▲▼）で設定を切り替える

十字キー（▲▼）を押すたびに、画質が切り替わります。

6 OKボタンまたは十字キー（◀）を押す

設定が保存され、他の項目が設定できる状態になります。
設定を終了するときは、**MENU**ボタンを押します。

その他の操作をする場合は、手順6で次ページの操作をしてください。

設定を保存して撮影をしたいとき

6 シャッターボタンを半押しする

設定が保存され、撮影できる状態になります。
全押しすると、写真が撮影されます。

メモ ▶モードから「🔧設定」メニューを表示した場合は、▶ボタンを押して📷モードに移行することもできます。

設定を保存して再生をしたいとき

6 ▶ボタンを押す

📷モードから「📷撮影」メニューを表示した場合は、設定が保存され、再生できる状態になります。

変更を取り消してメニュー操作を続けたいとき

6 MENUボタンを押す

変更が取り消され、手順3に戻ります。

メモ MENUボタンの機能は、画面の状態によって異なります。ガイド表示を参照してください。

MENU 終了	メニュー操作を終了し、元の画面に戻ります。
MENU ↩	現在の設定のまま、ひとつ前の画面に戻ります。
MENU 取消	現在の選択を保存しないでメニュー操作を終了し、ひとつ前の画面に戻ります。

メニュー一覧

メニュー画面で設定できる項目とその内容を示します。カメラの電源を切ったときに設定を維持するかどうか、リセットしたときに初期設定に戻るかどうかは、付録の「初期設定一覧」(p.287) をご覧ください。

「撮影」メニュー

撮影に関するメニューです。

項目		内容	参照
画像仕上		画像仕上がりを設定します。	p.122
記録サイズ		静止画像の記録サイズを選びます。	p.123
画質		静止画像の画質を設定します。	p.125
ホワイトバランス		撮影時の光の状態に合わせて色を調整します。	p.126
AF	AFエリア	AF（標準）、（マクロ）、（1cmマクロ）時のAFエリアを設定します。	p.119
	オートマクロ	オートマクロ機能を使うかどうかを設定します。	p.120
	AF補助光	AF補助光を発光させるかどうかを設定します。	p.121
測光方式		どの部分で明るさを測り、露出を決めるのかを設定します。	p.128
感度		感度を設定します。	p.129
感度AUTO調整範囲		感度がAUTOのときの調整範囲を設定します。	p.130
露出補正		撮影する画像全体の明るさを調整します。	p.131
動画	記録サイズ	動画の記録サイズとフレームレートを選びます。	p.150
	Movie SR	手ぶれ補正を使うかどうかを設定します。	p.151
	インターバル撮影	設定した時間間隔で撮影した複数の静止画をひとつの動画ファイルとして記録します。	p.152
D-Range設定	ハイライト補正	白とび補正を行うかどうかを設定します。	p.132
	シャドー補正	黒つぶれ補正を行うかどうかを設定します。	p.132
手ぶれ補正		静止画撮影時の手振れ補正を行うかどうかを設定します。	p.133
インターバル撮影		撮影を行う間隔、枚数、開始時間を設定します。	p.134
まばたき検出		顔検出したときに、まばたき検出を行うかどうか設定します。	p.136
デジタルズーム		デジタルズームを使うかどうかを設定します。	p.89
クイックビュー		クイックビューを表示するかどうかを設定します。	p.137
モードメモリ		電源を切ったときに撮影機能の設定値を保存するか、初期設定に戻すかを設定します。	p.156

項目	内容	参照
グリーンボタン	モード時にグリーンボタンで呼び出す機能を設定します。	p.137
シャープネス	画像の境界をシャープまたはソフトにします。	p.141
彩度（調色）	色の鮮やかさを設定します。画像仕上で「モノトーン」が選択されていると、項目が「調色」になります。	p.142
コントラスト	画像の明暗差の度合いを設定します。	p.143
日付写し込み	静止画撮影時に日付と時刻の写し込みをするかどうかを設定します。	p.143
超解像	超解像処理を行うかどうか設定します。	p.144
マクロ照明	マクロ撮影用のLEDを点灯するかを設定します。	p.145

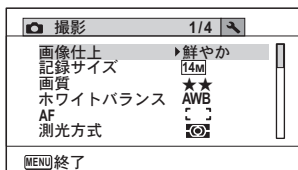
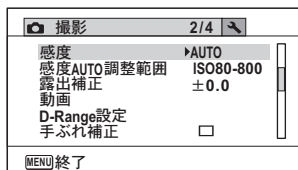
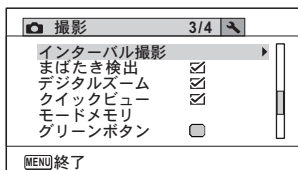
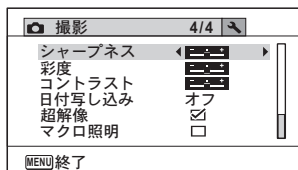
●「撮影」メニュー1

撮影 1/4
画像仕上 鮮やか
記録サイズ 14M
画質 ★★
ホワイトバランス AWB
AF
測光方式
MENU 終了

●「撮影」メニュー2

撮影 2/4
感度 AUTO
感度AUTO調整範囲 ISO80-800
露出補正 ±0.0
動画
D-Range設定
手ぶれ補正
MENU 終了

●「撮影」メニュー3

撮影 3/4
インターバル撮影
まばたき検出
デジタルズーム
クイックビュー
モードメモリ
グリーンボタン
MENU 終了

●「撮影」メニュー4

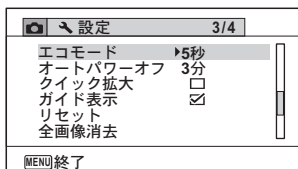
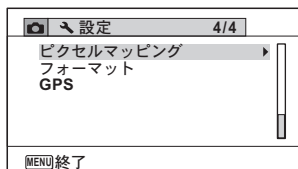
- 「撮影」メニューの設定に関係なく、標準設定で手軽に撮影を楽しみたいときは、（グリーン）モードを利用してください（p.85）。
- よく使う機能は、グリーンボタンに登録しておくと、すばやく呼び出せます（p.137）。

「設定」メニュー

項目		内容	参照
サウンド		操作音量・再生音量・起動音・シャッター音・操作音・セルフタイマー音を設定します。	p.227
日時設定		日付と時刻を設定します。	p.229
アラーム		アラームを設定します。	p.231
ワールドタイム		現在地と目的地を設定します。	p.234
文字サイズ		メニューの文字サイズを設定します。	p.236
Language/言語		メニューやメッセージを表示する言語を設定します。	p.237
フォルダー名		画像や音声を保存するフォルダーの命名方法を設定します。	p.238
USB接続		パソコンへの接続方法（MSCまたはPTP）を設定します。	p.259
ビデオ出力		AV機器へのビデオ出力形式を設定します。	p.241
HDMI出力		AV機器への出力解像度を設定します。	p.242
Eye-Fi		Eye-Fi通信を行うかどうかを設定します。	p.243
LCDの明るさ		画像モニターの明るさを設定します。	p.244
エコモード		節電モードになるまでの時間を設定します。	p.244
オートパワーオフ		自動的に電源が切れるまでの時間を設定します。	p.245
クイック拡大		画像の再生時に「クイック拡大」（p.171）を使うか使わないかを設定します。	p.246
ガイド表示		撮影モードパレットや再生モードパレット表示時に、選択項目説明を表示するかしないかを設定します。	p.247
リセット		日時設定・言語・ワールドタイム・ビデオ出力以外の設定内容を工場出荷時の状態に戻します。	p.250
全画像消去		保存されているすべての画像／音声を消去します。	p.177
ピクセルマッピング		CCDセンサーの画素に欠けがあった場合に補完処理を行います。	p.248
フォーマット		SDメモリーカード／内蔵メモリーをフォーマットします。	p.226
GPS (*)	GPS測位	GPS情報を撮影した画像に記録するかしないかを設定します。	GPSガイド
	ログの記録	GPSログを記録する間隔を設定します。	
	自動時刻修正	GPS情報を取得して自動的にカメラの時刻を修正するかどうかを設定します。	

（*）Optio WG-1 GPSのみ

●「🔧設定」メニュー 1

🔧 設定 1/4

サウンド	▶
日時設定	2011/01/01
アラーム	□
ワールドタイム	⌂
文字サイズ	標準
Language/言語	日本語

MENU 終了

●「🔧設定」メニュー 2

●「🔧設定」メニュー 3

🔧 設定 3/4

エコモード	▶5秒
オートパワーオフ	3分
クイック拡大	□
ガイド表示	☑
リセット	
全画像消去	

MENU 終了

●「🔧設定」メニュー 4

🔧 設定 4/4

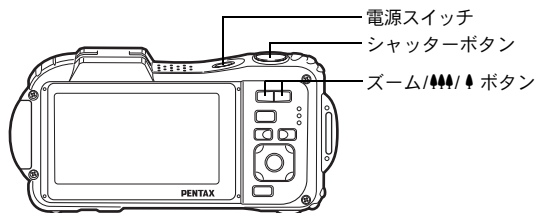
ピクセルマッピング	▶
フォーマット	
GPS	

MENU 終了

3 撮影

静止画を撮影する

標準的な撮影のしかた

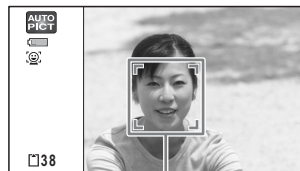
このカメラには、被写体やシーンに応じた多彩な撮影モードや機能が備わっています。ここでは最も標準的な設定（工場出荷時の初期設定）で撮影する手順を説明します。

1 電源スイッチを押す

電源が入り、静止画が撮影できる状態になります。本書ではこの状態を「静止画撮影モード」と表記します。

2 画像モニターを確認する

画像モニター中央のフォーカスフレームの中が、自動でピントが合う範囲です。

フォーカスフレーム

カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます（p.79）。

顔検出枠

ズームボタンを押すと、被写体の写る範囲が変わります（p.87）。
右（♠） 被写体を拡大して写す
左（♠♠♠） 被写体を広い範囲で写す

3 シャッターボタンを半押しする

周囲が暗い場合はAF補助光が発光します。
ピントが合った位置で、フォーカスフレーム（または顔検出枠）が緑色に変わります。

4 シャッターボタンを全押しする

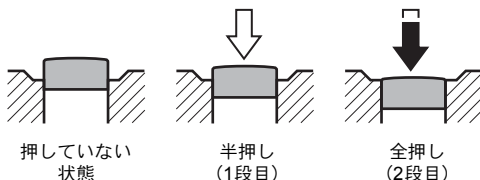
撮影されます。
ストロボは、明るさに応じて自動的に発光します。
撮影した画像は画像モニターに一時的に表示（クイックビュー、p.76）された後、SDメモリーカードまたは内蔵メモリーに保存されます。

グリーンボタンを押すと、すべての撮影条件をカメラが自動設定する●（グリーン）モードに切り替わります（p.85）。

シャッターボタンの押しかた

シャッターボタンは「半押し」と「全押し」の2段階になっています。

半押し
シャッターボタンを1段目まで軽く押した状態です。ピント位置と露出がロックされます。半押しのときにピントが合うと、画像モニターに緑色の枠が点灯します。ピントが合っていないときは、白い枠が点灯します。

全押し
シャッターボタンを2段目まで押しきった状態です。撮影が行われます。

- カメラぶれを防ぐため、シャッターボタンはゆっくり押し込んでください。
- 実際にシャッターボタンを押してみて、半押しと全押しの感覚をつかんでおいてください。

ピント合わせの苦手な条件

写したいものが下の例のような条件にある場合は、ピントが合わないことがあります。その場合はいったん撮りたいものと同じ距離にあるものにピントを固定（シャッターボタン半押し）し、その後撮りたい位置に構図を戻してシャッターを切ります。

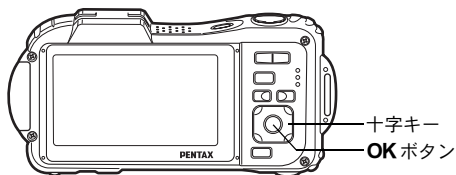
- 青空や白壁など極端にコントラストが低いもの
- 暗い場所、あるいは真っ暗なものなど、光の反射しにくい条件
- 細かい模様の場合
- 非常に速い速度で移動しているもの
- 遠近のものが同時に存在する場合
- 反射の強い光、強い逆光（周辺が特に明るい場合）

クイックビューとまばたき検出

撮影直後には、撮影した画像が画像モニターに一時的に表示（クイックビュー）されます。顔検出機能（p.79）が働いているときに、被写体が目を閉じたとカメラが認識すると、「目を閉じていました」というメッセージが3秒間表示されます（まばたき検出）。

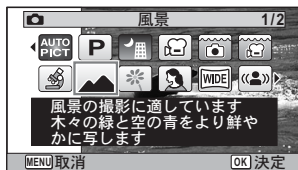
- 顔検出が行われなかったときは、まばたき検出も行われません。また顔検出した場合でも、検出した顔の条件によってまばたき検出ができないことがあります。
- まばたきを検出しないように設定することもできます（p.136）。

撮影モードを設定する

このカメラには、多彩な撮影モードが用意されています。撮影モードパレットで撮影するシーンに合った撮影モードを選ぶだけで手軽にぴったりの雰囲気の写真の撮影、動画の記録、音声の録音ができます。

1 ◘モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で撮影モードを選択する

画像モニターの下部に、選んだ撮影モードの説明が表示されます。

3 OK ボタンを押す

撮影モードが選択され、撮影できる状態になります。

撮影モードパレットでは、次の24のモードが選択できます。

項目		内容	参照
AUTO PICT	オートピクチャー	適切なシーンを自動的に判断して撮影します。	p.83
P	プログラム	一般的な撮影に適しています。さまざまな機能を設定して撮影することができます。	p.84
	夜景	夜景の撮影に適しています。ぶれに注意して三脚などで固定して撮影してください。	p.89
	動画	動画を撮影します。音声も同時に記録されます。	p.148
	マーメード	水中での撮影に適しています。	p.146
	マーメード ムービー	水中での動画撮影に適しています。	p.146
	デジタル顕微鏡	近くの被写体をより大きく写します。（2M 16:9 固定）	p.98
	風景	風景の撮影に適しています。広い範囲にピントが合うようになっています。	—
	花	花の撮影に適しています。花の輪郭を柔らかめに表現します。	—
	ポートレート	人物の撮影に適しています。肌色を健康的に仕上げます。	p.91
WIDE	デジタルワイド	撮影した2枚の画像をカメラ内でつなぎ合わせて、より広い範囲の画像を作成します。（3M 固定）	p.109
	高感度	ぶれを軽減して撮影するために、より高い感度を使用します。（5M ／ 4M 16:9 固定）	p.89
	サーフ＆スノー	砂浜や雪山など、背景の明るい場所での撮影に適しています。	p.96
	キッズ	動きの多い子供を撮影するのに適しています。肌色を健康的に仕上げます。	p.92
	ペット	動き回るペットの撮影に適しています。登録したペットの検出もできます。	p.93
	スポーツ	スポーツなど動きの速い被写体の撮影に適しています。撮影するまでピントを合わせ続けます。	p.96
	花火	花火の撮影に適しています。ぶれに注意して三脚などで固定して撮影してください。	p.89
	キャンドルライト	キャンドルライトの雰囲気を生かして撮影します。	p.89
	夜景ポートレート	夜景での人物撮影に適しています。ぶれに注意して三脚などで固定して撮影してください。	p.89
A	テキスト	文字の撮影に適しています。白黒や反転などの効果が選択できます。	p.97
	料理	料理の撮影に適しています。より鮮やかに仕上げます。	—

項目		内容	参照
▮■◖	パノラマ	撮影した画像をカメラ内でつなぎ合わせてパノラマ写真を作成します。	p.112
◎	フレーム合成	フレーム付きの画像を撮影します。記録サイズは、3M または 2M 16:9 に固定されます。	p.99
	CALS	建設CALSに準拠した電子納品に適したサイズ(1280×960)で記録します。	—

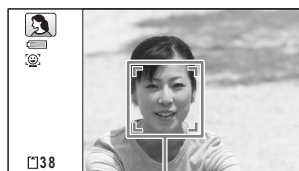
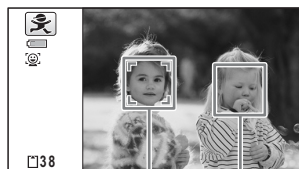
※ 上記の他にグリーンモード（p.85）、ボイスレコーディング（p.218）があります。

- P（プログラム）、夜景（夜景）、動画（動画）、（デジタル顕微鏡）、（高感度）、▮■◖（パノラマ）、WIDE（デジタルワイド）、◎（フレーム合成）以外の撮影モードでは、彩度、コントラスト、シャープネス、ホワイトバランスなどが自動的に各モードに最適な値に設定されています。
- 撮影モードによっては、一部の機能が設定できなかったり、設定できても動作に反映されない場合があります。詳しくは、「各撮影モードの機能対応」（p.280）をご確認ください。
- 選択した撮影モードの説明を表示させないようにすることができます（p.247）。

顔検出機能を利用する

顔検出機能は、カメラが人物の顔を検出すると、画像モニター上の顔の位置に黄色の顔検出枠を表示し、ピント合わせ（顔検出AF）と露出補正（顔検出AE）を行います。
顔検出枠は、被写体の人物が動くと、顔を追尾して位置や大きさが変化します。

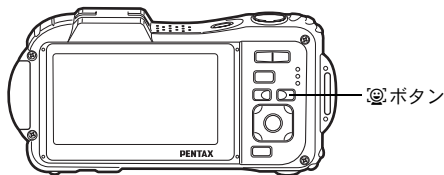
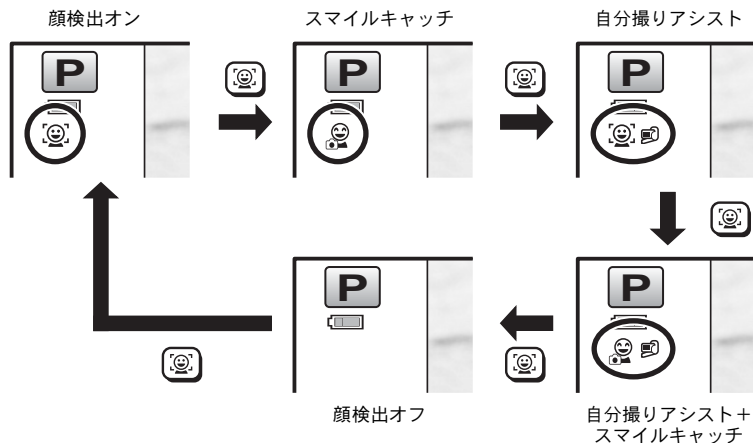
顔検出枠

人物の顔は最大32人まで検出できます。複数の顔を検出した場合は、メインの顔に黄色の枠が表示され、他の顔には白い枠が表示されます。枠は、メイン枠・白い枠を合わせて最大31個まで表示できます。

複数の顔を検出した場合

メイン枠　白い枠

- サングラスなどで被写体の顔の一部がさえぎられている場合や、顔の向きが正面ではない場合は、顔検出AFと顔検出AEが働かないことがあります。
- 被写体の顔が検出できない場合は、選択されているAFエリアでピントを合わせます。
- 「スマイルキャッチ」機能がオンの場合、検出した顔が小さすぎるなどの条件によっては「スマイルキャッチ」機能が働かず、自動的にシャッターが切れないことがあります。その場合はシャッターボタンを押すと、シャッターが切れます。
- （ペット）モードでは、ペット検出に切り替わります（1匹のみ）。

3 撮影

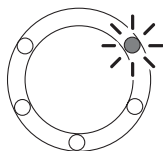
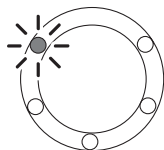
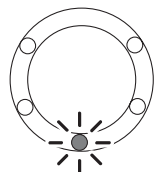
顔検出機能を切り替える

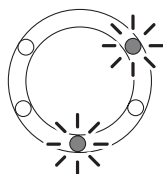
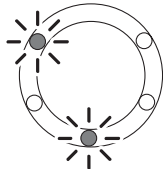
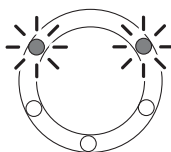
初期状態では、顔検出機能がオンになっています。被写体が笑顔になるとシャッターを自動的に切る「スマイルキャッチ」機能に切り替えることもできます。ボタンを押すたびに、スマイルキャッチ→自分撮りアシスト→自分撮りアシスト＋スマイルキャッチ→顔検出機能オフ（顔検出オフ）→顔検出オンと切り替わります。

顔検出機能を切り替えると、顔検出機能またはスマイルキャッチ機能を示すアイコンが画像モニターに表示されます（顔検出オフのアイコンは切り替えた直後のみ表示されます）。

- (オートピクチャー)／(夜景ポートレート)／(ポートレート)／(キッズ)モードでは、顔検出機能をオフにはできません。顔検出機能、スマイルキャッチ機能、自分撮りアシスト機能または自分撮りアシスト＋スマイルキャッチ機能のいずれかが必ずオンになります。
- 顔検出オフ時に (グリーン)／ (オートピクチャー)／ (夜景ポートレート)／ (動画)／ (ポートレート)／ (キッズ)／ (マーメードムービー)モードを選択すると、自動的に顔検出機能がオンになります。これらの撮影モードから他の撮影モードに移行すると、元の顔検出機能設定に戻ります。
- ストロボモードを（オート）に設定しているときに顔検出された場合は、自動的に（強制＋赤目）になります。
- WIDE（デジタルワイド）／（パノラマ）／(CALS）／（ペット）／（動画）／（マーメードムービー）／(デジタル顕微鏡）モードでは、自分撮りアシスト機能または自分撮りアシスト＋スマイルキャッチ機能をオンにすることができません。
- CALSの場合と、「 撮影」メニューでマクロ照明をオンにしている場合は、自分撮りアシスト、自分撮りアシスト＋スマイルキャッチは選択できません。

3
撮影

自分撮りアシスト機能を利用する

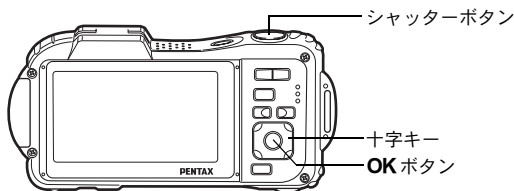
自分撮りアシストまたは自分撮りアシスト+スマイルキャッチでは、カメラが顔を検出するとLEDが点滅します。また、画面内のどの位置で顔認識をしているか、LEDの点滅位置で示します。

1人検出したとき

カメラに向かって
右側に顔を検出

カメラに向かって
左側に顔を検出

カメラに向かって
中央に顔を検出

2人検出したとき

カメラに向かって
中央と右側に顔を検出

カメラに向かって
中央と左側に顔を検出

カメラに向かって
中央または左右に
顔を検出

- LEDの点滅で位置を示せるのは、2人までです。
- 3人検出した場合は3つ、4人検出した場合は4つ、5人以上検出した場合は5つLEDが点滅します（検出した位置は示しません）。
- AUTO PICT（オートピクチャー）モードの場合、シャッターを半押しした後に顔検出をしないモードと判定されると、LEDは消灯します。
- 自分撮りアシスト機能をオンにしている場合、エコモードの設定時間を過ぎてもLEDは消灯しません。
- 検出した顔が小さすぎると、LEDは点滅しません。

カメラまかせで撮影する（オートピクチャーモード）

AUTO PICT（オートピクチャー）モードでは、カメラが被写体やシーンを自動的に判別して最適な撮影モードで撮影できます。

1 モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で、AUTO PICT（オートピクチャー）を選ぶ

3 OK ボタンを押す

オートピクチャーモードが選択され、撮影できる状態になります。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます（p.79）。カメラがペットを検出した場合は、自動的に撮影されます。

4 シャッターボタンを半押しする

判別された撮影モードが画像モニター左上に表示されます。

標準	夜景	夜景ポートレート
風景	花	ポートレート
スポーツ	キャンドルライト	青空
人物×青空	人物×逆光	夕焼け
人物×夕焼け	集合写真	テキスト

また、ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

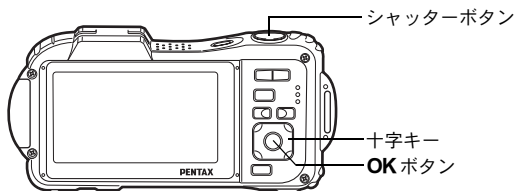
5 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

AUTO PICTモードでは以下の制限があります。

- 露出補正はできません。
- 顔検出機能はオフにできません。
- AFエリアは〔 〕（マルチ）固定になります。
- デジタルズーム／インテリジェントズームを使用しているときは、「花」は選択されません。
- ストロボモードを⚡A（オート）／◉A（オート＋赤目）に設定していて「夜景」が選ばれた場合は、自動的に⊛（発光禁止）になります。
- ストロボモードを ⚡A（オート）に設定していて「夜景ポートレート」が選ばれた場合に、カメラが人物の顔を検出し、かつストロボ発光が必要と判断すると、自動的に◉⚡（強制＋赤目）になります。

機能を設定して撮影する（プログラムモード）

P（プログラム）モードでは、シャッタースピードと絞り値はカメラが自動的に設定して撮影しますが、ストロボの発光方式や記録サイズなどその他の機能は自由に設定できます。

1 📷モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）でP（プログラム）を選ぶ

3 OKボタンを押す

プログラムモードが選択され、撮影できる状態になります。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます（p.79）。

4 必要に応じて使用する機能を設定する

機能の設定のしかたは、「撮影のための機能を設定する」（p.115～p.145）をご覧ください。

5 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

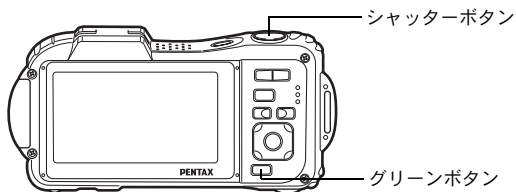
6 シャッターボタンを全押しする

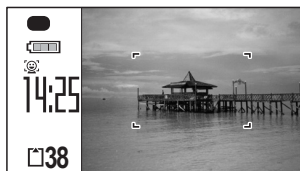
撮影されます。

静止画を撮影する ☞p.74

簡単撮影モードで撮影する（グリーンモード）

●（グリーン）モードでは、「◘撮影」メニューの設定に関係なく、標準設定で手軽に撮影を楽しめます。
●モードの設定値は、以下のとおりです。

ストロボモード	⚡A（オート）	ハイライト補正	□（オフ）
ドライブモード	□（標準）	シャドー補正	□（オフ）
フォーカスモード	AF（標準）	感度	AUTO（80-800）
情報表示	標準	露出補正	±0.0
手ぶれ補正	□（オフ）	まばたき検出	☑（オン）
記録サイズ	14M（4288 × 3216）	デジタルズーム	☑（オン）
ホワイトバランス	AWB（オート）	クイックビュー	☑（オン）
AFエリア	[ ]（マルチ）	シャープネス	－・＋（標準）
オートマクロ	☑（オン）	彩度	－・＋（標準）
AF補助光	☑（オン）	コントラスト	－・＋（標準）
測光方式	◙（分割測光）	日付写し込み	オフ
画像仕上	鮮やか	超解像	☑（オン）
画質	★★（ファイン）	マクロ照明	□（オフ）

1 モードでグリーンボタンを押す

モードに切り替わります。
もう1回グリーンボタンを押すと、モードに入る前の撮影モードに戻ります。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます。（p.79）

2 シャッターボタンを半押しする

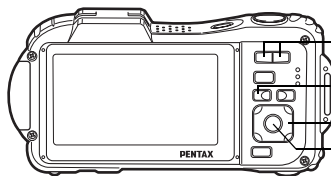
ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

3 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

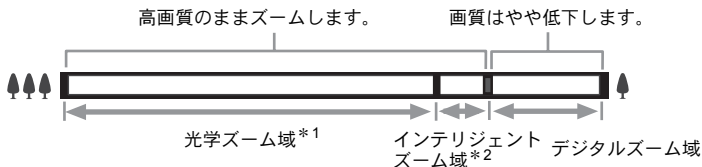
- モードを利用する場合は、「撮影」メニューの「グリーンボタン」にモードを登録しておきます（p.138）（初期設定ではモードに設定されています）。
- モードでは、**OK/DISPLAY**ボタンを押して情報表示を切り替えることはできません。
- モードで**MENU**ボタンを押すと、「設定」メニューが表示されます。「撮影」メニューは表示できません。
- 撮影モードをモードにしたまま電源を切ると、次回もモードで起動します。

ズームを使って撮影する

ズーム機能を使って、写る範囲を変えて撮影できます。

1 ◘ モードでズーム /♣♣♣/♠ ボタンを押す

左（♣♣♣）広角：
被写体を広い範囲で写す
右（♠） 望遠：
被写体を拡大して写す

右（♠）を押し続けると、自動的に光学ズームからインテリジェントズームに切り替わり、デジタルズームの切り替わり点で止まります。
いったんボタンを離して、もう一度押すとデジタルズームになります。
メニュー内でデジタルズームをオフにすると、光学ズーム+インテリジェントズームの領域が使用可能です。記録サイズによりインテリジェントズームの倍率は異なります。

ズームバーは、次のように表示されます。

*1 光学5倍までズームできます。
*2 記録サイズにより、インテリジェントズーム域は変化します。次の表をご覧ください。

3 撮影

記録サイズと最大ズーム倍率

<table>
<tr><th>記録サイズ</th><th>インテリジェントズーム
（倍率は光学5倍を含む）</th><th>デジタルズーム</th></tr>
<tr><td>14M／10M 16:9／10M 1:1</td><td>不可（光学5倍のみ）</td><td rowspan="5">約33.5倍相当</td></tr>
<tr><td>7M／5M 16:9</td><td>約7.0倍</td></tr>
<tr><td>5M／4M 16:9</td><td>約8.3倍</td></tr>
<tr><td>3M</td><td>約10.5倍</td></tr>
<tr><td>2M 16:9</td><td>約11.2倍</td></tr>
<tr><td>1280（※）</td><td>不可（光学5倍のみ）</td><td></td></tr>
<tr><td>1024</td><td>約20.9倍</td><td>約33.5倍相当</td></tr>
<tr><td>640</td><td>約33.5倍（デジタルズームと同じ）</td><td></td></tr>
</table>

（※）(CALS）モード設定時のみの記録サイズ

- 高倍率の撮影では、手ぶれを防止するため三脚などのご利用をおすすめします。
- デジタルズーム領域で撮影すると、光学ズーム領域で撮影したときよりも画像が粗くなります。
- 次の場合、インテリジェントズームは使えません。
  記録サイズが14M、10M 16:9、10M 1:1のとき（光学5倍ズームは使えます。）
  （グリーン）、（動画）、（マーメードムービー）モード時
- （高感度）、(CALS）モード時および感度を3200または6400に設定しているときはインテリジェントズーム、デジタルズームは使えません。
- インテリジェントズームで高倍率に拡大すると、画像モニターの画像が粗く見えることがあります。撮影した静止画の画質には、影響はありません。
- デジタルズームの設定（オン／オフ）に関係なく、インテリジェントズームは使用可能です。
- (デジタル顕微鏡）モード時、デジタルズームは使えません。
- WIDE（デジタルワイド）モード時、ズーム機能は使えません。

デジタルズーム機能を設定する

初期設定では、デジタルズームは☑（オン）に設定されています。光学ズームとインテリジェントズーム領域だけを使って撮影したい場合は、□（オフ）に設定します。

1　撮影モードでMENUボタンを押す

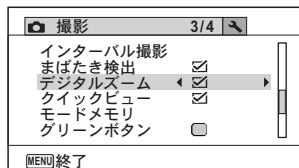
「撮影」メニューが表示されます。

2　十字キー（▲▼）を押して「デジタルズーム」を選ぶ

3　十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

☑（オン）　デジタルズームを使用する

□（オフ）　光学ズームとインテリジェントズームだけを使用する

撮影　3/4
インターバル撮影
まばたき検出　☑
デジタルズーム　☑
クイックビュー　☑
モードメモリ
グリーンボタン
MENU 終了

設定が保存されます。

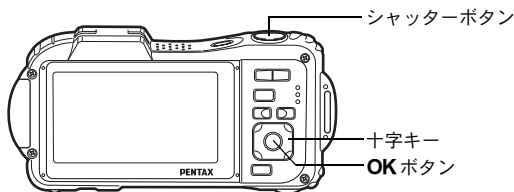
4　MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

デジタルズーム機能の設定を保存する ☞p.156

暗いシーンを撮影する（夜景／夜景ポートレート／高感度／花火／キャンドルライトモード）

夜景など暗いシーンを撮影するのに適切な設定にセットされます。

	夜景	夜景の撮影に適しています。ぶれに注意し、三脚などで固定して撮影してください。
	夜景ポートレート	夜景での人物撮影に適しています。ぶれに注意し、三脚などで固定して撮影してください。
	高感度	ぶれを軽減して撮影するために、より高い感度を使用します。
	花火	花火の撮影に適しています。ぶれに注意し、三脚などで固定して撮影してください。
	キャンドルライト	キャンドルライトの雰囲気を生かして撮影します。

シャッターボタン
十字キー
OK ボタン

1 モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で、（夜景）／（夜景ポートレート）／（高感度）／（花火）／（キャンドルライト）を選ぶ

3 OK ボタンを押す

撮影モードが選択され、撮影できる状態になります。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます。（p.79）

4 シャッターボタンを半押しする

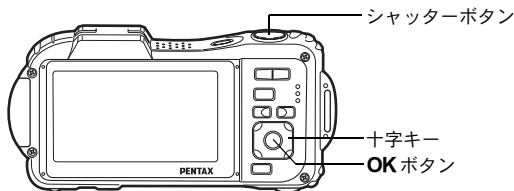
ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

5 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

- 暗いシーンの撮影は、シャッタースピードが遅くなります。
- 手ぶれを防ぐには、手ぶれ補正機能（p.133）を設定するか、三脚とセルフタイマー（p.101）またはリモコン（別売）（p.104）を使った撮影が有効です。
- （高感度）モードでは、感度はAUTO、感度AUTO調整範囲は（80-6400）、記録サイズは 5M （2592×1944）／ 4M 16:9 （2592×1464）に固定されます。
- （花火）モードでは、感度は最低感度、フォーカスモードは▲（無限遠）、ストロボモードは（発光禁止）に固定されます。また、シャッター速度は4秒、絞り値は開放絞りに固定されます。
- （高感度）モードでは、デジタルズームとインテリジェントズームが使えません。

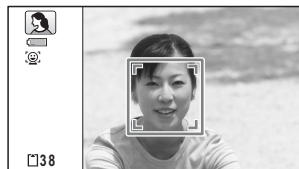
人物を撮影する（ポートレートモード）

（ポートレート）モードは、人物を撮影するのに適しています。また、肌色を明るく健康的に仕上げることができます。顔検出機能（p.79）が自動的にオンになるので、被写体の顔を主体にした写真を簡単に撮ることができます。

1 モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で、（ポートレート）を選ぶ

3 OK ボタンを押す

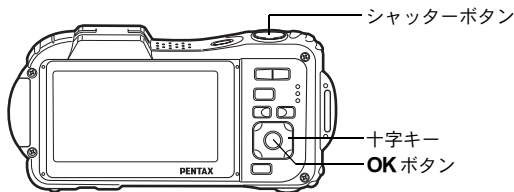
撮影モードが選択され、撮影できる状態になります。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます。（p.79）

4 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

5 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

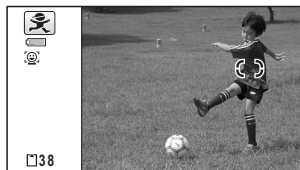
子供を撮影する（キッズモード）

（キッズ）モードは、動きの多い子供を撮影するのに適しています。また、肌色を明るく健康的に仕上げることができます。モードでは、顔検出機能（p.79）が自動的にオンになるので、被写体の顔を主体にした写真を簡単に撮ることができます。

1 モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で、（キッズ）を選ぶ

3 OK ボタンを押す

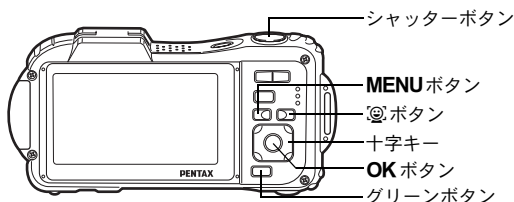
キッズモードが選択され、撮影できる状態になります。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます。（p.79）

4 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

5 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

ペットを撮影する（ペットモード）

（ペット）モードでは、ペットを検出すると、自動的にシャッターが切れます。また、ペットをカメラに登録することもできます。

1 モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

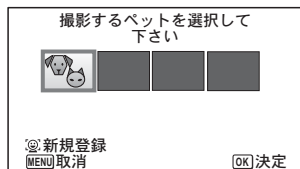
2 十字キー（▲▼◀▶）で（ペット）を選ぶ

3 OKボタンを押す

（ペット）モードが選択され、撮影できる状態になります。
カメラがペットを検出すると、自動で撮影されます。

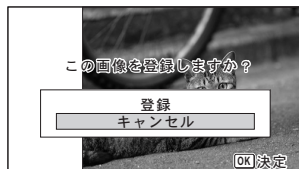
ペットを登録する

1 ペットモードの撮影画面でボタンを押す

ペット選択画面が表示されます。

2 もう一度 ボタンを押す

ペットを登録する画面が表示されます。ペットの顔が正面を向くようにカメラを構えると、自動で撮影され、登録確認画面が表示されます。

ペットを登録する画面

十字キー（▲）で「登録」を選択し、**OK** ボタンを押すと、登録したペットの写真が画像モニター左上に表示され、撮影できる状態になります。

登録確認画面

カメラがペットの顔を検出すると、自動的にシャッターが切れます。
シャッターボタンを押して撮影することも可能です。

撮影画面で ボタンを2回押すと、ペットを登録する画面が表示され、他のペットを登録することができます。ペットは合計3匹まで登録可能です。

撮影画面

- ペットを登録する画面で **MENU** ボタンを押すと、登録が中止され、撮影できる状態になります。
- （ペット）モードで登録できる動物は、犬と猫のみです。他の動物や人物の顔は登録できません。またペットの顔が小さすぎるなど、条件によっては登録できないことがあります。
- 登録されたペットでも、顔が小さすぎるなど、条件によっては検出できないことがあります。
- （ペット）モードでは **OK**/**DISPLAY** ボタンを押して、LCDオフに切り替えることはできません。
- ペットモードで感度3200/6400の場合は、デジタルズームとインテリジェントズームは使用できません。

3

撮影

撮影するペットを切り替える

2匹以上のペットを登録しているときは、撮影したいペットを選んでください。

1　ペットモードの撮影画面で 顔ボタンを押す

ペット選択画面が表示されます。

2　十字キー（◀▶）で撮影するペットを選ぶ

3　OK ボタンを押す

選択したペットが選ばれ、撮影画面に戻ります。

登録したペットを消去する

1　ペットモードの撮影画面で 顔ボタンを押す

ペット選択画面が表示されます。

2　十字キー（◀▶）で消去するペットを選ぶ

3　グリーンボタンを押す

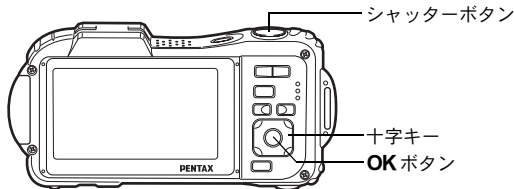
4　十字キー（▲）で「消去」を選ぶ

5　OK ボタンを押す

選択したペットが消去されます。

- AFエリアは（自動追尾）に、ストロボは（発光禁止）に設定されます。変更も可能です。
- AF補助光はオフに設定されます。変更も可能です。

レジャーシーンやスポーツを撮影する（サーフ＆スノー／スポーツモード）

🏖	サーフ＆スノー	砂浜や雪山など、背景の明るい場所での撮影に適しています。
🏃	スポーツ	動きの速い被写体の撮影に適しています。撮影するまでピントを合わせ続けます。

1　📷モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2　十字キー（▲▼◀▶）で、🏖（サーフ＆スノー）／🏃（スポーツ）を選ぶ

3　OK ボタンを押す

撮影モードが選択され、撮影できる状態になります。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます。（p.79）

4　シャッターボタンを半押しする

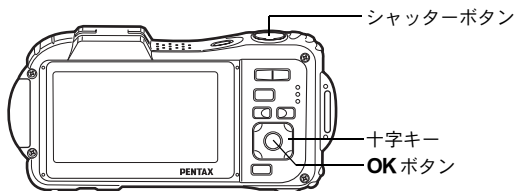
ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。
スポーツモードを選択した場合は、シャッターボタンを半押しし続けている間、フォーカスフレームが被写体を追い続けます。

5　シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

文字を撮影する（テキストモード）

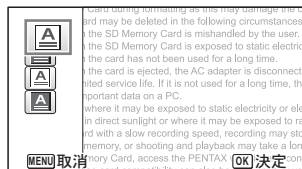
文字をくっきりと読みやすく撮影します。大事な書類を画像にして保存するときや、テキストの文字が小さくて読みにくいときに便利です。

	カラー	テキストを元の色のまま撮影します。
	カラー反転	カラーが反転します。
	白黒	テキストを白黒で撮影します。
	白黒反転	白黒が反転するように撮影します。

1 モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で（テキスト）を選ぶ

3 OK ボタンを押す

テキストモード選択画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で、／／／を選ぶ

5 OK ボタンを押す

選択したアイコンが表示され、撮影できる状態になります。

6 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

7 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

デジタル顕微鏡モードで撮影する

（デジタル顕微鏡）モードでは、最短1cmの至近距離まで被写体に近づくことができ、またレンズ周囲に配置されたマクロ照明用LEDが常に発光するので、活字や葉脈、小さな昆虫標本などを細密に撮影することができます。

- 記録サイズは 2M 16:9（1920×1080）固定です。
- フォーカスモードは（1cmマクロ）固定です。
- 「手ぶれ補正」の初期値は ☑（オン）になります。
- （連続撮影）／（高速連写）／（オートブラケット）は選択できません。
- ストロボモードは（発光禁止）固定です。
- 顔検出機能、まばたき検出はオフ固定です。
- **OK**/**DISPLAY** ボタンで切り替えられる情報表示は、標準情報と情報表示無しの2つのみです。
- 撮影環境によっては、マクロ照明用LEDの照明にムラが生じたり、光量が不足することがあります。

1 モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

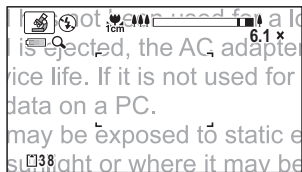
2 十字キー（▲▼◀▶）で（デジタル顕微鏡）を選ぶ

3 OK ボタンを押す

デジタル顕微鏡モードになり、撮影できる状態になります。

4 ズーム/♣♣♣/♣ ボタンを押す

♣側を押すと拡大します。

左（♣♣♣）広角　被写体を広い範囲で写す

右（♣）　望遠　被写体を拡大して写す

5 シャッターボタンを半押しする

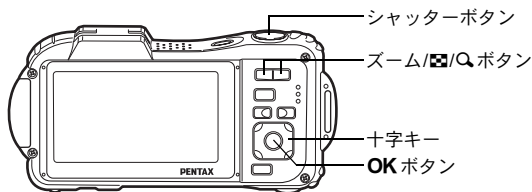
ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

6 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

> メモ　付属のマクロスタンド（O-MS1）を取り付けて撮影すると、手ぶれを防ぐことができます（p.24）。

フレームをつけて撮影する（フレーム合成モード）

▢（フレーム合成）モードでは、カメラに保存されているフレームに合わせて撮影することができます。

1 ◘モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で▢（フレーム合成）を選ぶ

3 OK ボタンを押す

フレーム選択の12分割画面が表示されます。

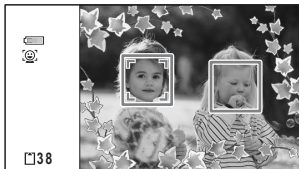
4 十字キー（▲▼◀▶）で使用するフレームを選ぶ

5 ズーム/⊞/Q ボタンのQ側を押す

選んだフレームが1画面表示されます。
フレームは次の方法で選び直すことができます。

十字キー（◀▶）	別のフレームを選択
ズーム/⊞/Qボタン（⊞）	フレーム選択の12分割画面に戻り、手順4と同様の操作で別のフレームを選択

6 OKボタンを押す

フレーム付きの撮影画面が表示されます。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます。（p.79）

7 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

8 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

- ⊡モードの記録サイズは、3M（2048×1536）／2M 16:9（1920×1080）に固定されます。
- ⊡モードでは**OK**/**DISPLAY**ボタンを押して、LCDオフに切り替えることはできません。
- 工場出荷時には、4：3／16：9のデフォルトフレームがそれぞれ3種類ずつ内蔵されています（付属のCD-ROMには、デフォルトフレームを含む90種類のフレームが収録されています）。

オプションのフレーム画像について
付属のCD-ROM（S-SW117）にはオプションのフレームが登録されています。オプションフレームを使用する場合は、CD-ROMからコピーしてください（p.204）。このオプションフレームは、パソコンから内蔵メモリーのファイルを削除したり、内蔵メモリーをフォーマットすると削除されます。

撮影した画像にフレームを合成する ☞p.204

セルフタイマーを使って撮影する

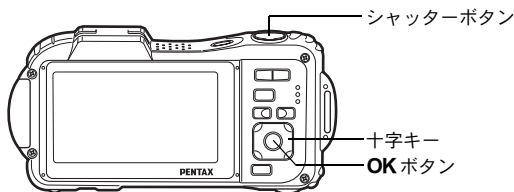
シャッターボタンを押してから、10秒後または2秒後に撮影されます。セルフタイマーを使って撮影するときは、カメラを三脚等に固定してください。

⏲	シャッターボタンを押してから約10 秒後に撮影されます。撮影者も含めて集合写真を撮る場合などに利用できます。
⏲2S	シャッターボタンを押してから約2秒後に撮影されます。手ぶれを避けるために利用できます。

1 📷モードで十字キー（▲）を押す

「ドライブモード」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）で⏲を選択し、十字キー（▼）を押す

3 撮影

3 十字キー（◀▶）で⏲／⏲2sを選択し、OKボタンを押す

セルフタイマーを使って撮影できる状態になります。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます。（p.79）

4 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

5 シャッターボタンを全押しする

カウントダウンを開始し、画像モニターに残りの秒数が表示されます。

⏲の場合

セルフタイマーランプと、マクロ照明用LEDのすべてが点灯します。撮影4秒前以降、マクロ照明用LEDが右上から順に消灯していきます。撮影3秒前以降は、セルフタイマーランプも点滅します。

⏲2sの場合

セルフタイマーランプ、マクロ照明用LEDとも点滅します。

10秒または2秒のカウントダウン後、撮影されます。

注意

静止画撮影の場合、セルフタイマーランプの点滅中に構図を変えると、ピントが合わなくなります。

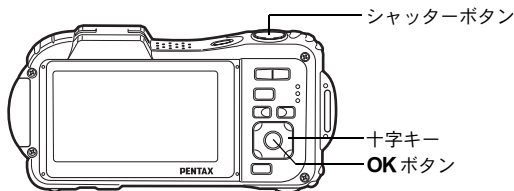
メモ

- 🎥（動画）モードでは、10秒後または2秒後に動画撮影が始まります。
- カウントダウン中にシャッターボタンを半押しするとカウントダウンを中止し、全押しするとカウントダウンをやり直します。
- ⏲2sは●（グリーン）モードの初期設定では選べません。ただし、他の撮影モードで⏲2sを選んでから、撮影モードを●モードに切り替えると、選べるようになります。
- 🐾（ペット）モードでは、セルフタイマーランプは点滅しません。
- 以下の場合は、カウントダウンに関係なく、マクロ照明用LEDは点灯し続けます。
  - 撮影モードがデジタル顕微鏡モードの場合
  - 撮影メニューの「マクロ照明」を☑（オン）に設定している場合

連続して撮影する（連続撮影／高速連写）

シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。

連続撮影アイコン	連続撮影	1枚撮影するごとに、画像をメモリーに書き込み、続いて次の静止画を撮影します。高画質の画像ほど、撮影間隔が長くなります。
高速連写アイコン	高速連写	記録サイズを 5M （2592×1944）／4M 16:9（2592×1464）に固定し、「連続撮影」より速い速度で撮影します。

※連続して撮影できる枚数と撮影コマ速度は、撮影条件により変わります。

1 モードで十字キー（▲）を押す

「ドライブモード」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）を押して、／を選択し、OK ボタンを押す

連続撮影／高速連写できる状態になります。

3 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

4 シャッターボタンを全押しする

シャッターボタンを押し続けている間、連続して写真が撮影されます。

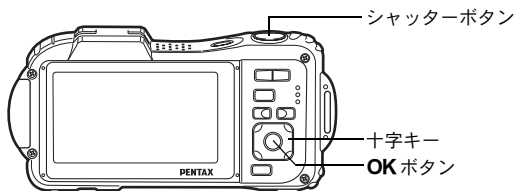
- □／□では、ストロボは発光しません。
- ●（グリーン）／AUTO PICT（オートピクチャー）／□（デジタル顕微鏡）／□（夜景）／□（動画）／□（マーメードムービー）／□（花火）／□（フレーム合成）／WIDE（デジタルワイド）／□（パノラマ）モードでは、□／□は選択できません。
- 感度 3200 以上では、デジタルズームとインテリジェントズームを使用できません。

- □ は SD メモリーカードまたは内蔵メモリーがいっぱいになるまで、連続撮影できます。
- □の撮影間隔は、記録サイズや画質の設定によって異なります。
- ピント・露出・ホワイトバランスは、1枚目で固定されます。
- 顔検出機能（p.79）がオンの場合は、1枚目の撮影時のみ顔検出機能が働きます。
- まばたき検出は、最後に撮影された画像に対して行われます。
- □ の記録サイズは、5M／4M 16:9 に固定されます。ただし、撮影モードが□（CALS）に設定されているときは、1280（1280×960）に固定されます。

リモコン（別売）を使って撮影する

リモコン（別売）を使用して、カメラから離れたところからの撮影をします。

□3S	3秒後レリーズ	リモコンのシャッターボタンを押すと、約3秒後にシャッターが切れます。
□	即レリーズ	リモコンのシャッターボタンを押すと、すぐにシャッターが切れます。

3 撮影

1 モードで十字キー（▲）を押す

「ドライブモード」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）でを選択し、十字キー（▼）を押す

3 十字キー（◀▶）で／を選択し、OKボタンを押す

セルフタイマーがゆっくり点滅を始め、リモコンを使って撮影できる状態になります。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます（p.79）。

4 リモコンをカメラ正面のリモコン受光部に向け、リモコンのシャッターボタンを押す

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わり、以下のタイミングで撮影されます。

3s 3秒後レリーズの場合：セルフタイマーランプとマクロ照明用LEDが速く点滅し、約3秒後に撮影されます。

即レリーズの場合　：すぐに撮影されます。

- リモコン撮影ができる距離は、カメラ正面から約4mです。
- （動画）モードでは、もう1度シャッターボタンを押すと撮影が終了します。
- ピントが合わなかったときでも、撮影されます。
- カウントダウン中にカメラのシャッターボタンを半押しするとカウントダウンを中止し、もう一度リモコンのシャッターボタンを押すと、カウントダウンをやり直します。
- （グリーン）モードでは、3s/は選択できません。
- （ペット）モードでは、セルフタイマーランプは点滅しません。

設定した時間間隔で撮影する（インターバル撮影）

設定した時刻から、設定した時間間隔で、設定した枚数を自動的に撮影します。

撮影間隔	10秒～99分	10秒から4分までの間は1秒単位で、4分から99分までの間は1分単位で設定できます。9秒以下に設定することはできません。
撮影枚数	2枚～撮影可能枚数	最大で1000枚まで設定できます。ただし撮影可能枚数以上は設定できません。
撮影開始時間	0分後～24時間後	0～59分までは1分単位、1時間以上は1時間単位で設定できます。撮影開始時間を0分後に設定すると、シャッターボタンを押してすぐに1枚目の画像が撮影されます。

1 モードで十字キー（▲）を押す

「ドライブモード」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）で（インターバル撮影）を選択し、OKボタンを押す

現在のインターバル撮影設定内容が約1分間表示されます。現在の設定のまま撮影をする場合は手順10に進みます。

3 設定内容表示中にOKボタンを押す

インターバル撮影設定画面が表示されます。このとき、「撮影間隔」に選択枠がついた状態になっています。

4 撮影間隔を設定する

1 十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）で「分」を設定し、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）で「秒」を設定し、十字キー（▶）を押す

選択枠が「撮影間隔」に戻ります。

インターバル撮影
撮影間隔 ▶ 0分 10秒
撮影枚数 2
撮影開始時間 0時間 0分後
MENU

5 十字キー（▼）を押す

選択枠が「撮影枚数」に移動します。

6 撮影枚数を設定する

1 十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）で「撮影枚数」を設定し、十字キー（▶）を押す

選択枠が「撮影枚数」に戻ります。

7 十字キー（▼）を押す

選択枠が「撮影開始時間」に移動します。

8 撮影開始時間を設定する

1 十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）で「時」を設定し、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）で「分」を設定し、十字キー（▶）を押す

選択枠が「撮影開始時間」に戻ります。

9 MENUボタンを押す

インターバル撮影機能の設定が保存され、撮影できる状態になります。

10 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

11 シャッターボタンを全押しする

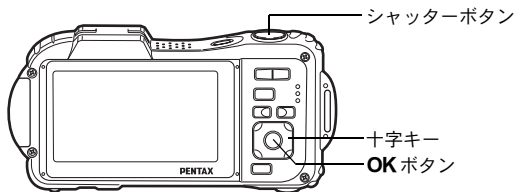
インターバル撮影を開始します。
撮影と撮影の間（撮影待機中）は、LCDオフになります。撮影待機中に電源スイッチを押すと、画像モニターに残りの撮影枚数と撮影間隔が表示されます。
撮影待機中に電源スイッチを押して、**MENU**ボタンを押すと、「インターバル撮影を中止しますか？」とメッセージが表示されます。**OK**ボタンを押すと、インターバル撮影が中止されます。

注意

- AUTO PICT（オートピクチャー）／●（グリーン）／▮▮▮（パノラマ）／WIDE（デジタルワイド）／❁（花火）／🎙（ボイスレコーディング）モードでは、インターバル撮影はできません。
- インターバル撮影を実行している間は、アラームが設定されていても、アラームは鳴りません。
- 撮影待機中にSDメモリーカードの抜き差しを行うと、インターバル撮影は中止されます。

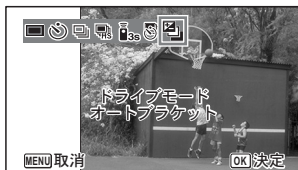
インターバル撮影の設定は、「📷撮影」メニューからも行うことができます（p.134）。

露出条件を自動で変えて撮影する（オートブラケット）

1回シャッターボタンを押すと、露出を自動的に変えた3枚の写真を連続して撮影します。撮影した後に、写りのいい画像を選ぶことができます。
撮影の順番は、適正露出→ -1.0EV→+1.0EVとなります。

1 モードで十字キー（▲）を押す

「ドライブモード」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）を押して、（オートブラケット）を選択し、OKボタンを押す

オートブラケット撮影できる状態になります。

3 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

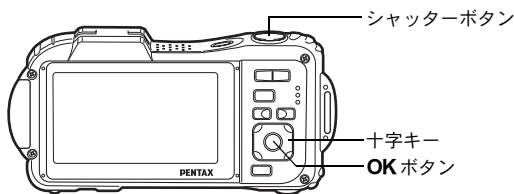
4 シャッターボタンを全押しする

シャッターボタンを1回押すと露出を自動的に変えた3枚の写真が撮影されます。

- クイックビューがオンに設定されている場合 (p.137)、撮影後に撮影された画像がクイックビュー表示されます (p.76)。
- (動画)／(マーメードムービー)／(オートピクチャー)／(デジタル顕微鏡)／(グリーン)／(花火)／(パノラマ)／(デジタルワイド)／(フレーム合成)／(ボイスレコーディング)モードではオートブラケットは選択できません。

3
撮影

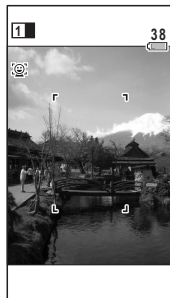
デジタルワイドを使って撮影する（デジタルワイドモード）

WIDE（デジタルワイド）モードでは、縦位置の2枚の撮影画像をカメラ内で合成することで、最大で約21mm相当（35mmフィルム換算）の広角撮影ができます。

1 ◘モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）でWIDE（デジタルワイド）を選ぶ

3 OKボタンを押す

WIDEモードになります。
カメラを時計方向に90°回して縦位置に構え、1枚目の構図を決めます。
カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます。（p.79）

4 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

5 シャッターボタンを全押しする

1枚目の撮影画像が記憶され、2枚目の撮影画面が表示されます。

6 2枚目を撮影する

画面左の位置合わせガイドに画像を重ねて、2枚目の構図を決めます。
手順4～5と同じ操作で2枚目の撮影をすると、1枚目と2枚目の撮影画面が合成されます。
合成された画像は画像モニターに一時的に表示（クイックビュー）された後、保存されます。

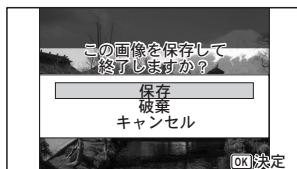
- 2枚目を撮影するときは、位置合わせガイドの右端を軸にしてカメラを旋回させるようにすると、ひずみの少ない写真ができます。
- 1枚目と2枚目の重ね合わせ部分に、動くものや繰り返しパターンの像があったり、逆に何もない場合は、うまく合成できないことがあります。
- 顔検出機能（p.79）がオンの場合は、1枚目の撮影時のみ顔検出機能が働きます。
- WIDEモードで撮影した画像は、5M（2592×1944）で保存されます。
- WIDEモードでは1cm（1cmマクロ）は選択できません。
- WIDEモードでは**OK**/**DISPLAY**ボタンを押して情報表示を切り替えることはできません。

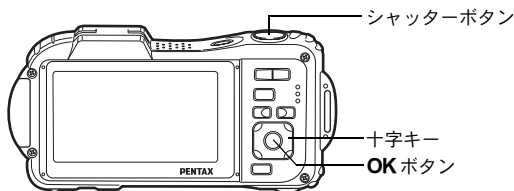
1枚目で撮影をやめるとき

1 p.110の手順5で2枚目の撮影画面が表示されているときに、OKボタンまたは十字キー（▼）を押す

確認の画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で処理を選び、OKボタンを押す

保存	1枚目の画像を保存し、新たに1枚目から撮影します。1枚目の画像は3M（2048×1536）で保存されます。
破棄	1枚目の画像を保存しないで、新たに1枚目から撮影します。
キャンセル	2枚目の撮影画面に戻ります。

パノラマ撮影をする（パノラマモード）

▮■◧（パノラマ）モードでは、2枚または3枚の撮影画像をカメラ内で合成してパノラマ写真を作成します。

1 ◘モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◄►）で▮■◧（パノラマ）を選ぶ

3 OK ボタンを押す

▮■◧モードになり、「移動する方向を指定してください」とメッセージが表示されます。

4 十字キー（◄►）で、画像をつなげる方向を選ぶ

1枚目を撮影する画面が表示されます。

カメラが人物の顔を検出すると、顔検出機能が働き、顔検出枠が表示されます。（p.79）

5 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

6 シャッターボタンを全押しする

1枚目の画像が撮影され、2枚目を撮影する画面が表示されます。

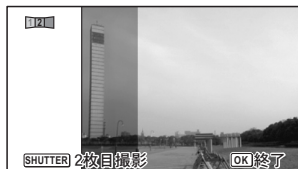
手順4で▶を選んでいる場合

画面の左端に、1枚目に撮った画像の右端部分が透過表示されます。

手順4で◀を選んでいる場合

画面の右端に、1枚目に撮った画像の左端部分が透過表示されます。

7 2枚目の画像を撮影する

実画像が1枚目の画像の透過表示に重なるようにカメラを移動し、シャッターを切ります。

8 3枚目の画像を撮影する

3枚目も手順5～7を繰り返して撮影します。
画像がパノラマ合成され、合成結果が表示されます。
クイックビュー（p.137）がオフの場合は、合成結果は表示されません。

- 1枚目と2枚目、または2枚目と3枚目の重ね合わせ部分に、動くものや繰り返しパターンの像があったり、逆に何もない場合は、うまく合成できないことがあります。
- 顔検出機能（p.79）がオンの場合は、1枚目の撮影時のみ顔検出機能が働きます。
- ▮■▮モードでは**OK**/**DISPLAY**ボタンを押して、LCDオフに切り替えることはできません。

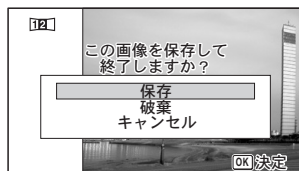
3
撮影

1枚目または2枚目で撮影をやめるとき

1 **p.113の手順6で1枚目の画像を撮影後、または手順7で2枚目の画像を撮影後に、OK ボタンまたは十字キー（▼）を押す**

確認の画面が表示されます。

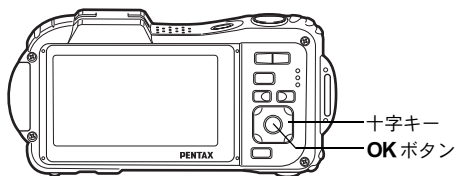
2 **十字キー（▲▼）で処理を選び、OK ボタンを押す**

保存	撮影済みの画像を保存し、新たに1枚目から撮影します。2枚目の画像撮影後に選択すると、1枚目と2枚目の撮影画像がパノラマ合成され、合成結果が表示されます。
破棄	撮影済みの画像を保存しないで、新たに1枚目から撮影します。
キャンセル	直前の撮影画面に戻ります。

▮■◀モードで撮影した合成前の画像は、2M（1600×1200）に固定されます。

ストロボの発光方法を選択する

⚡A	オート	暗いときや逆光のときにストロボが自動的に発光します。
⊘	発光禁止	暗いときや逆光のときでも発光しません。ストロボが使えない場所での撮影にご利用ください。
⚡	強制発光	明るさにかかわらず、常にストロボを発光します。
👁A	オート＋赤目	ストロボの光が目に反射して赤く写るのを軽減します。自動的にストロボを発光します。
👁⚡	強制＋赤目	ストロボの光が目に反射して赤く写るのを軽減します。常にストロボを発光します。

- 以下のときは、⊘固定になります。
  - 撮影モードが🎥（動画）／（マーメードムービー）／（デジタル顕微鏡）／（花火）のとき
  - ドライブモードが（連続撮影）／（高速連写）／（オートブラケット）のとき
  - フォーカスモードが▲（無限遠）のとき
- （グリーン）モードでは、⚡A／⊘のみ選択できます。
- （夜景）モードでは、⚡Aと👁Aは選択できません。
- ⚡Aのときに顔検出された場合、自動的に👁⚡になります。
- 赤目軽減機能を使用した場合は、本発光の前にプリ発光（予備発光）を行います。

近距離撮影時にストロボを発光させると、ストロボの配光にムラができる場合があります。

1 ◘モードで十字キー（◀）を押す

「ストロボモード」画面が表示されます。
押すたびに発光方法が切り替わります。十字キー（▲▼）でも切り替えられます。

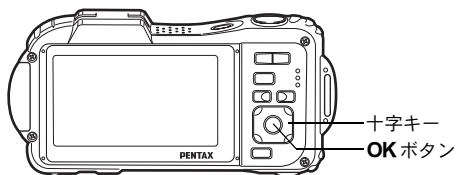
2 OKボタンを押す

設定が保存され、撮影できる状態になります。

ストロボ撮影の赤目現象について
ストロボ撮影で人物の目が赤く写ることがあります。これは、目の網膜にストロボの光が反射して発生する現象です。赤目現象は、人物の周りを明るくしたり、撮影距離を近くして広角側で撮影すると、発生しにくくなります。また、ストロボの発光方法を◉A（オート＋赤目）や◉⚡（強制＋赤目）にするのも有効です。
それでも赤目になってしまった画像は、赤目補正機能（p.201）を使って修正できます。

ストロボ発光方法の設定を保存する ☞p.156

ピントの合わせ方を選ぶ（フォーカスモード）

AF	標準	被写体までの距離が50cm～∞の範囲でピント調整を行います。シャッターボタンを半押ししたときに、AFエリアにあるものにピントを合わせます。
🌷	マクロ	被写体までの距離が10cm～60cmの範囲でピント調整を行います。シャッターボタンを半押ししたときに、AFエリアにあるものにピントを合わせます。
🌷1cm	1cmマクロ	被写体までの距離が1cm～30cmの範囲でピント調整を行います。シャッターボタンを半押ししたときに、AFエリアにあるものにピントを合わせます。
PF	パンフォーカス	他の人に撮ってもらうときや、車や電車の窓越しに外の風景を撮るときなどに使用します。手前から奥までピントが合うようになります。
▲	無限遠	遠くにあるものを撮影するときに使用します。ストロボは⊘（発光禁止）となります。
MF	マニュアルフォーカス	手動でピントを合わせます。

1 📷モードで十字キー（▶）を押す

「フォーカスモード」画面が表示されます。
押すたびにフォーカスモードが切り替わります。十字キー（▲▼）でも切り替えられます。

2 OKボタンを押す

設定が保存され、撮影できる状態になります。

- ●（グリーン）モードでは、AF／🌷／PFのみ選択できます。
- WIDE（デジタルワイド）モードでは🌷1cm（1cmマクロ）は選択できません。
- ※（花火）モードは▲に固定されます。
- 🎥（動画）、（マーメードムービー）モードでフォーカスモードのPF、▲以外を選択した場合、撮影中のピント合わせ時の作動音が音声録音に入ります。
- オートマクロをオンのときに🌷を選択して撮影する場合、被写体までの距離が60cmより遠いと、自動的に∞（無限遠）までのピント合わせが行われます。

フォーカスモードの設定を保存する ☞p.156

3
撮影

手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）

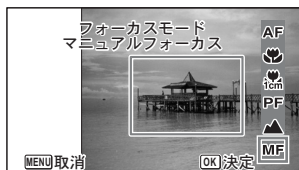
MFでのピント合わせを説明します。

1 📷モードで十字キー（▶）を押す

「フォーカスモード」画面が表示されます。

2 十字キー（▶）を押してMFを選ぶ

3 OKボタンを押す

画面中央部が画像モニターいっぱいに拡大して表示されます。

4 十字キー（▲▼）を押す

画像モニターにMFバーが表示され、おおよその距離が表示されます。これを目安に十字キー（▲▼）でピントを合わせます。

▲　遠くにピントが合う
▼　近くにピントが合う

MFバー

5 OKボタンを押す

フォーカス位置が決定し、撮影できる状態になります。
フォーカス位置を決定させた後、もう一度十字キー（▶）を押すと、**MF**バーが表示され、ピントを合わせ直すことができます。

MFバーが表示されている間は、撮影モードやドライブモードを変更できません。

MFから他のフォーカスモードに切り替えるときは、**MF**バーが表示されている間に十字キー（▶）を押してください。

オートフォーカス範囲を設定する（AFエリア）

オートフォーカスの対象となる範囲（AFエリア）を設定します。

[ ] マルチ	通常範囲に設定します。
⛶ スポット	フォーカスが合う範囲を狭くします。
自動追尾	動き回る被写体にフォーカスを合わせ続けます。

1 📷モードでMENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

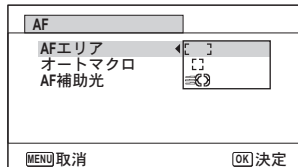
2 十字キー（▲▼）で「AF」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「AF」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で「AFエリア」を選ぶ

5 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

6 十字キー（▲▼）でAFエリアを選ぶ

7 OKボタンを押す

設定が保存されます。

8 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

- (動画)/(マーメードムービー)/(フレーム合成)モードでは、は選択できません。
- (花火)/(グリーン)/(オートピクチャー)モードでは、[ ]に固定されます。

オートマクロを設定する

オンに設定すると、フォーカスモードがAF(標準)のときでも、必要に応じてマクロ域(被写体までの距離が10cm～60cm)までのピント調整を行います。
オフに設定すると、フォーカスモードが標準(AF)の場合、AF動作は標準域のみとなり、マクロ域でのピント調整は行いません。
フォーカスモードがマクロ、1cmマクロの場合、それぞれのマクロ域のみのピント調整になり、標準域でのピント調整は行いません。

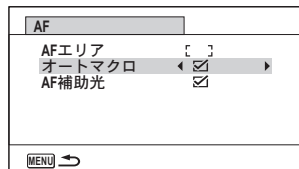
1 モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー(▲▼)で「AF」を選ぶ

3 十字キー(▶)を押す

「AF」画面が表示されます。

4 十字キー(▲▼)で「オートマクロ」を選ぶ

5 十字キー(◀▶)で「☑(オン)/□(オフ)」を切り替える

設定が保存されます。

6 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

AF補助光を設定する

AF補助光は、周囲が暗い場合に自動的に発光します。AF補助光のオン／オフを設定します。

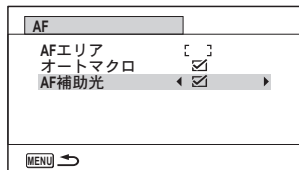
1 📷モードでMENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「AF」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「AF」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で「AF補助光」を選ぶ

5 十字キー（◀▶）で「☑（オン）／□（オフ）」を切り替える

設定が保存されます。

6 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

注意

AF補助光を直接見ても安全上の問題はありませんが、多少まぶしく感じますので、発光部を至近距離から直接のぞきこむことはしないでください。

メモ

次の場合、AF補助光は発光しません。

- 🎥（動画）／🎬（マーメードムービー）／🎆（花火）モード時
- フォーカスモードが、**PF**（パンフォーカス）、▲（無限遠）、**MF**（マニュアルフォーカス）のいずれかのとき

画像仕上を設定する

画像仕上がりを設定します。
「鮮やか」「ナチュラル」「モノトーン」の3種類から選択します。
初期値は「鮮やか」です。

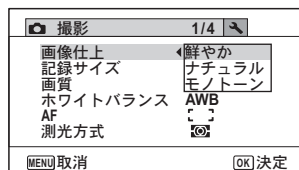
1 **モードでMENUボタンを押す**

撮影メニューが表示されます。

2 **十字キー（▲▼）を押して「画像仕上」を選ぶ**

3 **十字キー（▶）を押す**

ポップアップが表示されます。

4 **十字キー（▲▼）で仕上がりを選ぶ**

5 **OKボタンを押す**

設定が保存されます。

6 **MENUボタンを押す**

撮影できる状態になります。

- 「モノトーン」を選択すると、「彩度」の代わりに色の感じを設定する「調色」が撮影メニューに表示されます。
- （CALS）モードで「モノトーン」を選択すると、調色設定は「標準」に固定されます。

3
撮影

記録サイズを選択する

静止画像の記録サイズ（横×縦の画素数）を選択します。
記録サイズが大きいほど、プリントしたときに、より鮮明な画像が得られます。ただし、写真の美しさ、鮮明さは画質や露出制御、使用するプリンターの解像度なども関係するので、むやみに大きくする必要はありません。はがきサイズにプリントする場合は、3M程度が目安です。記録サイズが大きくなるほど、画像が大きくなりファイルサイズも増えます。次の表を参考に、用途に応じて適切な「記録サイズ」を設定してください。

記録サイズ		用途
14M	4288×3216	↑ 鮮明、きれい　フォトプリントなどの高画質印刷、A4以上の大判プリント、画像編集などの加工用など
10M 1:1	3216×3216	
10M 16:9	4224×2376	
7M	3072×2304	
5M 16:9	3072×1728	
5M	2592×1944	
4M 16:9	2592×1464	
3M	2048×1536	
2M 16:9	1920×1080	はがきサイズプリントなど
1280	1280× 960	
1024	1024× 768	
640	640× 480	ホームページ掲載、電子メール添付など

- 初期設定は、14Mです。
- 1280（1280×960）は（CALS）モード設定時だけの記録サイズです。メニューには表示されません。

10M 16:9／5M 16:9／4M 16:9／2M 16:9を選ぶと、画像の横縦比が16：9になり、撮影／再生時の画像モニターの表示は右のようになります。

3
撮影

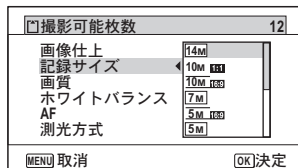
1 ◘モードでMENUボタンを押す

「◘撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「記録サイズ」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）で記録サイズを選ぶ

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

6 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

- ●（グリーン）モードで撮影した画像は、14Mに固定されます。
- ◎（フレーム合成）モードで撮影した画像は、3Mまたは2M 16:9に固定されます。
- WIDE（デジタルワイド）モードで撮影した画像は、5Mに固定されます（2枚目の撮影をせずにデジタルワイドを終了した場合は3Mになります）。
- （CALS）モードで撮影した画像は、1280（1280×960）に固定されます。
- （パノラマ）モードで1枚目のみを撮影して保存した場合は、2Mに固定されます。
- （高感度）モードで撮影した画像は5Mまたは4M 16:9に固定されます。
- （デジタル顕微鏡）モードで撮影した画像は2M 16:9に固定されます。

静止画の画質を選択する

用途に合わせて、静止画の画質を選びます。
★が多いほど画像はきれいですが、画像データのサイズも増えます。
データのサイズは、選んだ記録サイズによっても異なります（☞p.123）

画質

★★★	S.ファイン	圧縮率が最も低く、写真用のプリントなどに適しています。
★★	ファイン	圧縮率が標準で、パソコンの画面で画像を見るときに適しています。（初期値）
★	エコノミー	圧縮率が最も高く、電子メールへの添付やホームページ作成用に適しています。

1 モードでMENUボタンを押す

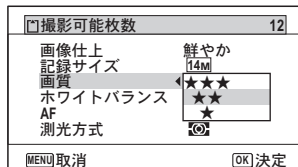
「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「画質」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップメニューが表示されます。

4 十字キー（▲▼）で画質を切り替える

上部の撮影可能枚数に、選んだ画質で撮影できる枚数が表示されます。

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

6 MENUボタンを押す

撮影ができる状態になります。

（グリーン）モードでは、★★（ファイン）固定になります。

3 撮影

ホワイトバランスを調整する

撮影時の光の状態に応じて、画像を自然な色合いに調整する度合いを設定します。

AWB	オート	カメラが自動的に調整します。
	太陽光	太陽の下で撮影するときに設定します。
	日陰	日陰で撮影するときに設定します。
	白熱灯	電球など白熱灯で照明されたものを撮影するときに設定します。
	蛍光灯	蛍光灯で照明されたものを撮影するときに設定します。
	マニュアル	手動で調整して撮影するときに設定します。

- ホワイトバランスを **AWB** に設定して撮影した画像がお好みの色合いでない場合には、ホワイトバランスを**AWB**以外に設定してください。
- 撮影モードによっては、ホワイトバランスが変更できない場合があります。詳しくは「各撮影モードの機能対応」（p.280）をご覧ください。

1 モードでMENUボタンを押す

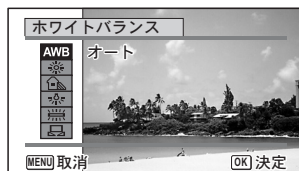
「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「ホワイトバランス」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「ホワイトバランス」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で設定を選ぶ

設定を切り替えるたびに、選んだ色合いで画像モニターが表示されます。

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

6 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。
マニュアルで設定する場合は、次をご覧ください。

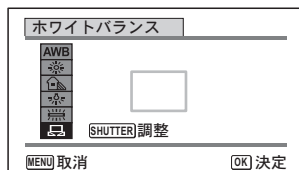
「ホワイトバランス」の設定をよく変更する場合は、グリーンボタンのFn設定に登録しておくとすぐに呼び出せます（p.137）。

ホワイトバランスの設定を保存する ☞p.156

マニュアルで設定する

あらかじめ、白い紙などホワイトバランスの調整に用いる素材を用意しておきます。

1 「ホワイトバランス」画面で十字キー（▲▼）を押して（マニュアル）を選ぶ

2 ホワイトバランスの調整に用いる素材（白い紙など）にレンズを向け、画像モニター中央に表示されている枠の中いっぱいに素材が入るよう、カメラを構える

3 シャッターボタンを全押しする

ホワイトバランスが自動的に調整されます。

4 OKボタンを押す

設定が保存され、「撮影」メニューに戻ります。

5 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

測光方式を設定する

画面のどの部分で明るさを測り、露出を決めるのかを設定します。

	分割測光	画面内を256分割して明るさを測り、露出を決めます。
	中央重点測光	画面の中央に重点を置きつつ、画面全体の明るさを均等に測って露出を決めます。
	スポット測光	画面の中央だけの明るさを測り、露出を決めます。

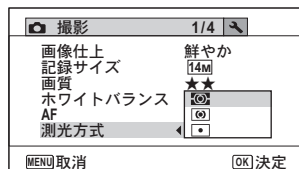
1 モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「測光方式」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）で測光方式を選ぶ

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

6 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

- 測光は、シャッターボタンを半押ししたときに行われ、露出が決定されます。
- 画面の中央にない被写体を「スポット測光」を利用して適正露出で撮影したいときは、いったん被写体を画面中央に置き、シャッターボタンを半押しして露出を固定してからカメラを動かし、撮りたい構図を決めます。
- 撮影モードによっては、測光方式が変更できない場合があります。詳しくは「各撮影モードの機能対応」（p.280）をご覧ください。

測光方式の設定を保存する ☞p.156

3 撮影

感度を設定する

撮影する場所の明るさに応じて、感度を設定することができます。

AUTO	設定をカメラにまかせます（初期値：感度 80～800）。
80	↑ 感度が低い（数字が小さい）ほど、ノイズの少ない画像が得られます。暗い場所ではシャッタースピードが遅くなります。
100	
200	
400	
800	
1600	
3200	↓ 感度が高い（数字が大きい）ほど、暗い場所でもシャッタースピードを速くできます。画像にはノイズが増えます。
6400	

1 ◘モードでMENUボタンを押す

「◘撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「感度」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

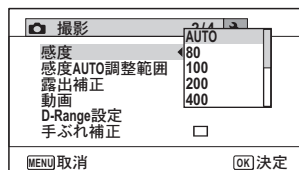
4 十字キー（▲▼）で感度を選ぶ

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

6 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

メモ

- 感度を3200／6400に設定すると、記録サイズは5M（2592×1944）または4M 16:9（2592×1464）に固定されます。
- （高感度）／（グリーン）／（動画）／（マーメードムービー）モードに設定されているときは、「AUTO」のみになります。
- （花火）モードに設定されているときは、80に固定されます。
- 撮影モードが（CALS）に設定されているときは、AUTO は 80 ～ 6400に固定されます。他の感度を選ぶこともできます。

感度の設定を保存する ☞p.156

感度AUTO調整範囲を設定する

感度でAUTOを選択した場合の感度の範囲設定を行います。
選択できるのは80-100、80-200、80-400、80-800、80-1600の5種類です。

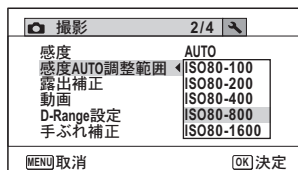
1 モードでMENUボタンを押す

撮影メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「感度AUTO調整範囲」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）で感度調整範囲を選ぶ

撮影 2/4
感度 AUTO
感度AUTO調整範囲 ISO80-100
露出補正 ISO80-200
動画 ISO80-400
D-Range設定 ISO80-800
手ぶれ補正 ISO80-1600
MENU 取消　OK 決定

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

6 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

メモ

感度が80または100のときに、ハイライト補正を☑（オン）に設定すると、感度は160に変更されます。「ハイライト補正」を□（オフ）にすると元に戻ります。

露出を補正する

撮影する画像全体の明るさを調整します。
意図的に露出をオーバー（明るく）やアンダー（暗く）にして撮影するときに利用します。

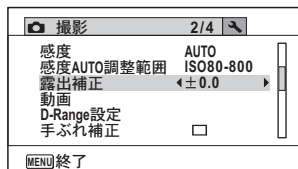
1 ◘モードでMENUボタンを押す

「◘撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「露出補正」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）を押して、補正量を選ぶ

明るくする場合は+側に、暗くする場合は–側に設定します。
露出補正の値は、–2.0EV～+2.0EVの範囲を1/3EV単位で選択できます。

◘ 撮影	2/4
感度	AUTO
感度AUTO調整範囲	ISO80-800
露出補正	◀±0.0 ▶
動画	
D-Range設定	
手ぶれ補正	□
MENU 終了	

4 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

- 静止画撮影／再生モードでヒストグラムを表示すると、露出が適切かどうかを確認できます（p.33）。
- AUTO PICT（オートピクチャー）、●（グリーン）モードでは、露出補正は使用できません。

露出補正の設定を保存する ☞p.156

明るさを補正する（D-Range設定）

表現できる階調の幅を広げて白とび・黒つぶれを防ぎます。明るすぎる部分を補正して白とびを防ぐ「ハイライト補正」と、暗すぎる部分を補正して黒つぶれを防ぐ「シャドー補正」があります。

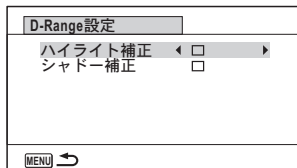
1 Aモードで MENU ボタンを押す

「A 撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「D-Range 設定」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「D-Range設定」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）でハイライト補正／シャドー補正を選ぶ

5 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

6 MENU ボタンを2回押す

撮影できる状態になります。
画像モニターにはD-Range設定のアイコンが表示されます。

DH	「ハイライト補正」が☑に設定されているとき
DS	「シャドー補正」が☑に設定されているとき
D	「ハイライト補正」と「シャドー補正」の両方が☑に設定されているとき

- 感度が80または100のときに、ハイライト補正を☑（オン）に設定すると、感度は160に変更されます。「ハイライト補正」を□（オフ）にすると元に戻ります。
- ハイライト補正／シャドー補正の設定をよく変更する場合は、グリーンボタンに登録しておくとすぐに呼び出せます（p.137）。

（オートピクチャー）／（グリーン）モードでは、D-Range設定は行えません。

手ぶれ補正を設定する

静止画撮影時の手ぶれを補正することができます。手ぶれ補正を☑（オン）に設定すると、撮影した画像の手ぶれをカメラが自動的に補正します。初期設定は□（オフ）です。

（動画）／（マーメードムービー）モードの手ぶれ補正設定は、Movie SR（p.151）で行います。

1 モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「手ぶれ補正」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

☑（オン）　自動で手ぶれ補正する
□（オフ）　手ぶれ補正しない

設定が保存されます。

4 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

- （グリーン）、WIDE（デジタルワイド）、（パノラマ）、（動画）、（マーメードムービー）、（フレーム合成）、（花火）モードでは□（オフ）固定になります。
- 「手ぶれ補正」が☑（オン）に設定されていても、ストロボが発光するときは、手ぶれ補正は行われません。

夜景撮影などシャッター速度が遅くなる条件では、手ぶれ補正の効果が十分に現れないことがあります。その場合は、「手ぶれ補正」を□（オフ）に設定し、三脚などを利用して撮影することをお勧めします。

インターバル撮影について設定する

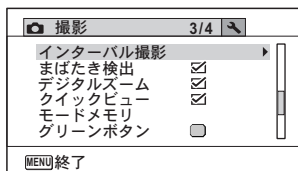
設定した時刻から、設定した時間間隔で、設定した枚数を自動的に撮影します。

撮影間隔	10秒～99分	10秒から4分までの間は1秒単位で、4分から99分までの間は1分単位で設定できます。9秒以下に設定することはできません。
撮影枚数	2枚～撮影可能枚数	最大で1000枚まで設定できます。ただし撮影可能枚数以上は設定できません。
撮影開始時間	0分後～24時間後	0～59分までは1分単位、1時間以上は1時間単位で設定できます。撮影開始時間を0分後に設定すると、シャッターボタンを押してすぐに1枚目の画像が撮影されます。

1 📷モードでMENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「インターバル撮影」を選ぶ

📷 撮影 3/4 🔧
インターバル撮影 ▶
まばたき検出 ☑
デジタルズーム ☑
クイックビュー ☑
モードメモリ
グリーンボタン
MENU 終了

3 十字キー（▶）を押す

インターバル撮影設定画面が表示されます。このとき、「撮影間隔」に選択枠がついた状態になっています。

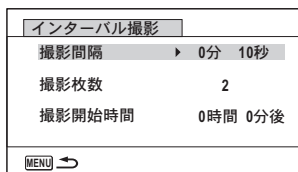
4 撮影間隔を設定する

1 十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）で「分」を設定し、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）で「秒」を設定し、十字キー（▶）を押す

設定を保存して、選択枠が「撮影間隔」に戻ります。

インターバル撮影
撮影間隔 ▶ 0分 10秒
撮影枚数 2
撮影開始時間 0時間 0分後
MENU ↩

5 十字キー（▼）を押す

選択枠が「撮影枚数」に移動します。

6 撮影枚数を設定する

1 十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）で「撮影枚数」を設定し、十字キー（▶）を押す

設定を保存して、選択枠が「撮影枚数」に戻ります。

7 十字キー（▼）を押す

選択枠が「撮影開始時間」に移動します。

8 撮影開始時間を設定する

1 十字キー（▶）を押す

現在時刻と撮影開始時刻がリアルタイムで表示されます。

インターバル撮影	
現在時刻	10:00
撮影開始時刻	10:00
撮影開始時間	0時間 0分後
MENU 取消	OK 決定

2 十字キー（▲▼）で「時」を設定し、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）で「分」を設定し、十字キー（▶）を押す

設定を保存して、選択枠が「撮影開始時間」に戻ります。

9 MENUボタンを2回押す

撮影画面に戻ります。ここまでの操作はインターバル撮影の設定を行っただけですので、実際にインターバル撮影を行うには、ドライブモードで「インターバル撮影」を選択する必要があります。

設定した時間間隔で撮影する（インターバル撮影）☞p.106

- AUTO PICT（オートピクチャー）、（パノラマ）、WIDE（デジタルワイド）、（グリーン）、（花火）、（ボイスレコーディング）モードでは、インターバル撮影はできません。
- （動画）、（マーメードムービー）モードのインターバル撮影については、p.152をご覧ください。
- インターバル撮影を実行している間は、アラームが設定されていても、アラームは鳴りません。
- 撮影待機中にSDメモリーカードの抜き差しを行うと、インターバル撮影は中止されます。

インターバル撮影の設定は、ドライブモードからも行うことができます(p.106)。

まばたき検出を設定する

顔検出機能が働いたときに、まばたき検出を行うかどうかを設定します。初期設定は☑（オン）です。

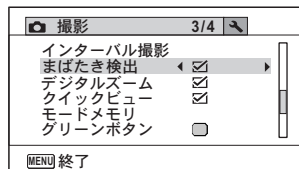
1 📷モードでMENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「まばたき検出」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

☑（オン）　まばたき検出する
□（オフ）　まばたき検出しない

設定が保存されます。

4 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

まばたき検出 ☞p.76

メモ 撮影時にまばたき検出が行われた場合は、クイックビュー時に「目を閉じていました」と3秒間表示されます。

クイックビューを設定する

撮影直後に画像を表示するクイックビューを表示するかしないかを設定します。初期設定は☑（オン：表示する）です。

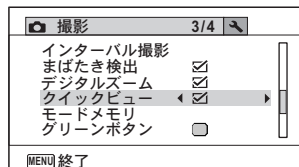
1　◘モードでMENUボタンを押す

「◘撮影」メニューが表示されます。

2　十字キー（▲▼）を押して「クイックビュー」を選ぶ

3　十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

☑（オン）　クイックビューを表示する

□（オフ）　クイックビューを表示しない

設定が保存されます。

4　MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

クイックビュー ☞p.76

グリーンボタンを設定する

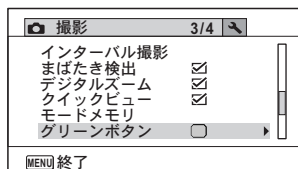
グリーンボタンに「グリーンモード」(p.85)、「ボイスレコーディング」(p.218)、「動画」(p.148)「Fn設定」(p.139) のいずれかの機能を登録できます。グリーンボタンを押すだけで、登録されている機能に切り替わります。

撮影モードが●（グリーン）モードの場合は、撮影メニューの「グリーンボタン」の設定ができません。●以外の撮影モードに切り替えてから設定をしてください。

機能を登録する

1 ◘モードでMENUボタンを押す

「◘撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「グリーンボタン」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

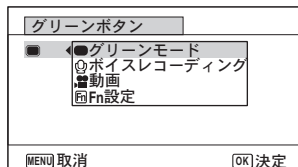
4 十字キー（▲▼）で登録する機能を選ぶ

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

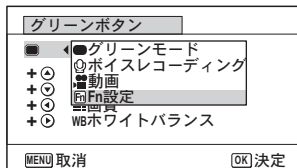
6 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

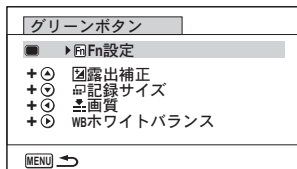
メモ

- 初期設定では、グリーンモードが登録されています。
- Fn設定で動画を設定し、撮影モードでも動画を選択している場合は、どちらも同じモードとなるためにグリーンボタン操作はできなくなります。

よく使う機能を設定する（Fn設定）

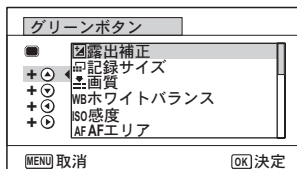
よく使う機能を十字キーに登録します。撮影時にメニューを表示しなくても、十字キーを押すことで直接機能を設定することができます。「Fn設定」は静止画撮影モードと動画撮影モードで異なる設定になっています。動画撮影時の「Fn設定」を行うには、p.138の手順1で、動画モードでMENUボタンを押してください。

4 十字キー（▲▼）で「Fn 設定」を選ぶ

5 OK ボタンを押す

Fn設定画面が表示されます。

6 十字キー（▲▼）で登録するキーを選ぶ

7 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

8 十字キー（▲▼）で登録する機能を選ぶ

9 OK ボタンを押す

設定が保存されます。

10 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

この機能は、グリーンボタンにFn設定を割り当てたときにのみ有効です。

各キーに登録できる機能は、ひとつだけです。

Fn設定の初期値

	静止画撮影	動画撮影
初期設定	(▲)露出補正	(▲)Movie SR
	(▼)記録サイズ	(▼)露出補正
	(◀)画質	(◀)記録サイズ
	(▶)ホワイトバランス	(▶)ホワイトバランス

Fn設定の設定可能項目

	静止画撮影	動画撮影
設定項目	露出補正	記録サイズ
	記録サイズ	Movie SR
	画質	ホワイトバランス
	ホワイトバランス	AFエリア
	感度	露出補正
	AFエリア	シャープネス
	オートマクロ	彩度（調色）※
	測光方式	コントラスト
	ハイライト補正	
	シャドー補正	
	シャープネス	
	彩度（調色）※	
	コントラスト	

※：撮影メニューの「画像仕上」の選択状態により、表示される項目が切り替わります。「鮮やか」か「ナチュラル」が選択されていると「彩度」、「モノトーン」が選択されていると「調色」が表示されます。

登録した機能の変更方法

撮影モードでグリーンボタンを押すと、Fn設定画面が表示されます。十字キー（▲▼◀▶）で設定したい項目を選び、十字キー（▲▼）または十字キー（◀▶）で設定を変更します。

シャープネスを設定する

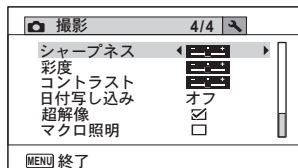
画像の輪郭をシャープまたはソフトにします。

1　モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2　十字キー（▲▼）を押して「シャープネス」を選ぶ

3　十字キー（◀▶）でシャープネスの強さを切り替える

ソフト
標準
シャープ

4　MENUボタンを押す

保存された設定で、撮影できる状態になります。

彩度／調色を設定する

色の鮮やかさ（彩度）か、色の感じ（調色）を設定します。
撮影メニューの「画像仕上」の選択状態により、表示される項目が切り替わります。

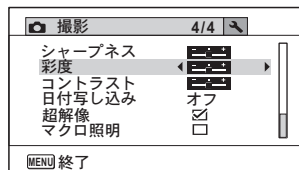
選択されている画像仕上	表示される項目
鮮やか、ナチュラル	彩度
モノトーン	調色

1　モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2　十字キー（▲▼）を押して「彩度（調色）」を選ぶ

3　十字キー（◀▶）で彩度の高さ（調色では色の感じ）を切り替える

低	（調色では青）
標準	（調色では白黒）
高	（調色ではセピア）

4　MENUボタンを押す

保存された設定で、撮影できる状態になります。

コントラストを設定する

画像の明暗差の度合いを設定します。

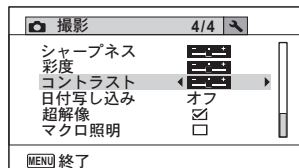
1 📷モードでMENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「コントラスト」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）でコントラストの高さを切り替える

- 低
- 標準
- 高

📷 撮影 4/4
シャープネス
彩度
コントラスト
日付写し込み オフ
超解像 ☑
マクロ照明 ☐
MENU 終了

4 MENUボタンを押す

保存された設定で、撮影できる状態になります。

日付写し込みを設定する

静止画撮影時に日付と時刻を写し込むかどうかを設定します。

1 📷モードでMENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

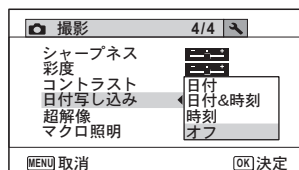
2 十字キー（▲▼）を押して「日付写し込み」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）で写し込む内容を選ぶ

「日付」「日付＆時刻」「時刻」「オフ」から選択します。

📷 撮影 4/4
シャープネス
彩度
コントラスト
日付写し込み
超解像
マクロ照明
日付
日付&時刻
時刻
オフ
MENU 取消 OK 決定

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

6 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

- 「日付写し込み」で画像に写し込んだ日付／時刻は、あとから消去できません。
- 日付／時刻を写し込んだ画像を印刷するときに、プリンターや画像編集ソフトで日付を印刷するように設定すると、日付／時刻が重なって印刷されます。

- 「日付写し込み」をオフ以外に設定すると、📷モードのときに画像モニターにDATEと表示されます。
- 日付／時刻は、「日時設定」（p.55）で設定した表示スタイルで写し込まれます。

超解像処理を行うかどうか設定する

超解像技術を応用した画像処理によって、より解像感のある画像を撮影できます。

1 📷モードでMENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「超解像」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

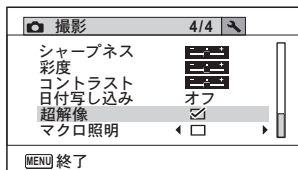
☑（オン）　超解像処理をする

□（オフ）　超解像処理をしない

設定が保存されます。

📷 撮影 4/4

シャープネス
彩度
コントラスト
日付写し込み オフ
超解像 ☑
マクロ照明 ◀ □ ▶

MENU 終了

4 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

以下の場合は、超解像はオフ固定となります。

- 感度が3200または6400のとき
- 撮影モードが（高感度）のとき
- ドライブモードが（高速連写）のとき

マクロ照明を使うかどうか設定する

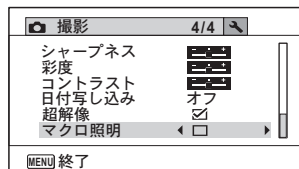
レンズ周りのマクロ照明用LEDを点灯するか設定します。
☑（オン）のとき、LEDを点灯します。
初期設定は□（オフ：消灯）です。

1 📷モードでMENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「マクロ照明」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

☑（オン）　LEDを点灯する
□（オフ）　LEDを消灯する
設定が保存されます。

4 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

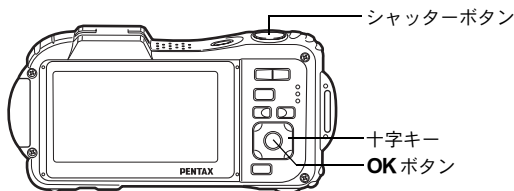
- （デジタル顕微鏡）モードではこの設定に関係なくマクロ照明用LEDが点灯します。
- エコモードが設定されている場合、設定時間が経過するとLEDは消灯します。
- デジタル顕微鏡モードでビデオ出力している場合を除き、再生モード時およびUSB接続時はマクロ照明の設定にかかわらずLEDが消灯します。
- マクロ照明をオンにしている場合は、自分撮りアシスト、自分撮りアシスト＋スマイルキャッチは選択できません。

「マクロ照明」を☑（オン）に設定して、セルフタイマー（、）またはリモコン（、）での撮影を行う場合、マクロ照明用LEDは、カウントダウンに関係なく、点灯を続けます。

水中で撮影する

水中で撮影する（マーメード／マーメードムービーモード）

このカメラはJIS防水保護等級8級、JIS防塵保護等級6級（IP68）に準拠した防水・防塵性能を備えており、水深10mで連続2時間撮影できます。

📷	水中で静止画を撮影するときに使います。水の青さを美しく撮影できます。
🎥	水中で動画を撮影するときに使います。

1 📷モードで十字キー（▼）を押す

撮影モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で 📷（マーメード）または 🎥（マーメードムービー）を選ぶ

3 OK ボタンを押す

撮影モードが選択され、撮影できる状態になります。

4 シャッターボタンを半押しする

ピントが合った位置で、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

5 シャッターボタンを全押しする

📷を選んだときは、静止画が撮影されます。
🎥を選んだときは、動画の撮影が開始されます。動画の撮影を終了するときは、シャッターボタンを全押しします。🎥（動画）モードと同様の操作で動画を撮影することができます。

動画を撮影する ☞p.148

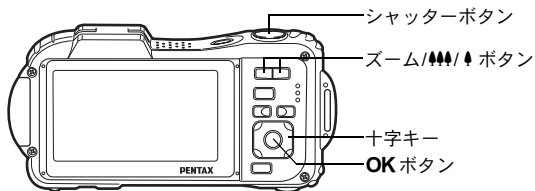
- 水中で撮影するときは、バッテリー／カードカバー、端子カバーの防水パッキンにゴミや砂などが付着していないことを十分に確認し、バッテリー／カードカバー、端子カバーをしっかりとロックしてご使用ください。
- ご使用後にバッテリー／カードカバー、端子カバーを開けるときは、バッテリー／カードカバー、端子カバーを含むカメラ全体に水やゴミ、砂などが付着していないことを十分に確認してください。もし付着していたら、よく拭き取ってから、カバーを開けてください。
- モードでは、「測光方式」は「分割測光」に固定されます。

防水・防塵・耐衝撃性能についての注意 ☞p.7

- モードでは、ストロボは発光しません。
- フォーカスモードを**MF**に設定している場合は、撮影開始前にも撮影中にもピントを調整することができます。
- マーメードムービーの光学ズームとデジタルズームは、撮影開始前に使うことができます。デジタルズームは撮影中にも使うことができます。

このカメラは防水・防塵性能を備えていますが、以下のような使い方は避けてください。瞬間的に、このカメラが保証する以上の強い水圧がかかり、内部に水が入ることがあります。
- カメラを持って水中に飛び込む
- カメラを手に持って水中を泳ぐ
- 河川の急流や滝など、勢いよく水がかかる環境で使用する

動画を撮影する

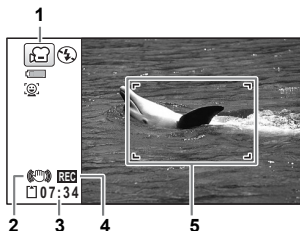
動画を撮影します。音声も同時に記録されます。

1 **◘モードで十字キー（▼）を押す**

撮影モードパレットが表示されます。

2 **十字キー（▲▼◀▶）で🎥（動画）を選ぶ**

3 **OK ボタンを押す**

🎥（動画）モードが選択され、撮影できる状態になります。
画像モニターに次の情報が表示されます。

1 動画モードアイコン
2 手ぶれ補正アイコン
3 撮影可能時間
4 録画中アイコン（録画中に点滅）
5 フォーカスフレーム（録画中は表示されません）

ズーム/♠♠♠/♠ボタンを押すと、被写体の写る範囲が変わります。

♠　被写体を拡大して写す

♠♠♠　被写体を広い範囲で写す

4 シャッターボタンを全押しする

録画が開始されます。録画は連続で内蔵メモリー／SDメモリーカードの容量いっぱい、または最大で2GBまで可能です。

5 シャッターボタンを全押しする

録画が終了します。

動画を再生する ☞p.161

- 🎥（動画）モードでは、ストロボは発光しません。
- フォーカスモードは、撮影開始前に変更することができます。
- フォーカスモードを**MF**（マニュアルフォーカス）に設定している場合は、撮影開始前にピントを調整することができます。
- 光学ズームとデジタルズームは、撮影開始前に使うことができます。デジタルズーム（p.89）が☑（オン）に設定されているとき、デジタルズームを撮影中にも使うことができます。
- 撮影モードを🎥（動画）にすると、顔検出機能がオンになります。動画の撮影を開始する前に☺ボタンを押して、スマイルキャッチ機能を選択するか、または顔検出機能をオフにできます（p.79）。スマイルキャッチ機能が選択されている場合は、笑顔を検出すると自動的に動画の撮影が開始されます。ただし検出した顔の条件によっては「スマイルキャッチ」機能が働かず、自動的に動画の撮影が開始されないことがあります。その場合は、シャッターボタンを押すと撮影が開始されます。
- マイクはカメラ正面にありますので、カメラの向きによっては、音声は小さな音量で記録されることがあります。
- リモコン（別売）を使って撮影することもできます（p.104）。
- 動画撮影中は、**OK**/**DISPLAY** ボタンを使って画像モニターの表示を切り替えても、ヒストグラムは表示されません。

シャッターボタンを押し続けて撮影する

シャッターボタンを1秒以上押し続けると、シャッターボタンを押し続けている間だけ動画が撮影されます。シャッターボタンから指を離すと撮影が終了します。

動画の記録サイズとフレームレートを選択する

動画の記録サイズとフレームレートを選択できます。
「記録サイズ」が大きいほど鮮明な画像になりますが、ファイルサイズが増えます。また、「フレームレート」が大きい方が滑らかな動きになりますが、ファイルサイズが増えます。

設定	記録サイズ	フレームレート	用途
1280 30	1280×720	30fps	ハイビジョンサイズ（16：9）で記録されます。動きが滑らかに記録されます。（初期設定）
1280 15	1280×720	15fps	ハイビジョンサイズ（16：9）で記録されます。画像の容量が小さいため、長く記録できます。
640 30	640×480	30fps	テレビやパソコンの画面で見るときに適しています。動きが滑らかに記録されます。
640 15	640×480	15fps	テレビやパソコンの画面で見るときに適しています。画像の容量が小さいため、長く記録できます。
320 30	320×240	30fps	電子メール添付やホームページ掲載に適しています。動きが滑らかに記録されます。
320 15	320×240	15fps	電子メール添付やホームページ掲載に適しています。画像の容量が小さいため、長く記録できます。

※ フレームレート（fps）は1秒あたりの画面数を表します。

1 モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「動画」を選ぶ

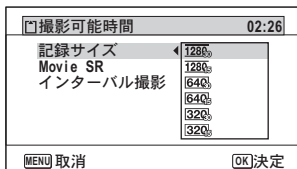
3 十字キー（▶）を押す

「動画」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で「記録サイズ」を選ぶ

5 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

6 十字キー（▲▼）で記録サイズとフレームレートを選ぶ

7 OKボタンを押す

設定が保存されます。

8 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

以下の制限があるため、記録サイズを選択する際に表示される撮影可能時間と、実際の連続撮影可能時間が異なる場合があります。

- 1ファイルあたりの上限サイズは2GBです。

動画の手ぶれ補正を設定する（Movie SR）

（動画）モードでは、Movie SR（動画手ぶれ補正）を使って動画撮影中の手ぶれを補正することができます。

1 モードでMENUボタンを押す

「撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「動画」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「動画」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で「Movie SR」を選ぶ

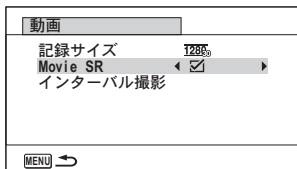
5 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

☑（オン）　自動で手ぶれ補正する

□（オフ）　手ぶれ補正しない

設定が保存されます。

3

撮影

6 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

設定した時間間隔で動画を撮影する（インターバル動画）

設定した時刻から、設定した時間間隔で自動的に撮影した複数の静止画をひとつの動画ファイルとして記録します。

撮影間隔	1分、5分、10分、30分、1時間のいずれかに設定できます。
撮影所要時間	10分～359時間の間で設定できます。撮影間隔での設定によって、設定できる撮影所要時間と設定単位が変わります。撮影間隔の設定値により、1分単位、5分単位、10分単位、30分単位、1時間単位で設定できます。
撮影開始時間	0分後～24時間後の間で設定できます。59分までは1分単位、1時間以上は1時間単位で設定できます。撮影開始時間を0分後に設定すると、シャッターボタンを押してすぐに1枚目の画像が撮影されます。

ドライブモードから設定する

1 、モードで十字キー（▲）を押す

2 十字キー（◀▶）で（インターバル撮影）を選択し、OKボタンを押す

現在のインターバル動画設定内容が約1分間表示されます。現在の設定のまま撮影をする場合は手順10に進みます。

3 設定内容表示中にOKボタンを押す

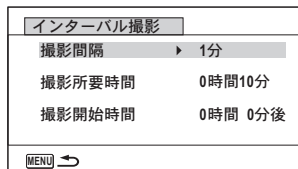
インターバル動画設定画面が表示されます。このとき、「撮影間隔」に選択枠がついた状態になっています。

4 撮影間隔を設定する

1 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「撮影間隔」を設定し、OKボタンを押す

選択枠が「撮影間隔」に戻ります

5 十字キー（▼）を押す

選択枠が「撮影所要時間」に移動します。

6 撮影所要時間を設定する

1 十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）で「時」を設定し、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）で「分」を設定し、十字キー（▶）を押す

選択枠が「撮影所要時間」に戻ります。

7 十字キー（▼）を押す

選択枠が「撮影開始時間」に移動します。

8 撮影開始時間を設定する

1 十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）で「時」を設定し、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）で「分」を設定し、十字キー（▶）を押す

選択枠が「撮影開始時間」に戻ります。

9 MENUボタンを押す

インターバル動画機能の設定が保存され、撮影できる状態になります。

10 シャッターボタンを半押しする

ピントが合うと、画像モニターのフォーカスフレームが緑色に変わります。

11 シャッターボタンを全押しする

インターバル動画を開始します。
撮影と撮影の間（撮影待機中）は、LCDオフになります。撮影待機中に電源スイッチを押すと、画像モニターに残り撮影時間と撮影間隔が表示されます。
撮影待機中に電源スイッチを押して、**MENU**ボタンを押すと、「インターバル撮影を中止しますか？」とメッセージが表示されます。**OK**ボタンを押すと、インターバル動画が中止されます。

メニューから設定する

インターバル動画の設定は「◘撮影」メニューから設定することもできます。

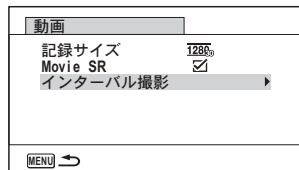
1 ◘モードで**MENU**ボタンを押す

「◘撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「動画」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「動画」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で「インターバル撮影」を選ぶ

5 十字キー（▶）を押す

インターバル動画設定画面が表示されます。この後の手順は「ドライブモードから設定する」の手順4以降と同じです。

- インターバル動画撮影の前に、バッテリーが十分に充電されていることを確認してください。バッテリーが十分に充電されていないと、インターバル動画撮影中にバッテリーが消耗し、インターバル動画撮影が終了することがあります。
- インターバル動画撮影時は、記録サイズ：1280（1280×720）、画質：★★★、Movie SR：□（オフ）、ストロボモード：⊕で固定されます。ただしフレームレートは、動画メニューの「記録サイズ」（p.150）での設定にしたがって撮影されます。
- 撮影待機中にSDメモリーカードの抜き差しを行うと、インターバル撮影は中止されます。
- インターバル動画では音声は記録されません。
- SD メモリーカードはスピードクラスが Class 4 以上のものを使用してください。

- 撮影開始時間を設定している間は、現在の時刻と設定した撮影開始時間に対応した撮影開始時間がリアルタイムで表示されます。
- 撮影間隔によって設定可能な撮影所要時間は異なります。撮影間隔ごとの設定可能な撮影所要時間は下表の通りです。

撮影間隔	設定可能な撮影所要時間	
	30fps	15fps
1分	10分～5時間59分 （1分単位で設定）	10分～5時間59分 （1分単位で設定）
5分	30分～29時間55分 （5分単位で設定）	15分～29時間55分 （5分単位で設定）
10分	1時間～59時間50分 （10分単位で設定）	30分～59時間50分 （10分単位で設定）
30分	3時間～179時間30分 （30分単位で設定）	1時間30分～179時間30分 （30分単位で設定）
1時間	6時間～359時間 （1時間単位で設定）	3時間～359時間 （1時間単位で設定）

設定を保存する（モードメモリ）

カメラの電源を切っても、カメラの諸設定を維持する機能を「モードメモリ」と呼びます。
撮影のための設定には、モードメモリが常に☑（オン）のもの（電源を切っても常に設定を維持するもの）と、モードメモリのオン／オフが選べるもの（電源を切ったときに設定を維持するかどうかを選べるもの）があります。モードメモリのオン／オフが選べる項目を表に示します（ここに示した項目以外は、電源を切っても常に設定が保存されます）。
☑（オン）を選ぶと、電源を切る直前の設定状態が保存されます。□（オフ）を選ぶと、電源を切ったときにその項目の設定が工場出荷時の状態に戻ります。表では、モードメモリの初期設定がオンか、オフかも示しています。

項目	内容	初期設定	参照
顔検出モード	顔検出ボタンで設定した顔検出モード	□	p.79
ストロボモード	十字キー（◀）で設定したストロボモード	☑	p.115
ドライブモード	十字キー（▲）で設定したドライブモード	□	p.101～p.108
フォーカスモード	十字キー（▶）で設定したフォーカスモード	□	p.117
ズーム位置	ズーム/広角/望遠ボタンで設定したズーム位置	□	p.87
MF位置	十字キー（▲▼）で設定したマニュアルフォーカスでのピントの合う距離	□	p.118
ホワイトバランス	「撮影」メニューの「ホワイトバランス」の設定	□	p.126
感度	「撮影」メニューの「感度」で設定した値	□	p.129
露出補正	「撮影」メニューの「露出補正」で設定した値	□	p.131
測光方式	「撮影」メニューの「測光方式」の設定	□	p.128
デジタルズーム	「撮影」メニューの「デジタルズーム」の設定	☑	p.89
DISPLAY	**OK/DISPLAY** ボタンで設定した画像モニターの情報表示状態	□	p.25
ファイルNo.	オンにすると、SDメモリーカードを入れ替えた場合でも連続したファイル番号を使用	☑	—

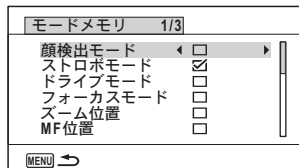
1 📷モードでMENUボタンを押す

「📷撮影」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押して「モードメモリ」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「モードメモリ」画面が表示されます。

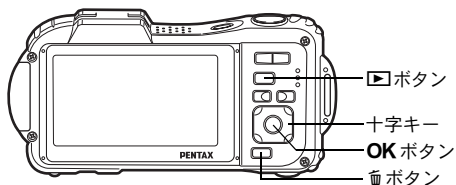
4 十字キー（▲▼）で項目を選ぶ

5 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

6 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

4 画像の再生と消去

再生する

静止画を再生する

1　撮影後に▶ボタンを押す

▶モードになり、撮影した画像が画像モニターに表示されます。また、▶モード時に画像が1枚だけ表示されている状態（▶モードの初期状態）を「1画面表示」と呼びます。

ファイル番号

100-0038

編集

前後の画像を再生する

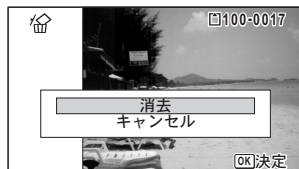
2　十字キー（◀▶）を押す

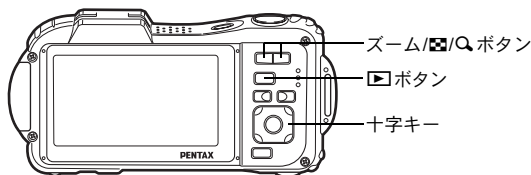
前後の画像が表示されます。

表示した画像を消去する

画像表示中に🗑ボタンを押すと、表示中の画像を消去する画面が表示されます。十字キー（▲）を押して「消去」を選び**OK**ボタンを押すと、表示中の画像を消去できます。

その他の消去のしかた ☞p.174

4　画像の再生と消去

動画を再生する

動画を再生します。動画再生時には、音声も同時に再生されます。

1 ▶モードに入り、十字キー（◀▶）で再生したい動画を選ぶ

2 十字キー（▲）を押す

再生が開始します。

再生中にできる操作

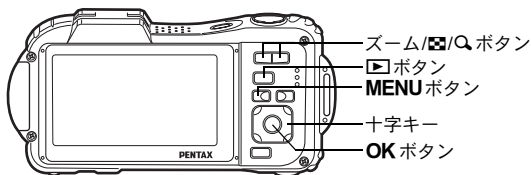
十字キー（◀）	逆方向に再生
十字キー（▲）	一時停止
ズーム/⊞/Qボタン（Q）	音量を大きくする
ズーム/⊞/Qボタン（⊞）	音量を小さくする
十字キー（▶）長押ししている間	早送り再生
十字キー（◀）長押ししている間	早戻し再生

一時停止中にできる操作

十字キー（◀）	コマ戻しする
十字キー（▶）	コマ送りする
十字キー（▲）	再生を再開

3 十字キー（▼）を押す

再生が停止します。

複数の画像を表示する

6画面表示／12画面表示

複数の画像を同時に6枚または12枚ずつ画像モニターに表示します。

1 ▶モードで、ズーム/⊞/🔍ボタンの⊞側を押す

6画面表示になり、画像が6コマずつ1ページに表示されます。もう一度ズーム/⊞/🔍ボタンの⊞側を押すと、12画面表示になります。

画像は6コマまたは12コマずつ1ページに表示され、ページ単位で表示される画像が切り替わります。
十字キー（▲▼◀▶）で選択枠が移動します。1ページに表示されていない画像がある場合は、①の画像を選択しているときに十字キー（▲◀）を押すと前のページが表示され、②の画像を選択しているときに十字キー（▼▶）を押すと次のページが表示されます。
◆はその前後の画面が、別のフォルダーに格納されていることを示しています。

6画面表示

フォルダー区切りアイコン

選択枠

12画面表示

画像に表示される記号の意味は次のとおりです。

（無印）	音声なしの静止画
🎙（画像あり）	音声付きの静止画
🎥	動画（1コマ目の画像を表示）
🎙（画像なし）	音声のみのファイル

OKボタンを押すと、選択した画像の1画面表示に切り替わります。
▶ボタンを押すと、📷モードに切り替わります。

フォルダー表示／カレンダー表示

12画面表示でズーム/⊞/🔍ボタンの⊞側を押すと、フォルダー表示またはカレンダー表示に切り替わります。フォルダー表示とカレンダー表示は、グリーンボタンで切り替えます。

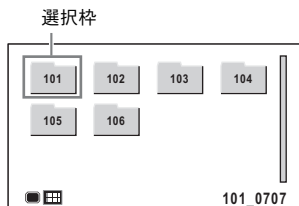
1 ▶モードで、ズーム/⊞/🔍ボタンの⊞側を2回押す

画面が12画面表示に切り替わります。

2 ズーム/⊞/🔍ボタンの⊞側を押す

画面がフォルダー表示またはカレンダー表示に切り替わります。

フォルダー表示

画像や音声が記録されているフォルダーが一覧表示されます。
十字キー（▲▼◀▶）で選択枠が移動します。
フォルダーを選択してズーム/⊞/🔍ボタンの🔍側を押すかOKボタンを押すと、フォルダー内の画像が12画面表示されます。

カレンダー表示

撮影した画像や録音した音声が、日付ごとにカレンダー形式で表示されます。

カレンダーには、各日付で撮影された最初の画像が表示されます。

その日付で最初に記録されているのがボイスメモ付きの静止画データや音声だけのデータの場合は、🎤が表示されます。

十字キー（▲▼◀▶）で選択枠が移動します。

日付を選択してズーム/⊞/🔍ボタンの🔍側を押すと、その日付に撮影した画像が12画面表示されます。

日付を選択して**OK**ボタンを押すと、その日付で最初に撮影した画像の1画面表示に切り替わります。

- フォルダー表示／カレンダー表示で**MENU**ボタンを押すと、12画面表示に切り替わります。
- フォルダー表示／カレンダー表示で▶ボタンまたはシャッターボタンを半押しすると、📷モードに切り替わります。

再生機能を使う

1 ▶モードで十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

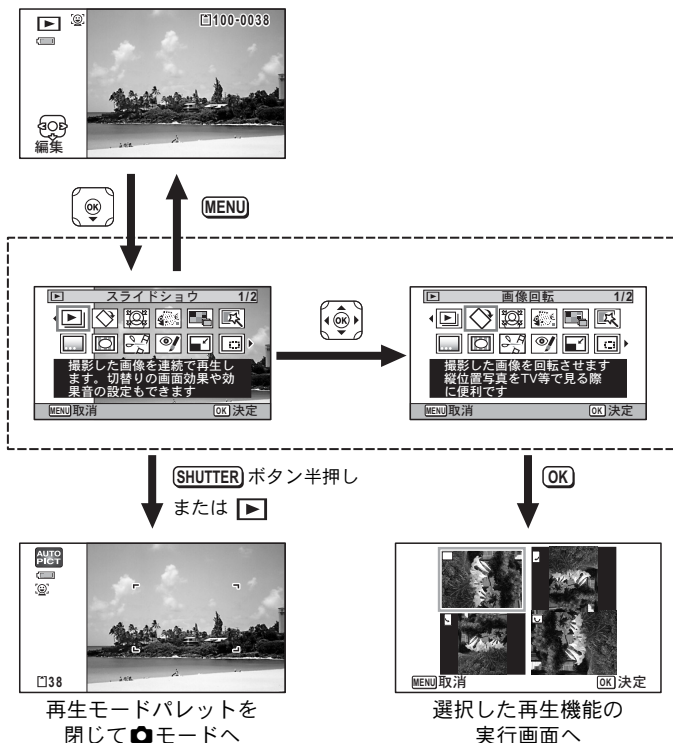
2 十字キー（▲▼◀▶）でアイコンを選ぶ

選択した機能の説明が下に表示されます。

3 OKボタンを押す

再生機能が呼び出されます。

再生モードパレットを
閉じて📷モードへ

選択した再生機能の
実行画面へ

- 再生モードパレットの各アイコンに選択枠を合わせると各機能の説明がガイド表示されます。
- 選択した機能の説明を表示させないようにすることができます（p.247）。

再生モードパレット一覧

再生モード			内容	参照
	スライドショウ		撮影した画像を連続で再生します。切り替わりの画面効果や効果音の設定もできます。	p.167
	画像回転		撮影した画像を回転させます。縦位置写真をTVなどで見る際に便利です。	p.170
	小顔フィルター		検出した顔が小さくなるように画像を加工します。	p.188
	魚拓フィルター		撮影した画像を魚拓風に仕上げます。	p.195
	コラージュ		撮影した複数の画像を 1 枚の画像にします。	p.196
	デジタルフィルター		撮影した画像にカラーフィルターやソフトフィルターをかけて仕上げます。	p.190
	オリジナルフレーム		枠の種類や色を選んで作成します。文字も入力できます。	p.205
	フレーム合成		撮影した画像にフレームを付けて保存します。上書きまたは新規保存が選べます。	p.202
	動画編集	静止画保存	動画の1コマを静止画として保存します。	p.209
		動画分割	1つの動画を2つに分割します。	
		タイトル画像追加	動画にタイトル画像を追加します。	
	赤目補正		赤目になった画像を修正します。元画像によっては正しく補正できない場合があります。	p.201
	リサイズ		撮影した画像の記録サイズと画質を変更して、ファイルサイズを小さくします。	p.186
	トリミング		画像の不要な部分を削除して好みの大きさに変更します。新規保存されます。	p.187
	画像/音声コピー		内蔵メモリーとSDメモリーカード間で画像や音声のファイルをコピーします。	p.212
	ボイスメモ		撮影した画像に音声を付けます。カードの空き容量分の録音ができます。	p.222
	プロテクト		消したくない画像や音声を保護します。ただしフォーマットを行うと、消去されます。	p.178
	DPOF		撮影した画像の印刷設定をします。お店でプリントする際に便利です。	p.214
	起動画面設定		撮影した画像をカメラの起動時に表示するよう設定します。	p.249

スライドショウで連続再生する

保存されている画像と動画を連続して再生します。

1　▶モードに入り、十字キー（◀▶）でスライドショウを開始する画像を選ぶ

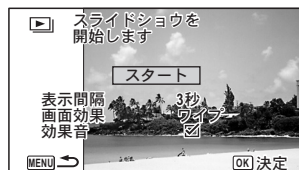
2　十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3　十字キー（▲▼◀▶）で▶（スライドショウ）を選ぶ

4　OKボタンを押す

スライドショウの設定画面が表示されます。

5　十字キー（▲▼）で「スタート」を選ぶ

6　OKボタンを押す

スライドショウがスタートします。

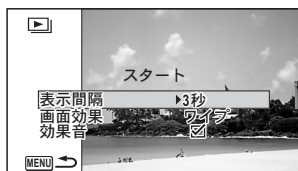
スライドショウの途中で**OK**ボタンを押すと、一時停止します。もう一度**OK**ボタンを押すと再開します。

7　OKボタン以外のどれかのボタンを押す

スライドショウが終了します。

スライドショウの条件を設定する

再生時の表示間隔と画像切り替え時の画面効果・効果音を設定します。

1 p.167 の手順 5 の画面で、十字キー（▲▼）で「表示間隔」を選ぶ

2 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

3 十字キー（▲▼）で表示間隔を選び、OK ボタンを押す

「3秒」「5秒」「10秒」「20秒」「30秒」から選択します。

4 十字キー（▲▼）で「画面効果」を選ぶ

「画面効果」を選択後、十字キー（▶）を押すと、次の内容がポップアップで表示されます。十字キー（▲▼）で選択し、**OK** ボタンを押すと決定します。

ワイプ	左から右へ画面が流れる効果
チェッカー	小さな四角のモザイク状のブロックで画面が切り替わる効果
フェード	現在の画像が徐々に消え、そこに次の画像が浮かび上がってくる効果
ランダム	様々な効果をランダムに
オフ	切り替え効果なし

5 十字キー（▲▼）で「効果音」を選ぶ

6 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

画面効果を「オフ」以外に設定すると、画面が切り替わるときに流れる音のオン（☑）／オフ（□）を切り替えることができます。

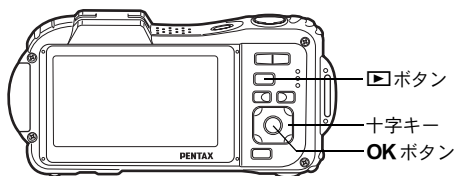
7 十字キー（▲▼）で「スタート」を選ぶ

8 OK ボタンを押す

設定した表示間隔と画面効果でスライドショウが始まります。

- スライドショウは、**OK** ボタン以外のどれかのボタンを押して終了するまで何度も繰り返します。
- 動画や音声付き画像は表示間隔の設定にかかわらず、すべて再生されてから次の画像に移ります。ただし、動画の再生中や音声付き画像の音声再生中に十字キー（▶）を押すと、すぐに次の画像へ移ります。
- 🎙（ボイスレコーディング）で録音した音声は、スライドショウでは再生されません。
- スライドショウの再生にパノラマ画像が含まれる場合は、パノラマ画像は表示間隔や画面効果の設定にかかわらず、4秒間かけて左から右へスライド表示されます。
- 画面効果を「ランダム」に設定したときには、表示間隔は固定され、効果音もオフになります。また、音声付き静止画の音声は再生されません。

AV機器と接続する ☞p.181

画像を回転表示する

1　撮影後に▶ボタンを押す

撮影した画像が画像モニターに表示されます。

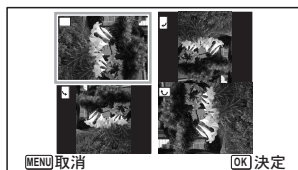
2　十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

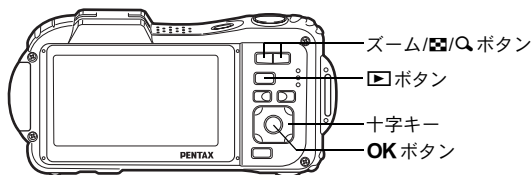
3　十字キー（▲▼◀▶）で◇（画像回転）を選び、OK ボタンを押す

回転方向を4種類（0°／右90°／左90°／180°）から選ぶ画面が表示されます。

4　十字キー（▲▼◀▶）で回転方向を選び、OK ボタンを押す

回転した状態で画像が保存されます。

- パノラマ撮影された画像や動画は回転表示できません。
- プロテクトされた画像は、回転表示はできますが、回転された状態は保存されません。

再生画像を拡大する

画像を再生するときに、最大10倍まで拡大表示できます。

1　▶モードに入り、十字キー（◀▶）で拡大表示したい画像を選ぶ

2　ズーム/⊞/🔍ボタンの🔍側を押す

画像が大きく（1.1～10倍）表示されます。ズーム/⊞/🔍ボタンの🔍側を押し続けると連続的に大きさが変わります。
「クイック拡大」(p.246) を☑（オン）に設定していると、🔍側を押すだけで一気に10倍まで拡大します。
画像のどの部分を拡大しているかを画面左下のガイド表示の＋マークで確認できます。

ガイド表示

拡大表示中にできる操作

十字キー（▲▼◀▶）	拡大位置を移動する
ズーム/⊞/🔍ボタン右（🔍）	画像を拡大する（最大10倍まで）
ズーム/⊞/🔍ボタン左（⊞）	画像を縮小する（最小1.1倍まで）

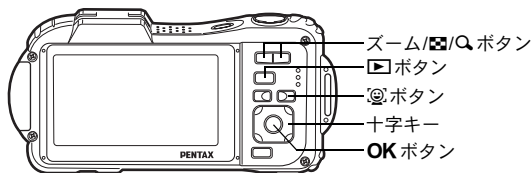
3　OKボタンを押す

1画面表示に戻ります。

動画は拡大表示できません。

4
画像の再生と消去

被写体の顔を自動的に拡大する（顔アップ再生）

撮影時に顔検出機能が働いて被写体の顔を検出した画像を再生する場合は、[顔アイコン]ボタンを押すだけで、被写体の顔をクローズアップした再生（顔アップ再生）ができます。

1 [再生]モードに入り、十字キー（◀▶）で拡大表示したい画像を選ぶ

2 画像に[顔アイコン]アイコンが表示されているのを確認し、[顔アイコン]ボタンを押す

メインの顔を中心に、顔アップ再生されます。

撮影時に複数の顔を検出した場合は、[顔アイコン]ボタンを押すたびに、それぞれの被写体の顔を中心にした顔アップ再生が行われます。

顔アップ再生中にできる操作

ズーム/⊞/🔍ボタン右（🔍）	顔アップ再生されている被写体を中心に、現在の拡大率と同じかやや大きい倍率で表示
ズーム/⊞/🔍ボタン左（⊞）	顔アップ再生されている被写体を中心に、現在の拡大率と同じかやや小さい倍率で表示

3 OKボタンを押す。

1画面表示に戻ります。

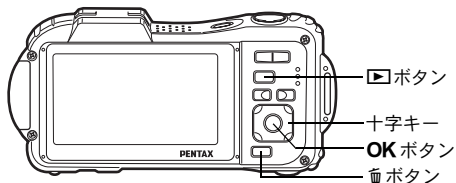
- 動画や動画から切り出された画像は顔アップ再生できません。
- 顔アップ再生時の拡大倍率は、撮影時に検出された顔の大きさなどの条件によって異なります。
- ペットモードで撮影されたペットの画像も、顔アップ再生ができます。

消去する

失敗したり、不要になった画像や音声を消去します。

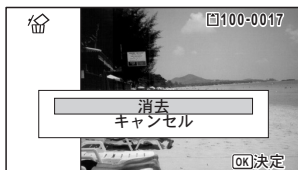
1画像／音声ずつ消去する

1画像、1音声ずつ消去します。

プロテクトされている画像／音声は消去できません（p.178）。

1 ▶モードに入り、十字キー（◀▶）で消去したい画像／音声を選ぶ

2 🗑ボタンを押す

消去を確認する画面が表示されます。

3 十字キー（▲）で「消去」を選ぶ

4 OKボタンを押す

消去されます。

音声を消去する

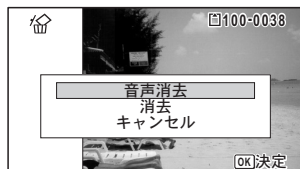
音声（ボイスメモ）付きの画像（p.222）の場合は、画像は消去せずに音声のみを消去することができます。

1 ▶モードに入り、十字キー（◀▶）で音声付きの画像を選ぶ

音声付きの画像は♪が表示されています。

2 🗑ボタンを押す

消去を確認する画面が表示されます。

3 十字キー（▲）で「音声消去」を選ぶ

4 OKボタンを押す

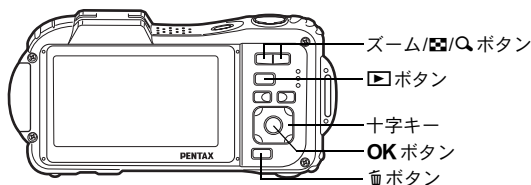
音声が消去されます。

- 画像と音声の両方を消去するには、手順3で「消去」を選びます。
- 動画の音声だけを消去することはできません。

4 画像の再生と消去

選択して消去する

6画面表示／12画面表示で複数の画像／音声を選択し、まとめて削除します。

プロテクトされている画像／音声は消去できません（p.178)。

1 ▶モードで、ズーム/⊞/🔍ボタンの⊞側を1回または2回押す

6画面表示または12画面表示になります。

2 🗑ボタンを押す

画像／音声に□が表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で削除する画像または音声に移動し、OKボタンを押す

画像が選択され、☑が表示されます。ズーム/⊞/🔍ボタンの🔍側を押すと、押している間だけ選択した画像が1画面表示され、削除したい画像かどうかを確認できます（ボタンから指を離すと、6画面表示／12画面表示に戻ります)。ただし、プロテクトされた画像は1画面表示できません。

4 画像の再生と消去

4 🗑ボタンを押す

消去を確認する画面が表示されます。

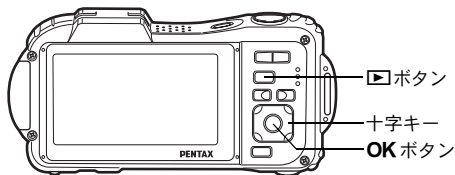
5 十字キー（▲）で「選択消去」を選ぶ

6 OKボタンを押す

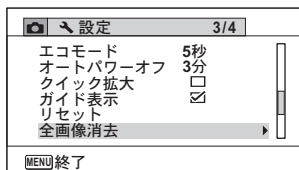
選択した画像／音声が消去されます。

まとめて消去する

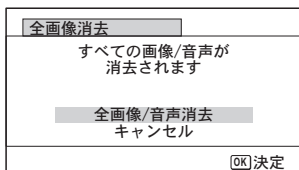
保存されているすべての画像／音声を消去します。

プロテクトされている画像／音声は消去できません（p.178）。

1 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードで**MENU**ボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）を押し、「全画像消去」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

すべての画像／音声の消去を確認する画面が表示されます。

4 十字キー（▲）で「全画像/音声消去」を選ぶ

5 OKボタンを押す

すべての画像／音声が消去されます。

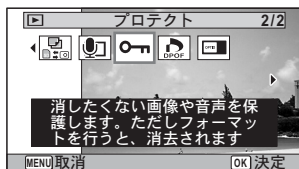
消去できないようにする（プロテクト）

記録した画像／音声を誤って消去しないようにプロテクト（保護）します。

1 ▶モードに入り、十字キー（◀▶）でプロテクトする画像を選ぶ

2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

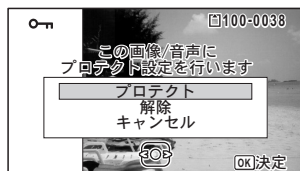
3 十字キー（▲▼◀▶）でO━ㅠ（プロテクト）を選ぶ

4 OKボタンを押す

「1画像/音声」または「全画像/音声」を選択する画面が表示されます。

5 十字キー（▲）で「1画像/音声」を選ぶ

6 OKボタンを押す

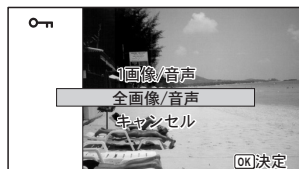
「この画像/音声にプロテクト設定を行います」とメッセージが表示されます。
別の画像／音声をプロテクトする場合は、十字キー（◀▶）で画像／音声を選びます。

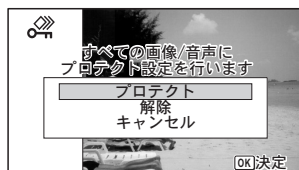
7 十字キー（▲）で「プロテクト」を選ぶ

8 OKボタンを押す

選択した画像／音声がプロテクトされます。
他の画像／音声をプロテクトする場合は、手順5～8を繰り返します。
終了する場合は「キャンセル」を選びます。

- プロテクトを解除するときは、手順7で「解除」を選びます。
- プロテクトされている画像／音声には、再生時に🔑が表示されます。

すべての画像と音声をプロテクトするには

1 **p.179の手順5で「全画像/音声」を選ぶ**

2 **OK ボタンを押す**

3 **十字キー（▲）で「プロテクト」を選ぶ**

4 **OK ボタンを押す**

すべての画像／音声がプロテクトされ、手順1の画面に戻ります。

5 **十字キー（▲▼）で「キャンセル」を選び、OK ボタンを押す**

再生モードパレットに戻ります。

注意 フォーマットをすると、プロテクトされている画像／音声も消去されます（p.226）。

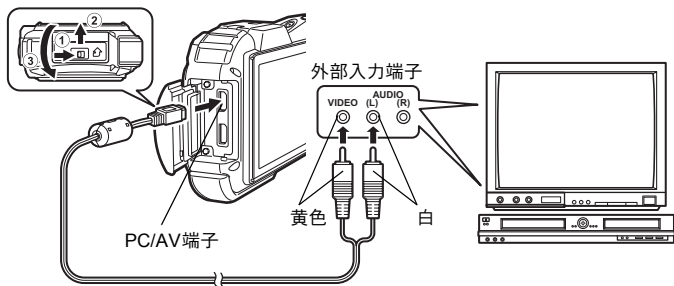
メモ 手順3で「解除」を選ぶと、すべての画像／音声のプロテクト設定が解除されます。

AV機器と接続する

ビデオ端子またはHDMI端子を備えたテレビなどと接続し、画像を再生することができます。

- 接続中はカメラの電源ランプが点灯します。
- 長時間使用するときは、別売のACアダプターキット（K-AC92J）のご使用をお勧めします。（p.43）
- 複数の映像入力端子があるAV機器で画像を見る場合は、ご使用のAV機器の使用説明書をご確認の上、カメラを接続する映像入力端子を選択してください。
- ビデオ出力とHDMI出力を同時に行うことはできません。
- AV 機器に接続している間は、カメラの画像モニターは表示されません。
- AV機器と接続した場合、カメラで音量調整はできません。AV機器側で音量を調節してください。
- AV 機器と接続した場合、リモコン（別売）を使って、画像の送り戻しができます。

ビデオ端子に接続する

付属のAVケーブル（I-AVC7）を使用すると、テレビなどのビデオ入力端子を備えた機器をモニターにして撮影や再生ができます。

1 AV機器とカメラの電源を切る

2 端子カバーを開ける

①の方向に端子カバーロックレバーを押しながら、②の方向にスライドさせ、③の方向に開けます。

3 PC/AV端子にAVケーブルを接続する

4 AVケーブルのもう一方の端子（映像：黄色、音声：白）を、AV機器の映像入力端子と音声入力端子に接続する

ステレオ音声の機器に接続するときは、音声端子をL（白）に差し込んでください。

5 AV機器の電源を入れる

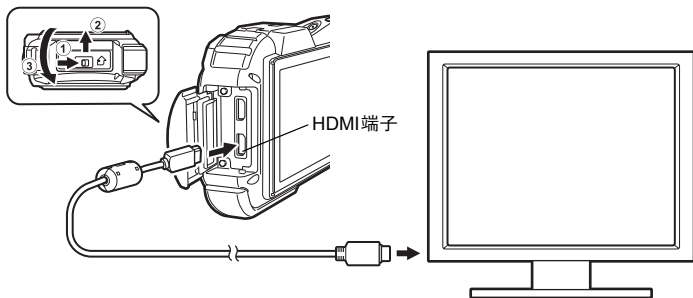
カメラを接続した機器と画像を映し出す機器が別の場合は、両方の電源を入れます。
複数の映像入力端子があるAV機器（テレビなど）で画像を見る場合は、ご使用のAV機器の使用説明書をご確認の上、カメラを接続している映像入力端子を選択してください。

6 カメラの電源を入れる

- 国や地域によってはビデオ出力方式が初期設定（「NTSC」）になっていると画像や音声を再生できない場合があります。その場合は、出力方式を「PAL」に切り替えてください（p.241）。
- 本機のAV出力は、通常の解像度での出力になります。1280 30 や 1280 15 で撮影された動画をハイビジョンの解像度で見るには、HDMI出力するか（p.183）、パソコンに転送して再生してください。

端子を使わない時は、端子カバーをしっかり閉じておいてください。
<端子カバーの閉じ方>
③と反対方向に閉じ、カバーを軽く押さえながら、②と反対方向にカチッと音がするまでスライドさせます。

HDMI端子に接続する

市販のHDMIケーブルを使用し、HDMI端子を備えた機器に接続します。

1 AV機器とカメラの電源を切る

2 端子カバーを開ける

①の方向に端子カバーロックレバーを押しながら、②の方向にスライドさせ、③の方向に開けます。

3 HDMIケーブルをHDMI端子に接続する

4 HDMIケーブルのもう一方の端子を、AV機器のHDMI端子に接続する

5 AV機器とカメラの電源を入れる

AV機器にカメラの情報が表示されます。

- 本機のHDMI端子はタイプD（Micro）です。ご使用の機器に合った市販のHDMIケーブルをご用意ください。
- 本機とAV機器を市販のHDMIケーブルで接続して動画を再生するには、「HDMI出力形式を選択する」(p.242) で出力形式を設定してください。

端子を使わない時は、端子カバーをしっかり閉じておいてください。
＜端子カバーの閉じ方＞
③と反対方向に閉じ、カバーを軽く押さえながら、②と反対方向にカチッと音がするまでスライドさせます。

4 画像の再生と消去

5 画像の編集と印刷

印刷について
このカメラで撮影した画像を印刷するには、次の方法があります。

1 プリントサービス店を利用する
2 SDメモリーカードスロットのあるプリンターを利用して、SDメモリーカードから直接印刷する
3 お手持ちのパソコンのソフトウェアを利用して印刷する

画像のサイズを変更する（リサイズ）

選択した画像の記録サイズと画質を変更して、元の画像よりもファイルサイズを小さくすることができます。SDメモリーカードまたは内蔵メモリーがいっぱいになって撮影できなくなったとき、画像をリサイズして上書きすれば、空き容量が増え、続けて撮影ができます。

注意
- パノラマ撮影された画像、10M 1:1で撮影された画像、動画はリサイズできません。
- 元の画像よりも大きいサイズ、高い画質は選択できません。

1 **▶モードに入り、十字キー（◀▶）でリサイズする画像を選ぶ**

2 **十字キー（▼）を押す**

再生モードパレットが表示されます。

3 **十字キー（▲▼◀▶）で（リサイズ）を選ぶ**

4 **OKボタンを押す**

記録サイズを選択する画面が表示されます。

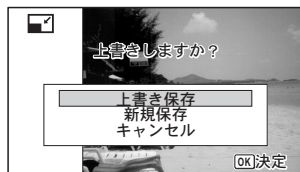
5 **「記録サイズ」と「画質」を選択する**

それぞれ、十字キー（◀▶）で選択します。

「記録サイズ」と「画質」の切り替えは、十字キー（▲▼）で行います。

6　OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

7　十字キー（▲▼）で「上書き保存」または「新規保存」を選ぶ

8　OKボタンを押す

リサイズされた画像が保存されます。

画像をトリミングする

画像周囲の不要な部分をカットして、別の画像として保存します。

パノラマ撮影された画像、10M 1:1で撮影された画像、動画はトリミングできません。

1　▶モードに入り、十字キー（◀▶）でトリミングする画像を選ぶ

2　十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3　十字キー（▲▼◀▶）で⬚（トリミング）を選ぶ

5
画像の編集と印刷

4 OKボタンを押す

トリミングを行う画面が表示されます。
画面にはトリミングできる最大の範囲が緑の枠で表示されます。この範囲を越えてトリミングはできません。

5 トリミング範囲を決める

以下の操作で緑の枠を動かして、画面のどの部分をトリミングするか決めます。

ズーム/⊞/Q ボタン	トリミングサイズの変更
十字キー（▲▼◀▶）	トリミング位置の移動
グリーンボタン	トリミング範囲の回転 • 回転できるサイズのときだけボタンが表示されます。

6 OKボタンを押す

トリミングされた画像が新しいファイル名で保存されます。
トリミング後の記録サイズは、トリミングサイズに応じて自動的に設定されます。元の画像と同じ画質で保存されます。

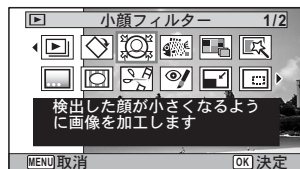
顔が小さく見えるように加工する

撮影時に顔検出機能（p.79）で検出された人物の顔を小さく見えるように加工します。

1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、編集する画像を選ぶ

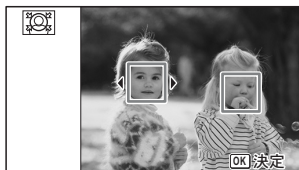
2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で☺（小顔フィルター）を選ぶ

4 OKボタンを押す

補正できる顔に顔検出枠が表示されます。
検出枠が1つのみの場合は、手順6に進みます。

5 十字キー（▲▼◀▶）で加工する顔を選択する

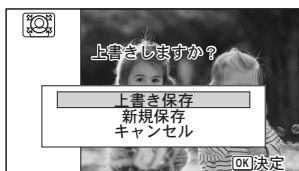
緑色の枠が加工の対象となる顔です。

6 OKボタンを押す

7 十字キー（◀▶）で縮小率を切り替える

■─・─+	約5%
─■─+	約7%
─・─■	約10%

8 OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

9 十字キー（▲▼）で上書き保存／新規保存を選ぶ

10 OKボタンを押す

▶モードに戻り、加工した画像が表示されます。

以下の場合は、加工できないことがあります。
- 画像に対して顔の占める割合が大きすぎる、または小さすぎる
- 顔が画像の端に写っている

この場合は、手順4で顔検出枠が表示されません。

デジタルフィルターを使う

選択した画像の色調を変えたり、特殊な加工を施します。

白黒／セピア	カラー画像を白黒画像、またはセピアのフィルターをかけた画像にします。
トイカメラ	トイカメラで撮影したような画像にします。
レトロ	周りに白い縁を施して、昔の写真のような雰囲気の画像にします。元画像／アンバー／ブルーの3種類のフィルターがあります。
カラー	選択したカラーフィルターをかけた画像にします。赤／桃／紫／青／緑／黄の6種類のフィルターがあります。
色抽出	選択した色抽出フィルターをかけた画像にします。赤／緑／青の3種類のフィルターがあります。
色強調	晴天／新緑／花見／紅葉の色彩を強調する4種類のフィルターがあります。
ハイコントラスト	撮った写真のコントラストを調整します。
トゥインクル	夜景や水面の光の輝きなどハイライト部にクロス状の光条を表現し、キラキラした雰囲気を強調します。クロス／ハート／星の3種類のフィルターがあります。
ソフト	全体をぼかしたようなやわらかい画像に加工します。
フィッシュアイ	フィッシュアイ（魚眼レンズ）で撮ったような効果を画像に施します。
明るさ	明るさを調整します。
ミニチュア	画像のボケ具合を操作してミニチュア風の写真に加工します。

パノラマ撮影された画像や動画、他のカメラで撮影した画像はデジタルフィルターで加工できません。再生モードパレットで機能を選択して**OK**ボタンを押すと、エラーメッセージが表示されます。

1 ▶モードに入り、十字キー（◀▶）で編集する画像を選ぶ

2 十字キー（▼）を押す

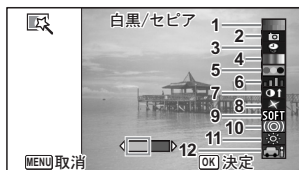
再生モードパレットが表示されます。

5 画像の編集と印刷

3 十字キー（▲▼◀▶）で🔲（デジタルフィルター）を選ぶ

4 OKボタンを押す

デジタルフィルターを選択する画面が表示されます。

1 白黒／セピア
2 トイカメラ
3 レトロ
4 カラー
5 色抽出
6 色強調
7 ハイコントラスト
8 トゥインクル
9 ソフト
10フィッシュアイ
11明るさ
12ミニチュア

選択するフィルターによって、以下に進んでください。

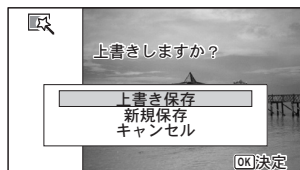
ソフトの場合

5 十字キー（▲▼）で使用するデジタルフィルターを選ぶ

フィルターに応じた加工結果がプレビュー表示されます。

6 OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

7 十字キー（▲▼）で「上書き保存」または「新規保存」を選ぶ

8 OKボタンを押す

フィルターで加工された画像が保存されます。

白黒／セピア／レトロ／カラー／色抽出／色強調／トゥインクルの場合

5 十字キー（▲▼）で使用するデジタルフィルターを選ぶ

フィルターに応じた加工結果がプレビュー表示されます。

6 十字キー（◀▶）で効果を調整する

	十字キー（◀）	初期設定	十字キー（▶）
レトロ	ブルー	元画像	アンバー

白黒／セピア	白黒↔セピア
カラー	赤↔桃↔紫↔青↔緑↔黄
色抽出	赤↔緑↔青
色強調	晴天↔新緑↔花見↔紅葉
トゥインクル	クロス↔ハート↔星

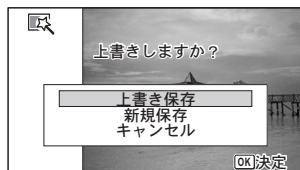
7 OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

8 十字キー（▲▼）で「上書き保存」または「新規保存」を選ぶ

9 OKボタンを押す

フィルターで加工された画像が保存されます。

トイカメラ／ハイコントラスト／フィッシュアイ／明るさ／ミニチュアの場合

5 十字キー（▲▼）で使用するデジタルフィルターを選ぶ

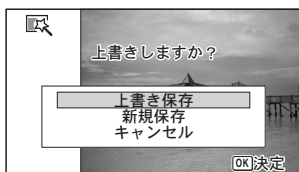
フィルターに応じた加工結果がプレビュー表示されます。

6 十字キー（◀▶）で効果を調整する

	十字キー（◀）	初期設定	十字キー（▶）
トイカメラ	弱	標準	強
ハイコントラスト	弱	標準	強
フィッシュアイ	弱	標準	強
明るさ	暗い	標準	明るい
ミニチュア	上部	上下	下部

7 OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

8 十字キー（▲▼）で「上書き保存」または「新規保存」を選ぶ

9 OKボタンを押す

フィルターで加工された画像が保存されます。

魚拓フィルターを使う

撮影した画像を魚拓風に加工します。

注意

（パノラマ）／（CALS）モードで撮影された画像や記録サイズが3M、2M 16:9、1024、640で撮影された画像，または動画、他のカメラで撮影された画像は魚拓フィルターで加工できません。手順4でエラーメッセージが表示されます。

1 **モードに入り、十字キー（▲▼◀▶）で編集する画像を選ぶ**

2 **十字キー（▼）を押す**

再生モードパレットが表示されます。

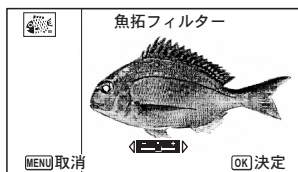
3 **十字キー（▲▼◀▶）で（魚拓フィルター）を選ぶ**

4 **OKボタンを押す**

加工結果がプレビュー表示されます。

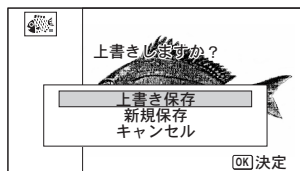
5 **十字キー（◀▶）で効果を調整する**

効果は5段階で調整することができます。

- 弱
- 中
- 強

6 **OKボタンを押す**

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

5 画像の編集と印刷

7 十字キー（▲▼）で「上書き保存」または「新規保存」を選ぶ

8 OKボタンを押す

加工された画像が保存されます。

- 加工された画像は、5M／4M 16:9の記録サイズで保存されます。
- 背景と魚の明暗比が少ないなど、元画像の条件によっては、魚の形がはっきりと出ないことがあります。

コラージュ画像を作成する

複数の撮影済み画像をレイアウトパターンに配置して、1つのコラージュ画像を作ります。

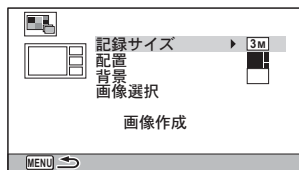
（パノラマ）／（CALS）モードで撮影された画像や記録サイズが1024、640で撮影された画像、または動画、他のカメラで撮影された画像はレイアウト編集できません。手順4でエラーメッセージが表示されます。

1 ▶モードに入り、十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で（コラージュ）を選ぶ

3 OKボタンを押す

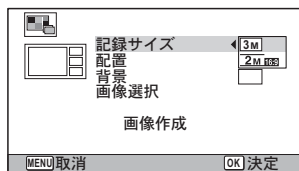
項目選択画面が表示されます。

記録サイズを選ぶ

4 十字キー（▲▼）で「記録サイズ」を選ぶ

5 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

6 十字キー（▲▼）で記録サイズを選ぶ

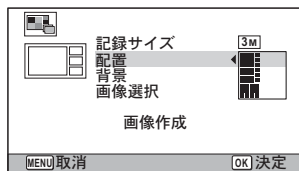
3M と 2M 16:9 から選びます。

7 OKボタンを押す

項目選択画面に戻ります。

レイアウトパターンを選ぶ

8 十字キー（▲▼）で「配置」を選ぶ

9 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

10 十字キー（▲▼）でレイアウトパターンを選ぶ

■⁝／■⁝／■■の3種類のレイアウトから選びます。

11 OKボタンを押す

項目選択画面に戻ります。

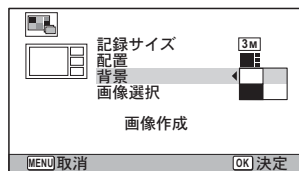
背景を選ぶ

12 十字キー（▲▼）で「背景」を選ぶ

13 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

14 十字キー（▲▼）で背景を選ぶ

白い背景か黒い背景を選びます。

15 OKボタンを押す

項目選択画面に戻ります。

画像を配置する

- ▮■▮(パノラマ)／ (CALS)モードで撮影された画像や記録サイズが 1024、640 で撮影された画像、または動画、他のカメラで撮影された画像はレイアウト編集できないため、選択候補として表示されません。
- アスペクト比16：9の画像を選択した場合、選択した各画像の上下に黒い帯が表示されます。

16 十字キー（▲▼）で「画像選択」を選ぶ

17 十字キー（▶）を押す

選択可能な画像が表示されます。

18 十字キー（◀▶）でレイアウトする画像を選び、OK ボタンを押す

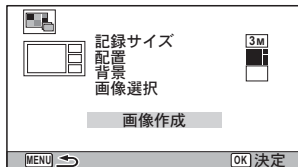
画像モニター左上に表示されるガイドでハイライト表示されている位置に、選択した画像が配置されます。

19 手順 18 を繰り返してレイアウトで指定されている枚数分配置する

20 ●ボタンを押す

項目選択画面に戻ります。

レイアウト編集した画像を保存する

21 **十字キー（▲▼）で「画像作成」を選ぶ**

22 **OK ボタンを押す**

保存するか確認する画面が表示されます。

23 **十字キー（▲）で「保存」を選ぶ**

24 **OK ボタンを押す**

レイアウト編集した画像が保存されます。

メモ

保存された画像の画質は★★★ (s.ファイン)になります。

5

画像の編集と印刷

赤目を補正する

ストロボ撮影で人物の目が赤く写った画像を補正します。

- パノラマ撮影された画像や動画、カメラ側で赤目画像と特定できなかった画像は赤目補正できません。手順4でエラーメッセージが表示されます。
- 赤目補正できるのは、このカメラで撮影した静止画像のみです。

1 ▶モードに入り、十字キー（◀▶）で赤目補正する画像を選ぶ

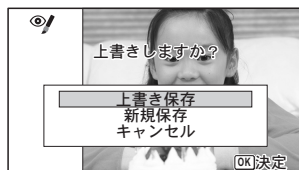
2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で赤目補正アイコン（赤目補正）を選ぶ

4 OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

5 十字キー（▲▼）で「上書き保存」または「新規保存」を選ぶ

6 OKボタンを押す

赤目補正された画像が保存されます。

フレームを合成する

撮影した静止画に、フレーム（飾り枠）を合成します。あらかじめ6種類のフレームが登録されています。付属のCD-ROM（S-SW117）からオプションのフレームをコピーして使用することもできます。

（パノラマ）／（CALS）モードで撮影された画像や記録サイズが1024、640で撮影された画像、または動画は、フレームが合成できません。手順4でエラーメッセージが表示されます。

1 モードに入り、十字キー（◀▶）でフレーム合成する画像を選ぶ

2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で（フレーム合成）を選ぶ

4 OKボタンを押す

フレーム選択の12分割画面が表示されます。

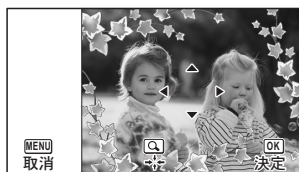
5 十字キー（▲▼◀▶）で使用するフレームを選ぶ

6 ズーム/⊞/🔍ボタンの🔍側を押す

選んだフレームが1画面表示されます。
フレームは次の方法で選び直すことができます。

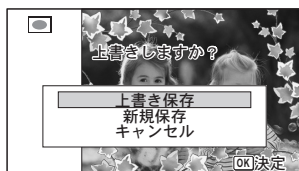
十字キー（◀▶）	別のフレームを選択
ズーム/⊞/🔍ボタン左（⊞）	フレーム選択の12分割画面に戻り、手順5と同様の操作で別のフレームを選択

7 OKボタンを押す

画像の位置調整と拡大／縮小を行う画面が表示されます。
次の方法で調整ができます。

十字キー（▲▼◀▶）	画像の位置を調整
ズーム/⊞/🔍ボタン	画像の拡大／縮小

8 OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

9 十字キー（▲▼）で「上書き保存」または「新規保存」を選ぶ

10 OKボタンを押す

フレームが合成された画像が、3M（2048×1536）／2M 16:9（1920×1080）の記録サイズで保存されます。

5 画像の編集と印刷

オプションのフレーム画像について

付属のCD-ROM（S-SW117）にはオプションのフレームが登録されています。オプションフレームを使用する場合は、CD-ROMからコピーしてください。このオプションフレームは、パソコンから内蔵メモリーのファイルを削除したり、内蔵メモリーをフォーマットすると削除されます。

フレーム画像のコピーのしかた

1　カメラからSDメモリーカードを抜く

SDメモリーカードがセットされていると、内蔵メモリーではなく、SDメモリーカードにコピーされます。

2　付属のUSBケーブル（I-USB7）でパソコンとカメラを接続する

接続のしかたは、「パソコンと接続する」（p.253）をご覧ください。

3　パソコンにデバイス検出の画面が表示されたら、「キャンセル」をクリックする

4　CD-ROM（S-SW117）をパソコンにセットする

5　インストール画面が表示されたら、「EXIT」をクリックする

6　カメラ（リムーバブルディスク）のルートディレクトリにFRAMEフォルダーがない場合は作成する

7　CD-ROM のルートディレクトリにある FRAME フォルダーから、コピーしたいファイルをカメラ（リムーバブルディスク）のFRAMEフォルダーにコピーする

パソコンのファイル操作については、お使いのパソコンの説明書などをご覧ください。

8　パソコンとカメラからUSBケーブルを外す

「パソコンと接続する」（p.253）を参考にしてください。

- 内蔵メモリーと SD メモリーカードの両方にフレームが登録できますが、数が多くなると処理に時間がかかる場合があります。

新しく入手したフレームを使う

ペンタックスのホームページなどから入手したフレームを使用して、フレームを合成することもできます。

- ダウンロードしたフレームは解凍して、内蔵メモリーやSDメモリーカードのFRAMEフォルダーにコピーしてください。
- FRAMEフォルダーは、SDメモリーカードを本機でフォーマットすると作成されます。
- ダウンロードの手順などの詳細は、当社ホームページをご覧ください。

オリジナルフレームを合成する

撮影した静止画に、オリジナルフレーム（飾り枠）を合成します。オリジナルフレームは、フレームの種類と色、位置を設定することができます。また、文字スタンプを追加することもできます。

フレーム

オリジナルフレームの種類	ぼかし／縁取り
枠種類	▣（4方向）／▣（上下）／▣（左右）／▣（上）／▣（下）／▣（左）／▣（右）
カラー	白／グレー／黒／ピンク／パンプキン／濃赤／濃緑

文字スタンプ

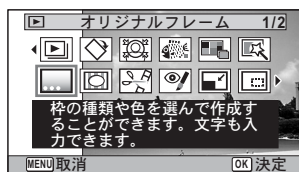
入力可能な文字	A～Z、a～z、0～9、記号
表示位置	▣（左上）／▣（中央上）／▣（右上）／▣（左下）／▣（中央下）／▣（右下）
カラー	白／グレー／黒／ピンク／パンプキン／濃赤／濃緑

（パノラマ）／（CALS）モードで撮影された画像や記録サイズが3M、2M 16:9、1024、640で撮影された画像、または動画は、オリジナルフレームが合成できません。手順4でエラーメッセージが表示されます。

1 ▶モードで十字キー（◀▶）を押し、フレーム合成する画像を選ぶ

2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で [...]（オリジナルフレーム）を選ぶ

4 OKボタンを押す

オリジナルフレームの種類を選択する画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼）でオリジナルフレームの種類を選び、OKボタンを押す

フレームを設定する画面が表示されます。

6 十字キー（▲▼）で「枠種類」を選び、十字キー（▶）を押す

7 十字キー（▲▼）で枠の種類を選び、十字キー（◀）を押す

8 手順6～7と同様の操作で「カラー」を設定する

9 フレームと画像の位置を調整する

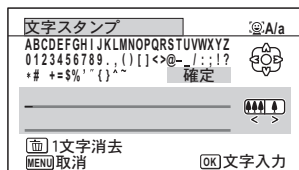
設定のしかたは「フレームと画像の位置を調整する」（p.207）をご覧ください。

10 十字キー（▲▼）で「文字スタンプ」を選び、十字キー（▶）を押す

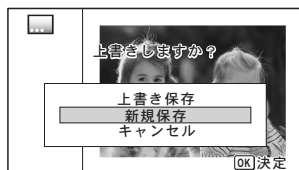
文字スタンプ設定画面が表示されます。
文字を入力しない場合は、手順12に進みます。

5 画像の編集と印刷

11 文字スタンプを設定する

設定のしかたは「文字スタンプを設定する」(p.208)をご覧ください。

12 OKボタンを押す

上書きを確認する画面が表示されます。
画像がプロテクトされている場合は、このときに新規保存され、次の確認画面は表示されません。

13 十字キー(▲▼)で「上書き保存」/「新規保存」を選ぶ

14 OKボタンを押す

オリジナルフレームが合成された画像が、5M (2592×1944)/4M 16:9 (2592×1464)の記録サイズで保存されます。

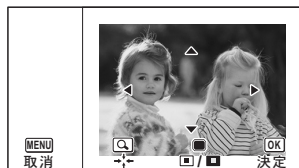
フレームと画像の位置を調整する

1 グリーンボタンを押す

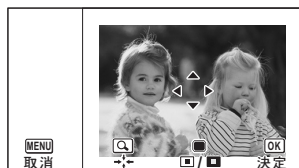
フレーム位置調整画面が表示されます。

十字キー (▲▼◀▶)	フレームの枠の位置を調整する
ズーム/⊞/Q ボタン右 (Q)	枠を拡大
ズーム/⊞/Q ボタン左 (⊞)	枠を縮小

5

画像の編集と印刷

2 グリーンボタンを押す

画像位置調整画面が表示されます。

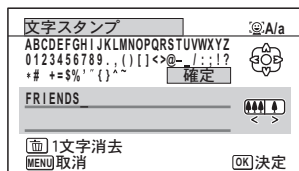
十字キー（▲▼◀▶）	画像の位置を調整する
ズーム/⊞/Q ボタン右（Q）	画像を拡大
ズーム/⊞/Q ボタン左（⊞）	画像を縮小

3 OKボタンを押す

元の画面に戻ります。

文字スタンプを設定する

1 十字キー（▲▼◀▶）で文字を選び、OKボタンを押す

選んだ文字が入力されます。
最大で52文字まで入力できます。

☺ボタン	大文字と小文字が切り替わる
ズーム/⊞/Q ボタン右（Q）	カーソルを右に移動する
ズーム/⊞/Q ボタン左（⊞）	カーソルを左に移動する
グリーンボタン	文字を消去する

2 十字キー（▲▼◀▶）で「確定」を選び、OKボタンを押す

3 十字キー（▲▼）で「表示位置」を選び、十字キー（▶）を押す

4 十字キー（▲▼）で表示位置を選び、十字キー（◀）を押す

5 十字キー（▲▼）で「カラー」を選び、十字キー（▶）を押す

6 十字キー（▲▼）でカラーを選び、十字キー（◀）を押す

プレビュー画面を見る

1 グリーンボタンを押す

プレビューが表示されます。

2 MENUボタンを押す

元の画面に戻ります。

3 OKボタンを押す

p.207の手順12に進みます。

動画を編集する

撮影した動画中のひとコマを切り出して静止画として保存したり、動画を分割したり、動画に静止画のタイトルを入れたりすることができます。

1 ▶モードに入り、十字キー（◀▶）で編集する動画を選ぶ

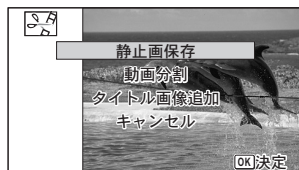
2 十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で✂（動画編集）を選ぶ

5
画像の編集と印刷

4 OKボタンを押す

動画編集を選択する画面が表示されます。
続けて以下に進んでください。

動画の1コマを静止画として保存する

5 動画編集を選択する画面で、「静止画保存」を選ぶ

6 OKボタンを押す

静止画として保存するコマを選択する画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼◀▶）を押して保存するコマを選ぶ

- ▲　再生／一時停止
- ▼　停止して最初のコマに戻る
- ◀　コマ戻し
- ▶　コマ送り

8 OKボタンを押す

選択したコマが静止画として保存されます。

動画を分割する

5 動画編集を選択する画面で、「動画分割」を選ぶ

6 OKボタンを押す

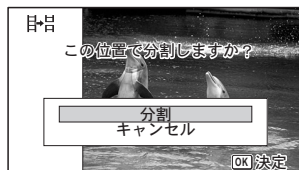
分割位置を選択する画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼◀▶）を押して分割位置を決める

- ▲　再生／一時停止
- ▼　停止して最初のコマに戻る
- ◀　コマ戻し
- ▶　コマ送り

8 OKボタンを押す

分割位置を確認する画面が表示されます。

9 十字キー（▲）で「分割」を選ぶ

10 OKボタンを押す

指定位置で分割した動画がそれぞれ新しいファイル名で保存され、元の動画は削除されます。

プロテクトされている動画は、分割できません。

動画にタイトル画像を入れる

5 編集方法を選択する画面で「タイトル画像追加」を選ぶ

6 OKボタンを押す

タイトル画像を選択する画面が表示されます。

7 十字キー（◀▶）でタイトル画像を選ぶ

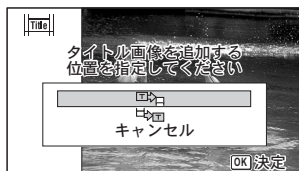
タイトル画像に設定できる画像だけが表示されます。

8 OKボタンを押す

タイトル画像の位置を確認する画面が表示されます。

9 十字キー（▲▼）で「位置」を選ぶ

- 動画の前にタイトル画像を入れる
- 動画の後ろにタイトル画像を入れる

5 画像の編集と印刷

10 OKボタンを押す

選択した静止画がタイトル画像として保存されます。

プロテクトされている動画には、タイトル画像は入れられません。

- 動画の前にタイトル画像を入れた場合: 動画再生時には、静止画が3秒間再生され、そのあとで動画が再生されます。サムネイルは登録した静止画が使用されます。
  動画の後ろにタイトル画像を入れた場合: 動画再生時には、動画が再生され、そのあとで静止画が3秒間再生されます。サムネイルは元の動画のサムネイルが使用されます。
- 動画と同じアスペクト比の静止画のみタイトル画像に設定できます。

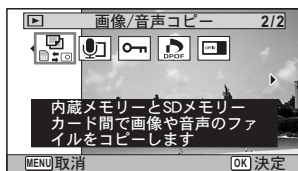
画像／音声をコピーする

内蔵メモリーとSDメモリーカード間で画像／音声をコピーします。カメラにSDメモリーカードが入っていないと、この機能は選択できません。

SDメモリーカードをセットするときや取り出すときは、必ず電源を切ってください。

1 ▶モードで十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で 🗐（画像/音声コピー）を選ぶ

3 OKボタンを押す

コピー方法を選択する画面が表示されます。

内蔵メモリーからSDメモリーカードにコピーする場合

内蔵メモリー内のすべての画像／音声をSDメモリーカードにコピーします。画像をコピーする前に、SDメモリーカードに充分な空き容量があることを確認してください。

4 **十字キー（▲）を押して「[●]➡[SD]」を選ぶ**

5 **OKボタンを押す**

すべての画像／音声がSDメモリーカードにコピーされます。

SDメモリーカードから内蔵メモリーにコピーする場合

SDメモリーカード内の画像／音声を1つずつ選んで、内蔵メモリーにコピーします。

4 **十字キー（▲▼）を押して「[SD]➡[●]」を選ぶ**

5 **OKボタンを押す**

6 **十字キー（◀▶）でコピーする画像／音声を選ぶ**

7 **OKボタンを押す**

選択した画像／音声が内蔵メモリーにコピーされます。
他の画像／音声をコピーする場合は、手順4～7を繰り返します。終了する場合は「キャンセル」を選びます。

- 音声（ボイスメモ）付きの画像は、音声付きのままコピーされます。
- SDメモリーカードから内蔵メモリーにコピーする場合は、新しいファイル名で画像がコピーされます。

DPOFを設定する

DPOF（Digital Print Order Format）とは、デジタルカメラで撮影した静止画像に、プリントのための情報を記録するためのフォーマットです。撮影した静止画にDPOFを設定すると、DPOF対応プリンターやプリントサービス店でDPOFの設定に従ったプリントができます。
動画や音声のみのファイルには、DPOF は設定できません。

注意
「日付写し込み」（p.143）で日付／時刻を写し込んだ画像には、DPOF設定で「日付」を☑（オン）にしないでください。☑（オン）にすると、日付が重なって印刷されます。

1画像ずつ設定する

各画像ごとに、以下の項目を設定します。

枚数	プリントする枚数を設定します。99枚まで設定できます。
日付	画像に日付をプリントするかしないかを設定します。

1 ▶モードで十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で DPOF（DPOF）を選ぶ

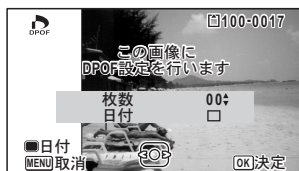
3 OK ボタンを押す

「1画像」または「全画像」を選択する画面が表示されます。

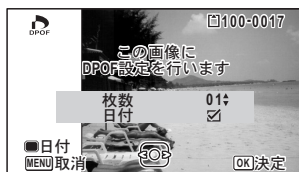
4 十字キー（▲▼）で「1画像」を選ぶ

5 OKボタンを押す

「この画像にDPOF設定を行います」とメッセージが表示されます。
別の画像にDPOFを設定する場合は、十字キー（◀▶）で画像を選択します。
すでにDPOFが設定されている画像は、設定された枚数と日付の☑（オン）／□（オフ）が表示されます。

6 十字キー（▲▼）でプリント枚数を設定する

7 グリーンボタンを押し、日付の☑（オン）／□（オフ）を設定する

☑（オン）　日付をプリントする
□（オフ）　日付をプリントしない

その他の画像にもDPOFを設定したい場合は、十字キー（◀▶）で画像を選び、手順6〜7を繰り返します。

8 OKボタンを押す

設定が保存され、手順4の画面に戻ります。

プリンターやプリントサービス店のプリント機器によっては、DPOF設定で「日付」をオンにしても日付がプリントされないことがあります。

DPOF設定を解除する場合は、手順6で枚数を「00」に設定して、**OK**ボタンを押します。

全画像を設定する

カメラに保存されているすべての画像に同じ「枚数」「日付」の設定を適用します。

1 p.215の手順4で「全画像」を選ぶ

2 OK ボタンを押す

「すべての画像にDPOF設定を行います」とメッセージが表示されます。

3 プリント枚数と日付の☑（オン）／□（オフ）を設定する

設定のしかたは「1画像ずつ設定する」の手順6～7 (p.215) をご覧ください。

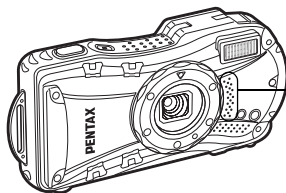
4 OK ボタンを押す

設定した値で全画像の設定が保存され、DPOF設定の最初の画面に戻ります。

- 全画像設定では、すべての画像に同じプリント枚数が設定されます。プリントをする前に、必ず枚数の設定が正しいか確認してください。
- 「全画像」で設定を行うと、1画像ずつの設定は解除されます。

6 音声の録音と再生

音声を録音する（ボイスレコーディング）

音声を記録します。マイクはカメラ正面にありますので、音声を記録するときは、カメラの向きを調整してください。

ボイスレコーディングを設定する

ボイスレコーディング機能を使用するには、グリーンボタンにボイスレコーディングを登録します。

撮影モードが●（グリーン）モードの場合は、撮影メニューの「グリーンボタン」の設定ができません。●以外の撮影モードに切り替えてから設定をしてください。

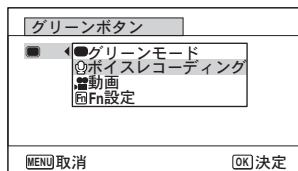
1　◘モードでMENUボタンを押す

「◘撮影」メニューが表示されます。

2　十字キー（▲▼）を押して「グリーンボタン」を選ぶ

3　十字キー（▶）を押す

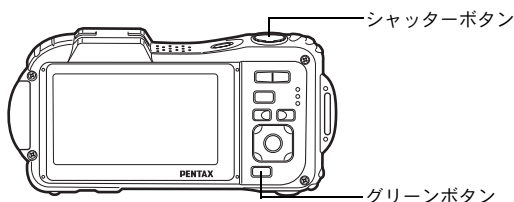
ポップアップが表示されます。

4　十字キー（▲▼）で「ボイスレコーディング」を選び、OKボタンを押す

5　MENUボタンを押す

ボイスレコーディング機能がグリーンボタンに登録されます。

6

音声の録音と再生

音声を録音する

1 モードでグリーンボタンを押す

ボイスレコーディングモードになり、画像モニターに録音可能な時間と、これから録音するファイルの録音時間が表示されます。

1 録音時間
2 残り録音可能時間

2 シャッターボタンを全押しする

録音が開始されます。録音中は、セルフタイマーランプとRECアイコン（赤丸）が点滅します。
録音中にグリーンボタンを押すと、録音中の音声にインデックスを付けることができます。

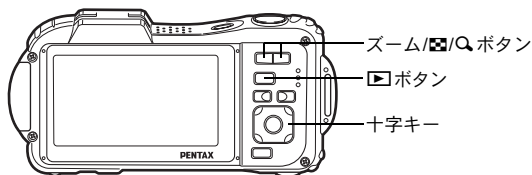
3 シャッターボタンを全押しする

録音を停止します。

- 手順2で1秒以上シャッターボタンを押し続けると、シャッターボタンから指を離したときに録音を停止します。短い音を録音したいときに便利です。
- 音声はモノラルのWAVEファイルで記録されます。
- モードで**OK**/**DISPLAY**ボタンで切り替えられる情報表示は、標準情報とLCDオフの2つのみです。

6 音声の録音と再生

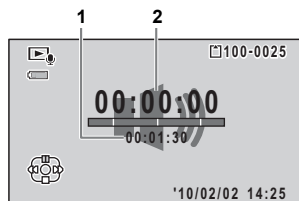
音声を再生する

ボイスレコーディングで録音した音声を再生します。

1 ▶ボタンを押す

2 十字キー（◀▶）で再生したい音声ファイルを選ぶ

3 十字キー（▲）を押す

再生が開始されます。

1 ファイルの総録音時間
2 再生済時間

再生中にできる操作

十字キー（▲）	再生を一時停止
ズーム/⊞/Qボタン（Q）	音量を大きくする
ズーム/⊞/Qボタン（⊞）	音量を小さくする
インデックスがない場合	
十字キー（◀）	巻き戻し
十字キー（▶）	早送り
インデックスがある場合	
十字キー（◀）	前のインデックス位置から再生
十字キー（▶）	次のインデックス位置から再生

一時停止中にできる操作

十字キー（▲）	再生を再開
十字キー（◀）	約5秒前に戻る
十字キー（▶）	約5秒先に送る

4 十字キー（▼）を押す

再生が停止します。

画像に音声を付ける（ボイスメモ）

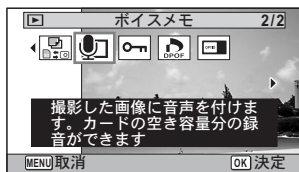
撮影した静止画像に音声（ボイスメモ）を付けることができます。

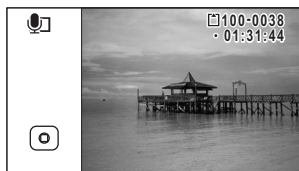
ボイスメモを録音する

1　▶モードに入り、十字キー（◀▶）でボイスメモを付けたい画像を選ぶ

2　十字キー（▼）を押す

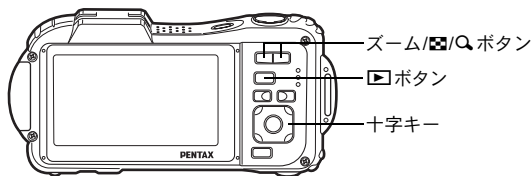
再生モードパレットが表示されます。

3　十字キー（▲▼◀▶）で🎙（ボイスメモ）を選ぶ

4　OKボタンを押す

ボイスメモの録音を開始します。

5　OKボタンを押す

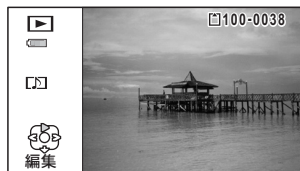
ボイスメモの録音が終了します。

- すでにボイスメモが録音されている画像にボイスメモを上書きすることはできません。いったん音声を消去（p.175）してから、もう一度録音してください。
- プロテクトされている画像（p.178）にボイスメモを付けることはできません。

ボイスメモを再生する

1 ▶モードに入り、十字キー（◀▶）でボイスメモを再生する画像を選ぶ

ボイスメモが録音されている画像は、1画面表示時に♪が表示されます。

2 十字キー（▲）を押す

録音されたボイスメモが再生されます。

再生中にできる操作

ズーム/⊞/🔍ボタン（🔍）　音量を大きくする
ズーム/⊞/🔍ボタン（⊞）　音量を小さくする

3 十字キー（▼）を押す

ボイスメモの再生が停止します。

音声を消去する ☞p.175

6 音声の録音と再生

7 設定

カメラを設定する

フォーマットする

SDメモリーカードまたは内蔵メモリーに保存されているすべてのデータを消去します。
未使用または他のカメラやデジタル機器で使用したSDメモリーカードは、必ずこのカメラでフォーマットしてからご使用ください。

- SD メモリーカードのフォーマット中は、カードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- フォーマットを行うと、プロテクトされた画像や、このカメラ以外で記録したデータも消去されます。ご注意ください。
- パソコンなどこのカメラ以外の機器でフォーマットされた SD メモリーカードはそのままでは使用できません。必ずカメラでフォーマットしてください。
- SDメモリーカードが挿入されていると、SDメモリーカードがフォーマットされます。内蔵メモリーをフォーマットする場合は、必ずSDメモリーカードを抜いてから操作してください。

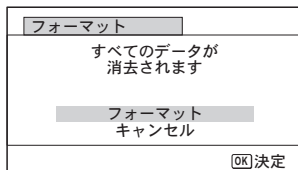
1 ▶モードでMENUボタンを押す

「設定」メニューが表示されます。
モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）を押し、「フォーマット」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「フォーマット」画面が表示されます。

4 十字キー（▲）で「フォーマット」を選ぶ

5 OKボタンを押す

フォーマットが開始されます。
フォーマットが終わると、モードまたは▶モードに戻ります。

7
設定

サウンドの設定を変更する

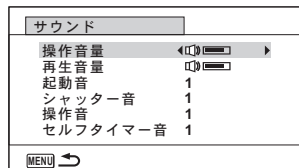
操作音の音量と音の種類を変更できます。

1 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）を押し、「サウンド」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「サウンド」画面が表示されます。

操作音量／再生音量を変更する

4 十字キー（▲▼）を押して「操作音量」を選ぶ

5 十字キー（◀▶）を押して音量を調節する

音量を🔇にすると起動音・シャッター音・操作音・セルフタイマー音は鳴りません。

6 手順4～5と同様の操作で「再生音量」を設定する

音の種類を変更する

4 十字キー（▲▼）を押して「起動音」を選ぶ

5 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

6 十字キー（▲▼）で音の種類を選ぶ

「1」「2」「3」「4」「オフ」「USER」から選択します。

7 OKボタンを押す

8 手順4～7と同様の操作で「シャッター音」「操作音」「セルフタイマー音」を設定する

9 MENUボタンを押す

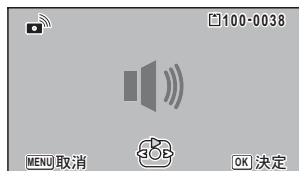
「🔧設定」メニューに戻ります。

音の種類を変更する（オリジナルの音声を使う）

カメラで録音した音声を、オリジナルの操作音として使うことができます。
使えるのは、録音した音声のはじめの2秒間です。

1 「音の種類を変更する」の手順6で、「USER」を選ぶ

2 OKボタンを押す

録音済みの音声ファイルの再生画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でファイルを選ぶ

ファイルを再生して、確認します。
十字キー（▲）：冒頭の2秒間を再生。
十字キー（▼）：再生終了。

4 OKボタンを押す

選んだ音声が、「USER」音として設定されます。

5 「シャッター音」「操作音」「セルフタイマー音」も、同じ手順で設定する

6 MENUボタンを押す

「🔧設定」メニューに戻ります。

メモ　サウンドの設定は、電源をオフにしても保持されます。

日時を変更する

初期設定（p.55）で設定した日付と時刻を変更します。また、カメラに表示する日付の表示形式を設定します。

1 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）を押し、「日時設定」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「日時設定」画面が表示されます。

4 十字キー（▶）を押す

選択枠が「年/月/日」に移動します。
初期設定や、前回の設定によっては、「月/日/年」または「日/月/年」で表示されていることもあります。

5 十字キー（▲▼）で日付の表示スタイルを選ぶ

「年/月/日」「月/日/年」「日/月/年」から選択します。

6 十字キー（▶）を押す

選択枠が「24h」に移動します。

7 十字キー（▲▼）で「24h」（24時間表示）または「12h」（12時間表示）を選ぶ

日時設定
表示スタイル　年/月/日　24h
日付　2011/01/01
時刻　00:00
設定完了
MENU 取消

8 十字キー（▶）を押す

選択枠が「表示スタイル」に戻ります。

9 十字キー（▼）を押す

選択枠が「日付」に移動します。

日時設定
表示スタイル　年/月/日　24h
日付　2011/01/01
時刻　00:00
設定完了
MENU 取消

10 十字キー（▶）を押す

手順5で設定した表示スタイルに従って、選択枠が下記の項目に移動します。

「年/月/日」の場合　西暦年
「月/日/年」の場合　月
「日/月/年」の場合　日

以下の操作手順や画面は、「年/月/日」に設定した場合です。他の表示スタイルに設定した場合でも、操作方法は同様です。

11 十字キー（▲▼）で西暦年を設定する

12 十字キー（▶）を押す

選択枠が「月」に移動します。十字キー（▲▼）で月を設定します。月を設定後は、同様の操作で日を設定します。

13 手順8～12と同様の操作で、時刻を設定する

手順7で「12h」を選択した場合は、時刻調整に連動してAM／PMが切り替わります。

14 十字キー（▼）で「設定完了」を選ぶ

日時設定	
表示スタイル	年/月/日 24h
日付	2011/01/01
時刻	00:00
設定完了	
MENU取消	OK決定

15 OKボタンを押す

日時の設定が保存され、「設定」メニューに戻ります。

手順15でOKボタンを押すと、0秒にセットされます。時報に合わせてOKボタンを押すと、秒単位まで正確な日時設定ができます。

決まった時刻にアラームを鳴らす

指定した時刻にアラームを鳴らします。
毎日同じ時刻にアラームを鳴らすか、設定した時刻に1回アラームを鳴らすかを選ぶことができます。

アラームを設定する

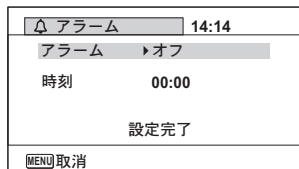
1 ▶モードでMENUボタンを押す

「設定」メニューが表示されます。
モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）を押し、「アラーム」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「アラーム」画面が表示されます。

アラーム 14:14
アラーム ▶オフ
時刻 00:00
設定完了
MENU 取消

4 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

5 十字キー（▲▼）でアラームの設定を選ぶ

「オフ」「1回」「毎日」から選択します。

6 OK ボタンを押す

7 十字キー（▼）を押す

選択枠が「時刻」に移動します。

8 十字キー（▶）を押す

選択枠が「時間」に移動します。

9 十字キー（▲▼）で時間を設定し、十字キー（▶）を押す

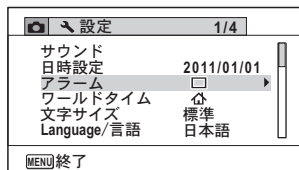
選択枠が「分」に移動します。
同様に「分」を設定します。

10 OK ボタンを押す

11 十字キー（▼）を押す

選択枠が「設定完了」に移動します。

12 OK ボタンを押す

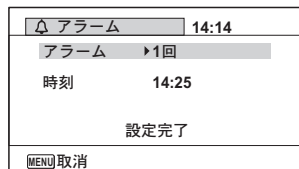
アラームを「オフ」に設定した場合、設定が保存され、「🔧設定」メニューに戻ります。
「アラーム」が□（オフ）になっていることを確認します。
アラームを「1回」「毎日」に設定した場合、「アラームを設定しました」と表示された後電源がオフになります。

アラームを確認する

1 「🔧設定」メニューで、十字キー（▲▼）を押して「アラーム」を選ぶ

「アラーム」が☑（オン）になっていることを確認します。

2 十字キー（▶）を押す

「アラーム」画面が表示されます。
アラームの頻度と設定時刻を確認します。

🔔 アラーム　14:14
アラーム　▶1回
時刻　14:25
設定完了
MENU 取消

3 MENUボタンを2回押す

📷モードまたは▶モードに戻ります。

アラームを止める

電源オフの状態で指定した時刻になると、スタイルウォッチ画面が表示され、アラームが1分間鳴ります。
1分間経過するか、鳴っている間にどれかのボタンを押すと、アラームは停止します。

- カメラの電源がオンになっている場合は、指定した時刻になってもアラームは鳴りません。
- インターバル撮影を実行している間は、アラームが設定されていても、アラームは鳴りません。

ワールドタイムを設定する

「日時を設定する」（p.55）や「日時を変更する」（p.229）で設定した日時は、⌂（現在地）の日時として設定されます。「ワールドタイム」を設定しておくと、海外で使用するとき、画像モニターに✈（目的地）として設定した国や地域の日時を表示できます。

目的地を設定する

1　▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2　十字キー（▲▼）を押し、「ワールドタイム」を選ぶ

3　十字キー（▶）を押す

「ワールドタイム」画面が表示されます。

ワールドタイム
時刻切替 ▶ ⌂
✈目的地 DST OFF
東京 14:25
⌂現在地 DST OFF
東京 14:25
MENU ↩

4　十字キー（▲▼）で✈（目的地）を選ぶ

5　十字キー（▶）を押す

「目的地」画面が表示されます。現在設定されている都市が地図上で点滅表示されます。

6　十字キー（◀▶）で、目的地の都市名を選ぶ

選択した都市の現在時刻・位置・時差が表示されます。

7　十字キー（▲▼）で「夏時間」を選ぶ

8 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

目的地が夏時間を採用している場合は、☑（オン）にします。

9 OKボタンを押す

目的地の設定が保存されます。

10 MENUボタンを2回押す

📷モードまたは▶モードに戻ります。

メモ 手順4で⌂（現在地）を選ぶと現在地の都市と夏時間を設定できます。

目的地の日時をカメラに表示させる（時刻切替）

1 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）を押し、「ワールドタイム」を選ぶ

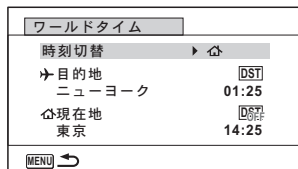
3 十字キー（▶）を押す

「ワールドタイム」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で「時刻切替」を選ぶ

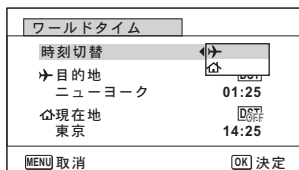
5 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

7 設定

6 十字キー（▲▼）で✈（目的地）／⌂（現在地）を切り替える

✈　目的地の都市の時刻を表示

⌂　現在地の都市の時刻を表示

ワールドタイム
時刻切替 ✈ ⌂
✈目的地 ニューヨーク 01:25
⌂現在地 東京 DST OFF 14:25
MENU 取消　OK 決定

7 OKボタンを押す

設定が保存されます。

8 MENUボタンを2回押す

📷モードまたは▶モードに戻ります。
ワールドタイムに切り替えた場合は、📷モードにしたときに画像モニターに目的地の日時が表示されていることを示す✈アイコンが表示されます。

メニューの文字サイズを設定する

カーソルで選んでいるメニュー項目の文字サイズを、「標準」（通常表示）／「大きい」（拡大表示）から設定できます。

1 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードで**MENU**ボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

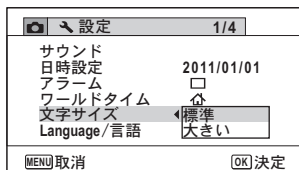
2 十字キー（▲▼）で「文字サイズ」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）でメニューの文字サイズを選ぶ

標準／大きいから選択します。

7
設定

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

表示言語を変更する

メニューやエラーメッセージなどに表示される言語を変更します。英語／フランス語／ドイツ語／スペイン語／ポルトガル語／イタリア語／オランダ語／日本語／デンマーク語／スウェーデン語／フィンランド語／ポーランド語／チェコ語／ハンガリー語／トルコ語／ギリシャ語／ロシア語／タイ語／韓国語／中国語（繁体字/簡体字）に対応しています。

1 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）を押し、「Language/言語」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「Language/言語」画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼◀▶）で表示させたい言語を選ぶ

Language/言語

English	日本語	Türkçe
Français	Dansk	Ελληνικά
Deutsch	Svenska	Русский
Español	Suomi	ไทย
Português	Polski	한국어
Italiano	Čeština	中文繁體
Nederlands	Magyar	中文简体

MENU 取消　　OK 決定

5 OKボタンを押す

選択した言語でメニューやメッセージが表示されるようになります。

フォルダー名の付け方を変更する

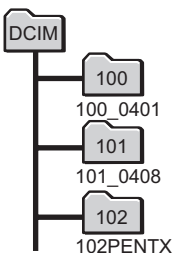
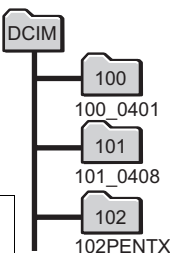
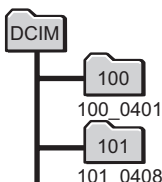
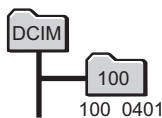
画像が保存されるフォルダー名の付け方を変更できます。「日付」に設定すると写真は撮影日ごとに違うフォルダーに保存されます。

選択項目	作成されるフォルダー名称
日付 （初期値）	xxx_mmdd（3桁のフォルダー番号_月日） ※日付の表示スタイルが「日/月/年」に設定されている場合は、 xxx_ddmm（3桁のフォルダー番号_日月）になります。 撮影日ごとにフォルダーが作成され、その日付の撮影・録音データが保存されます。
PENTX	xxxPENTX（xxxは3桁のフォルダー番号） フォルダーがいっぱい（9999枚）になるまで同じフォルダーに保存されます。
_USER	xxxAAAAA（xxxは自動で付与される3桁のフォルダー番号、AAAAAは入力した5文字の英数字） フォルダーがいっぱい（9999枚）になるまで同じフォルダーに保存されます。

「日付」で4/1に撮影
100_0401
フォルダーを作成
100_0401
フォルダーに保存

「日付」で4/8に撮影
100_0408
フォルダーを作成
100_0408
フォルダーに保存

4/10に「PENTX」に変更
102PENTX
フォルダーを作成
102PENTX
フォルダーに保存

「PENTX」で4/15に撮影
新しいフォルダは作成されない
102PENTX
フォルダーに保存

- フォルダーは最大900個まで作成されます。
- １個のフォルダーには最大9999個まで画像や音声が保存されます。

7
設定

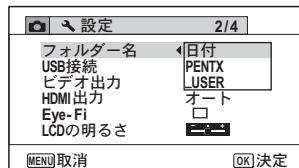
フォルダー名の付け方を選択する

1 **▶モードでMENUボタンを押す**

「🔧設定」メニューーが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 **十字キー（▲▼）を押し、「フォルダー名」を選ぶ**

3 **十字キー（▶）を押す**

ポップアップが表示されます。

4 **十字キー（▲▼）でフォルダー名の付け方を選ぶ**

5 **OKボタンを押す**

設定が保存されます。

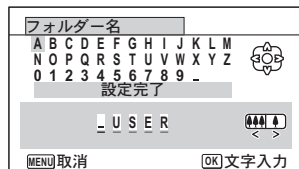
フォルダー名を自分で作る

画像を保存するフォルダー名を作ることができます。
入力できるのはアンダーバーを含む半角英数字5文字です。
作成されるフォルダー名は、3桁のフォルダー番号の後に、入力した5文字の英数字が表示される形になります。

1 **「フォルダー名の付け方を選択する」の手順4で、「_USER」を選ぶ**

2 **十字キー（▶）を押す**

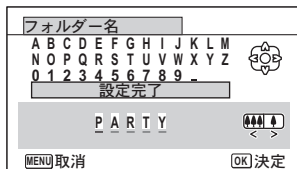
フォルダー名入力画面が表示されます。
「_USER」と初期表示されています。

7
設定

3 十字キー（▲▼◀▶）で入力する文字を選び、OK ボタンを押す

1文字目が確定し、2文字目にカーソルが移動します。

4 手順 3 を繰り返して、5 文字すべてを入力します。

5 「A」を選択している状態で、十字キー（◀）を押すか、「_」を選択している状態で、十字キー（▼▶）を押す

選択枠が「設定完了」に移動します。

6 OK ボタンを2回押す

フォルダー名が設定され、「🔧設定」メニューに戻ります。

- ズームボタンを使って、入力する文字列の位置を変更できます。
- 設定したフォルダー名が「🔧設定」メニューに表示されます。

ビデオ出力方式を選択する

カメラとAV機器を接続して撮影や再生をするときのビデオ出力方式を、NTSCとPALから選択します。

1 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）を押し、「ビデオ出力」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）で出力方式を選ぶ

接続するAV機器のビデオ出力方式に合わせて選択します。

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

国や地域によってはビデオ出力方式が初期設定（「NTSC」）になっていると画像や音声を再生できない場合があります。その場合は、出力方式を「PAL」に切り替えてください。

AV機器と接続する ☞p.181
都市別のビデオ出力方式 ☞p.292

HDMI出力形式を選択する

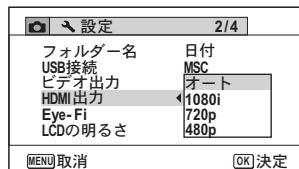
カメラとAV機器をHDMIケーブルで接続して再生するときの出力解像度を設定します。初期設定はオートです。

1 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）を押し、「HDMI出力」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）で出力方式を選ぶ

接続するAV機器のHDMI仕様に合わせて選択します。

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

メモ

選択されているビデオ出力方式でポップアップの表示内容が一部変わります。
変更が必要な場合、先にビデオ出力方式を変更してからHDMI出力を設定してください。
以下にビデオ出力方式と選択できるHDMI出力の組み合わせを示します。

	ビデオ出力方式	
	NTSC	PAL
設定できる解像度	オート（TVとカメラ双方で対応する最大のサイズを自動選択）	
	1080i（1920×1080i）	
	720p（1280×720p）	
	480p（1920×1080i）	576p（720×576p）

7 設定

Eye-Fiを設定する

市販のEye-Fiカードを使って、画像を無線LAN経由で自動的にパソコンなどに転送することができます。転送のしかたについては、「Eye-Fiカードを使って画像を転送する」(p.276)をご覧ください。初期設定は□(オフ)です。

1 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー(▶)を1回押します。

2 十字キー(▲▼)で「Eye-Fi」を選ぶ

3 十字キー(◀▶)で☑/□を切り替える

☑ Eye-Fiカードを使った通信を開始する
□ Eye-Fiカードを使った通信をしない

4 OKボタンを押す

設定が保存されます。

Eye-Fi通信を行うためには、Eye-Fiカードに無線LANアクセスポイントや転送先を設定しておく必要があります。設定のしかたについては、Eye-Fiカード付属の使用説明書をご覧ください。

画像モニターの明るさを設定する

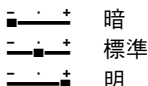
画像モニターの明るさを7段階で設定できます。

1　▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2　十字キー（▲▼）を押し、「LCDの明るさ」を選ぶ

3　十字キー（◀▶）で明るさを調整する

暗
標準
明

4　MENUボタンを押す

📷モードまたは▶モードに戻ります。
画像モニターは、設定した明るさになります。

節電機能を使う（エコモード）

一定時間操作しないときに、画像モニターの明るさが自動的に暗くなるように設定することで、バッテリーの消耗を軽減します。節電機能が働き、画像モニターが暗くなった場合は、何かのボタン操作をすると、元の明るさに戻ります。

1　▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

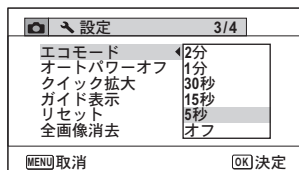
2　十字キー（▲▼）を押し、「エコモード」を選ぶ

3　十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）でエコモードに切り替わるまでの時間を選ぶ

「2 分」「1 分」「30 秒」「15 秒」「5 秒」「オフ」から選択します。

設定 3/4
エコモード 2分
オートパワーオフ 1分
クイック拡大 30秒
ガイド表示 15秒
リセット 5秒
全画像消去 オフ
MENU 取消 OK 決定

5 OK ボタンを押す

設定が保存されます。

- 以下の場合は、エコモードになりません。
  - 連続撮影で撮影中
  - 再生モード中
  - 動画撮影中
  - パソコン接続中
  - ACアダプター使用時
  - メニュー表示中
  - (デジタル顕微鏡) モード時
- 「5秒」に設定されている場合、電源を入れた後に何も操作しないと、15秒後にエコモードになります。

オートパワーオフを設定する

一定時間操作しないときに、自動的に電源が切れるように設定できます。

1 ▶モードでMENUボタンを押す

「設定」メニューが表示されます。
モードで**MENU**ボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

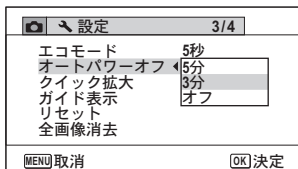
2 十字キー（▲▼）を押し、「オートパワーオフ」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

4 十字キー（▲▼）でオートパワーオフになるまでの時間を選ぶ

「5分」「3分」「オフ」から選択します。

設定 3/4
エコモード 5秒
オートパワーオフ 5分 3分 オフ
クイック拡大
ガイド表示
リセット
全画像消去
MENU 取消 OK 決定

5 OKボタンを押す

設定が保存されます。

以下の場合は、オートパワーオフになりません。
- 連続撮影で撮影中
- 動画撮影中
- スライドショウ／動画／音声再生中
- パソコン接続中
- 音声録音中（ボイスレコーディング）
- Eye-Fi通信で画像を転送中

クイック拡大を設定する

▶モードで画像を再生中に、ズーム/⊞/🔍ボタンの🔍側を一度押すだけで再生画像を最大倍率の10倍まで拡大する「クイック拡大」を使用するかどうかを設定します。

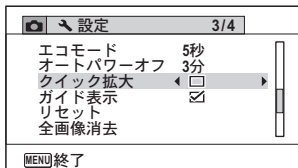
1 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）を押し、「クイック拡大」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

☑（オン）　クイック拡大を使用する
□（オフ）　クイック拡大を使用しない

7
設定

4 MENUボタンを押す

📷モードまたは▶モードに戻ります。

ガイド表示を設定する

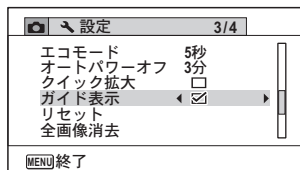
撮影モードパレットと再生モードパレットのガイド表示をする／しないを設定します。

1 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）を押し、「ガイド表示」を選ぶ

3 十字キー（◀▶）で☑（オン）／□（オフ）を切り替える

☑（オン）　説明を表示させる
□（オフ）　説明を表示させない

4 MENUボタンを押す

📷モードまたは▶モードに戻ります。

ピクセルマッピングを行う

ピクセルマッピングは、CCDセンサーの画素に欠けがあった場合に補完処理をする機能です。画像のドットがいつも同じ所で欠けるようになったら、ピクセルマッピングを実行してください。

注意

- ピクセルマッピングは📷モードからのみ実行できます。[▶]モード時に**MENU**ボタンを押して「🔧設定」メニューを表示してもピクセルマッピングは選択できません。
- [▶]モードからピクセルマッピングを実行する場合は、一度[▶]ボタンを押して📷モードに入ってから**MENU**ボタン、十字キー（▶）の順に押して、表示される「🔧設定」メニューからピクセルマッピングを選択してください。
- ボイスレコーディングモードでは、ピクセルマッピングは選択できません。

1 📷モードでMENUボタンを押して、十字キー（▶）を1回押す

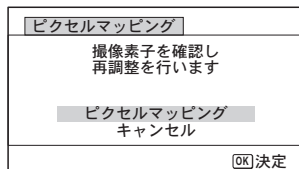
「🔧設定」メニューが表示されます。

2 十字キー（▲▼）を押し、「ピクセルマッピング」を選ぶ

3 十字キー（▶）を押す

「ピクセルマッピング」画面が表示されます。

4 十字キー（▲）で「ピクセルマッピング」を選ぶ

ピクセルマッピング
撮像素子を確認し
再調整を行います
ピクセルマッピング
キャンセル
OK 決定

5 OKボタンを押す

補完処理が行われます。

電池容量が少ない場合、「電池容量がたりないためピクセルマッピングを行えません」と画像モニターに表示されます。ACアダプターキットK-AC92J（別売）を使用するか、容量が十分残っているバッテリーを使用してください。

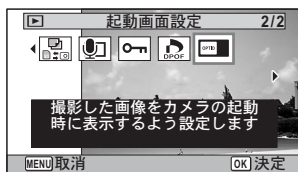
起動画面を変更する

カメラの電源を入れたときに表示する起動画面を設定します。
起動画面には、次の画像が選択できます。

- 撮影モードとボタンのガイドを表示する「ガイド表示起動画面」
- プリインストール画面（3種）
- 撮影した画像（設定が可能な画像のみ）

1 ▶モードで、十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で OPTIO（起動画面設定）を選ぶ

3 OK ボタンを押す

起動画面を選択する画面が表示されます。

4 十字キー（◀▶）を押して、起動画面を選ぶ

起動画面に設定できる画像だけが表示されます。その他に、3種類のプリインストール画面とガイド表示起動画面が選択できます。

5 OK ボタンを押す

設定が保存されます。

- 設定した起動画面は、元の画像を消去したり、SD メモリーカードや内蔵メモリーをフォーマットしても消去されません。ただし、元の画像を消去した後や、フォーマット後に起動画面を変更すると、その画像は消去されます。
- 「オフ」を選ぶと起動画面は表示されません。
- 再生起動モードで電源を入れたときは、起動画面は表示されません。
- ▮▮▮（パノラマ）モードで撮影された画像や動画は起動画面には使えません。

設定をリセットする

カメラの設定内容を工場出荷時の状態に戻します。リセットされる項目については「初期設定一覧」（p.287）をご覧ください。

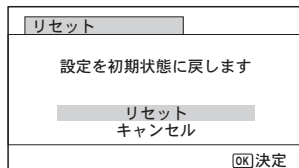
1　▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2　十字キー（▲▼）を押し、「リセット」を選ぶ

3　十字キー（▶）を押す

「リセット」画面が表示されます。

4　十字キー（▲）で「リセット」を選ぶ

5　OKボタンを押す

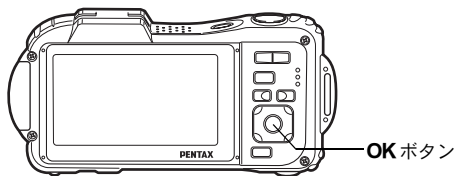
設定がリセットされます。

メモ

以下の設定はリセットされません。
- 日時設定
- ワールドタイム
- Language/言語
- ビデオ出力
- 作成したフォルダー名

7 設定

スタイルウォッチを使う

カメラを時計のように使うことができます。電源がオフのときに**OK**ボタンを長押しすると、画像モニターに時計を表示します。

1 OK ボタンを長押しする

電源がオンになり、画面に時計が表示されます。
約10秒経過すると、自動的に電源がオフになります。
また、電源スイッチを押すと、すぐに電源がオフになります。

8 パソコンと接続する

準備する

本製品に付属のCD-ROMに収録されているソフトウェアをパソコンにインストールし、カメラとパソコンをUSBケーブルで接続すると、撮影した画像や動画をパソコンに転送して閲覧や管理をすることができます。ここでは、付属ソフトウェアのインストールなど、写真と動画をパソコンで楽しむために必要な準備を説明します。

付属ソフトウェアのご紹介

付属のCD-ROM（S-SW117）には、次のソフトウェアが収録されています。

Windows

- **画像閲覧・管理・編集ソフト「MediaImpression 3.0 for PENTAX」**
  （対応言語：イタリア語・オランダ語・スウェーデン語・スペイン語・ドイツ語・フランス語・ポルトガル語・ロシア語・英語・韓国語・中国語［簡体字／繁体字］・日本語）

Macintosh

- **画像閲覧・管理・編集ソフト「MediaImpression 2.1 for PENTAX」**
  （対応言語：イタリア語・オランダ語・スウェーデン語・スペイン語・ドイツ語・フランス語・ポルトガル語・ロシア語・英語・韓国語・中国語［簡体字／繁体字］・日本語）

注意

カメラをパソコンに接続するときは、別売のACアダプターキット（K-AC92J）のご使用をお勧めします（p.43）。画像の転送中にバッテリーが消耗すると、データが壊れることがあります。

システム環境

カメラで撮影した画像や動画をパソコンで楽しむには、以下のシステム環境が必要です。

Windows

OS	Windows XP SP3／Windows Vista／Windows 7 • 対象OSがプリインストールされたパソコンで、最新のバージョンにアップデートされているもの
CPU	Pentium 4 1.6 GHzまたは同等のAMD Athlon （Intel Core 2 Duo 2.0 GHzまたは同等のAMD Athlon X2 以上のプロセッサーを推奨）
メモリ	512MB以上（1GB以上推奨）
ハードディスク空き容量	300MB以上
モニター	1024 × 768ピクセル、16ビットカラーモニター またはそれ以上
その他	CD-ROMドライブ USBポート標準搭載

※すべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
※推奨環境は、動画を再生するために必要な最低環境です。

Windows 95／Windows 98／Windows 98SE／Windows Me／Windows NT／Windows 2000には対応していません。

Macintosh

OS	Mac OS X（Ver.10.3.9, 10.4, 10.5, 10.6） • 対象OSがプリインストールされたパソコンで、最新のバージョンにアップデートされているもの
CPU	Power PC G4 800 MHz プロセッサー もしくはそれと同等のプロセッサー（Intel Core Duo以上のプロセッサーを推奨）
メモリ	512MB以上（1GB以上推奨）
ハードディスク空き容量	300MB以上（1GB以上推奨）
モニター	1024 × 768ピクセル、16ビットカラーモニター またはそれ以上
その他	CD-ROMドライブ USBポート標準搭載

※すべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
※推奨環境は、動画を再生するために必要な最低環境です。

ソフトウェアのインストール

Windows

画像閲覧・管理・編集ソフト「MediaImpression 3.0 for PENTAX」をインストールします。

- お使いのパソコンに必要なシステム環境を整えてから、インストールしてください。
- 複数のアカウントを設定している場合は、administrator（管理者）権限でログオンしてからインストールしてください。

1 パソコンの電源を入れる

2 CD-ROM（S-SW117）をパソコンの CD-ROM ドライブにセットする

「自動再生」の画面が表示されます。
「PENTAX Software Installer」をクリックし、「はい」をクリックしてください。

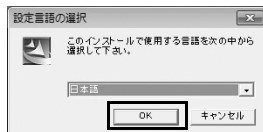
インストール画面が表示されない場合
以下の手順でインストール画面を表示させます。
1) デスクトップ画面から「コンピュータ」をダブルクリックする
2)「CD-ROMドライブ（S-SW117）」のアイコンをダブルクリックする

Windows XPをお使いの場合
MediaImpression 3.0 for PENTAXのインストール画面が表示されます。

3 「ArcSoft」をクリックする

設定言語の選択画面が表示されます。「日本語」が選ばれていることを確認してください。

4 「OK」をクリックする

セットアップ画面が表示されます。
画面の指示に従い、インストール作業を進めてください。

5 「完了」をクリックする

MediaImpression 3.0 for PENTAXのインストールが完了します。

6 インストール画面の「終了」をクリックする

画面が閉じます。

Macintosh

画像閲覧・管理・編集ソフト「MediaImpression 2.1 for PENTAX」をインストールします。

1 Macintoshの電源を入れる

2 CD-ROM（S-SW117）をMacintoshのCD-ROMドライブにセットする

3 CD-ROM（S-SW117）のアイコンをダブルクリックする

4 「Pentax Software Installer」のアイコンをダブルクリックする

MediaImpression 2.1 for PENTAXのインストール画面が表示されます。

5 「ArcSoft」をクリックする

セットアップ画面が表示されます。
画面の指示に従い、インストール作業を進めてください。

6 「閉じる」をクリックする

MediaImpression 2.1 for PENTAXのインストールが完了します。

7 インストール画面の「Exit」をクリックする

画面が閉じます。

ユーザー登録する

お客様へのサービス向上のため、お手数ですがユーザー登録にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

パソコンがインターネットに接続できる環境にあれば、言語選択画面の後に表示されるセットアップ画面で、「ユーザー登録」をクリックします。
右図のような地図画面が表示された場合は、「Japan」をクリックしてください。弊社ホームページのユーザー登録画面が表示されます。画面の指示に従って、登録の作業を行ってください。
ユーザー登録画面が表示されない場合は、下記アドレスから直接アクセスしてください。

https://service.pentax.jp/pentax/customer/menu.aspx

カメラのUSB接続モードを設定する

カメラをUSBケーブルで接続するときの接続先を設定します。

必ずパソコンと接続する前に設定してください。USBケーブルでカメラとパソコンが接続された状態では設定できません。

1 カメラの電源を入れる

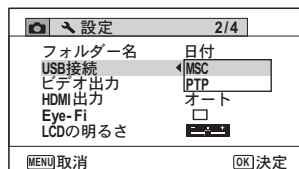
2 ▶モードでMENUボタンを押す

「🔧設定」メニューが表示されます。
📷モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

3 十字キー（▲▼）で「USB接続」を選ぶ

4 十字キー（▶）を押す

ポップアップが表示されます。

5 十字キー（▲▼）で「MSC」を選ぶ

6 OKボタンを押す

設定が保存されます。

7 MENUボタンを押す

📷モードまたは▶モードに戻ります。

お使いのパソコンによって、以下のページに進んでください。

Windowsパソコンと接続する ☞p.261
Macintoshと接続する ☞p.270

MSCとPTP

MSC（Mass Storage Class／マスストレージクラス）
コンピュータにUSB接続された機器を、記憶装置として扱うための汎用のドライバプログラムです。USB機器をそのドライバで制御するための規格のことを指すこともあります。
USB Mass Storage Class対応の機器は、接続するだけで、専用のドライバをインストールせずにコンピュータからファイルのコピーや読み書きを行うことができます。

PTP（Picture Transfer Protocol／ピクチャートランスファープロトコル）
USBを通じてデジタル画像の転送やデジタルカメラの制御を行うためのプロトコルで、ISO 15740として国際標準化されています。
PTP対応の機器同士では、デバイスドライバをインストールせずに、画像データの転送を行うことができます。

このカメラでは、特に指定がない限り「MSC」を選択した状態でコンピュータと接続してください。

Windowsパソコンと接続する

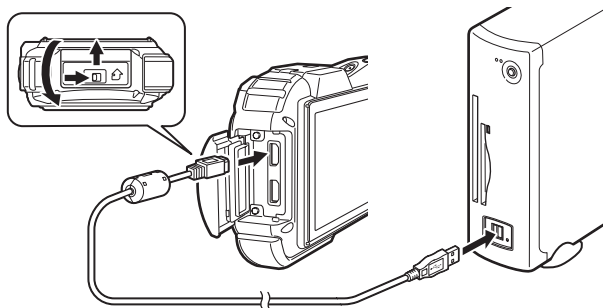
カメラとパソコンを接続する

付属のUSBケーブル（I-USB7）で、カメラとパソコンを接続します。

1 パソコンの電源を入れる

2 カメラの電源を切る

3 USBケーブルでカメラとパソコンを接続する

USBケーブル端子の⇦を、カメラのレンズ側に向けて接続してください。

4 カメラの電源を入れる

パソコンに「自動再生」画面が表示されます。
「自動再生」画面が表示されない場合は、「「自動再生」画面が表示されない場合」（p.263）の手順に従ってください。

カメラをパソコンに接続するときは、別売のACアダプターキット（K-AC92J）のご使用をお勧めします（p.43）。画像の転送中にバッテリーが消耗すると、画像データが壊れることがあります。

カメラとパソコンの接続中は、常に電源ランプが点灯します。カードアクセス中は電源ランプが点滅します。

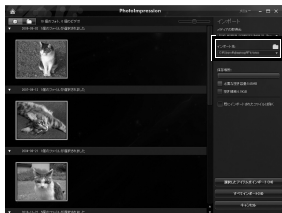
画像を転送する

撮影した画像をパソコンに転送します。

カメラにSDメモリーカードが入っていない場合は、内蔵メモリーの画像が転送されます。

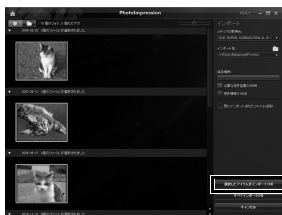
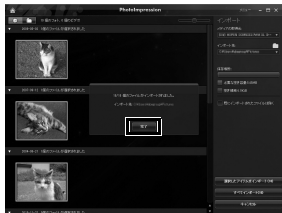
5 「メディアファイルをローカルディスクにインポート」をクリックする

MediaImpression 3.0 for PENTAXが起動します。

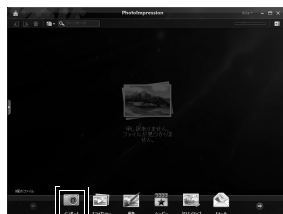
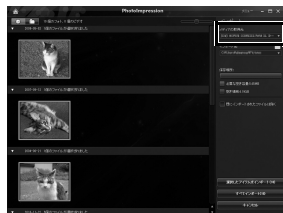
6 「インポート先」を指定する

7 コピーする画像を選択し、「選択したアイテムをインポート」をクリックする

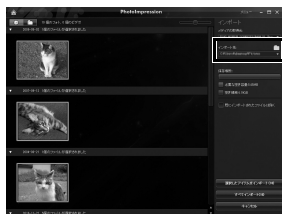
画像がパソコンにコピーされます。
※画像を複数選択する場合は、Ctrlキーを押しながら選択します。

8 「完了」をクリックする

「自動再生」画面が表示されない場合

5 **デスクトップの「MediaImpression 3.0 for PENTAX」アイコンをダブルクリックする**

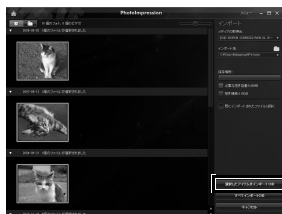
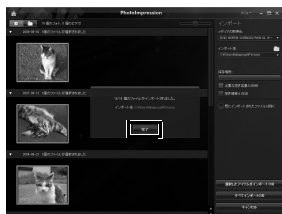
6 **「PhotoImpression」をクリックする**

7 **「インポート」をクリックする**

8 **「メディアの取得元」を指定する**

SDメモリーカードにボリュームラベルがついていると、「リムーバブルディスク」と表示されずにボリュームラベル名が表示されます。フォーマットされていない新しいSDメモリーカードは、メーカー名や型番が表示される場合があります。

9 「インポート先」を指定する

10 コピーする画像を選択し、「選択したアイテムをインポート」をクリックする

画像がパソコンにコピーされます。
※画像を複数選択する場合は、Ctrlキーを押しながら選択します。

11 「完了」をクリックする

メモ

画像は撮影日ごとの名称がついたフォルダー（8 月 8 日であれば「XXX_0808」。「XXX」は3桁のフォルダー番号）に格納されています。カメラの「🔧設定」メニューで「フォルダー名」を「PENTX」に設定している場合は、「XXXPENTX」（XXX は 3 桁のフォルダー番号）、「_USER」に設定している場合は、「XXXAAAAA」（XXXは3桁のフォルダー番号、AAAAAは入力した5文字の英数字）の名称がついたフォルダーが表示され、その中に画像が格納されています。

パソコンからカメラを取り外す

1 **タスクバーの（ホットプラグアイコン）をクリックする**

2 **「xxx（カメラ名）の取り出し」をクリックする**

取り外し許可のメッセージが表示されます。

3 **USB ケーブルをパソコンとカメラから取り外す**

- MediaImpression 3.0 for PENTAXなどのアプリケーションで、カメラ（リムーバブルディスク）を使用中の場合は、アプリケーションを終了しないとカメラを取り外すことはできません。
- カメラまたはパソコンからUSBケーブルを取り外すと、カメラは自動的に再生モードに切り替わります。

MediaImpression 3.0 for PENTAXを起動する

MediaImpression 3.0 for PENTAXを使用して、画像の表示・編集・管理・検索・共有・印刷をすることができます。

1 デスクトップの「MediaImpression 3.0 for PENTAX」アイコンをダブルクリックする

MediaImpression 3.0 for PENTAXが起動し、メインウィンドウが表示されます。

メインウィンドウの構成

*画面は初期設定時のものです。

A PhotoImpression
静止画を見たり、静止画のインポートや編集、印刷などを行います。

B VideoImpression
動画を見たり、動画のインポートや編集などを行います。

PhotoImpression

*画面は初期設定時のものです。

A ビューア
フォルダー構造や自分の好み・GPS情報・検出された人物にもとづいて分類されたグループなどが表示されます。

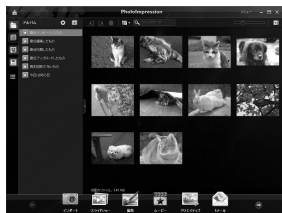
B プレビュー画面
選択されているフォルダーの内容や、分類されたグループ内の画像が表示されます。

C アクションボタン
インポートや画像編集・ムービー作成などのツールがあります。

画像を見る

1 **メインウィンドウから「PhotoImpression」または「VideoImpression」をクリックする**

2 **見たい画像が保存されているフォルダーまたはグループを選び、クリックする**

画像の一覧が表示されます。

3 **見たい画像を選びダブルクリックする**

選んだ画像がビューアで表示されます。

ビューアでは、画像の拡大／縮小表示や編集などができます。また動画／音声の再生をすることもできます。

さらに画像をダブルクリックすると最大表示されます。

MediaImpression 3.0 for PENTAXの詳しい使い方を調べる

MediaImpression 3.0 for PENTAXの詳しい使い方は、ヘルプで調べることができます。

1 画面右上の「メニュー」の「ヘルプ」をクリックする

ヘルプ画面が表示されます。

2 調べたい項目をクリックする

説明が表示されます。

Macintoshと接続する

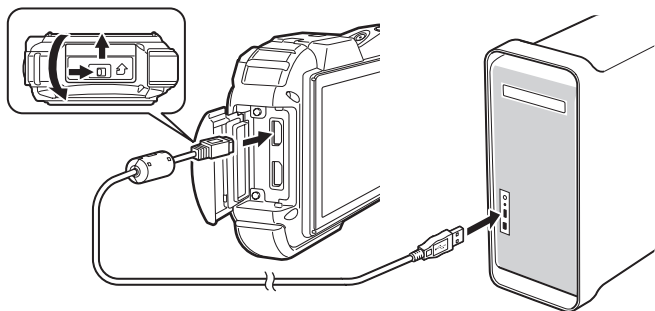
カメラとMacintoshを接続する

付属のUSBケーブル（I-USB7）で、カメラとMacintoshを接続します。

1 Macintoshの電源を入れる

2 カメラの電源を切る

3 USB ケーブルでカメラとMacintoshを接続する

USBケーブル端子の⇦を、カメラのレンズ側に向けて接続してください。

4 カメラの電源を入れる

カメラはデスクトップに「NO_NAME」として認識されます。

カメラをパソコンに接続するときは、別売のACアダプターキット（K-AC92J）のご使用をお勧めします（p.43）。画像の転送中にバッテリーが消耗すると、画像データが壊れることがあります。

- SDメモリーカードにボリュームラベルがついていると､「NO_NAME」と表示されずにボリュームラベル名が表示されます。フォーマットされていない新しいSDメモリーカードは、メーカー名や型番が表示される場合があります。
- カメラとMacintoshの接続中は、常に電源ランプが点灯します。カードアクセス中は電源ランプが点滅します。

画像を転送する

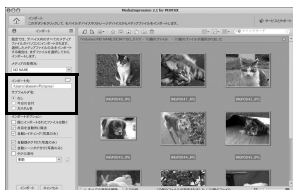
撮影した画像をMacintoshに転送します。

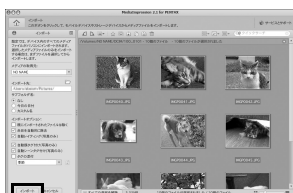
カメラにSDメモリーカードが入っていない場合は、内蔵メモリーの画像が転送されます。

5 「アプリケーション」フォルダー内の「MediaImpression」フォルダーをダブルクリックする

6 「MediaImpression 2.1 for PENTAX」アイコンをダブルクリックする

MediaImpressionが起動し、ブラウザのメインウィンドウが開きます。

7 「インポート先」を指定し、サブフォルダ名を選ぶ

8 コピーする画像を選択し、「インポート」をクリックする

画像がパソコンにコピーされます。

9 「終了」をクリックする

Macintoshからカメラを取り外す

1 デスクトップの「NO_NAME」をゴミ箱にドラッグする

SDメモリーカードにボリュームラベル名が付いている場合は、その名称のアイコンをゴミ箱にドラッグします。

2 USBケーブルをMacintoshとカメラから取り外す

- MediaImpression 2.1 for PENTAXなどのアプリケーションで、カメラ（リムーバブルディスク）を使用中の場合は、アプリケーションを終了しないとカメラを取り外すことはできません。
- カメラまたはMacintoshからUSBケーブルを取り外すと、カメラは自動的に再生モードに切り替わります。

MediaImpression 2.1 for PENTAXを起動する

MediaImpression 2.1 for PENTAXを使用して、画像の表示・編集・管理・検索・共有・印刷をすることができます。

1 「アプリケーション」フォルダー内の「MediaImpression」フォルダーをダブルクリックする

2 「MediaImpression 2.1 for PENTAX」アイコンをダブルクリックする

MediaImpression 2.1 for PENTAXが起動し、ブラウザのメインウィンドウが開きます。

メインウィンドウの構成

*画面は初期設定時のものです。

A メディアブラウザツール

画像を見たり、動画・音声を再生することができます。

B 編集・管理ツール

画像のインポートや編集、印刷などを行います。

メディアブラウザの構成

*画面は初期設定時のものです。

A ビューア
ご使用のパソコンのフォルダー構造が表示されます。フォルダー内を参照すると、その内容がメディアサムネイルに表示されます。

B プレビュー画面
選択されているフォルダーの内容や、最後に行った検索結果（検索にマッチしたファイルやフォルダー）などが表示されます。

C アクションボタン
インポートや画像編集・ムービー作成などのツールがあります。

画像を見る

1　メインウィンドウから「写真」または「ビデオ」、「すべてのメディア」をクリックする

2　「フォルダー・タグ一覧」で、見たい画像が保存されているフォルダーを選び、クリックする

「メディアサムネイル」に、画像の一覧が表示されます。

3　「メディアサムネイル」で、見たい画像を選びダブルクリックする

選んだ画像がビューアで表示されます。
ビューアでは、画像の拡大／縮小表示や編集などができます。また動画／音声の再生をすることもできます。

MediaImpression 2.1 for PENTAXの詳しい使い方を調べる

MediaImpression 2.1 for PENTAXの詳しい使い方は、ヘルプで調べることができます。

1　メニューバーの「ヘルプ」から「ArcSoft MediaImpression ヘルプ」を選ぶ

ヘルプ画面が表示されます。

2　調べたい項目をクリックする

説明が表示されます。

Eye-Fiカードを使って画像を転送する

無線LAN内蔵メモリーカード（Eye-Fiカード）をカメラにセットすると、画像を無線LAN経由で自動的にパソコンなどに転送することができます。

1 Eye-Fiカードに無線LANアクセスポイントや転送先などを設定する

設定のしかたについては、Eye-Fiカード付属の使用説明書をご覧ください。

2 カメラの電源を切る

3 設定したEye-Fiカードをカメラにセットする

4 カメラの電源を入れる

5 「設定」メニューの「Eye-Fi」を☑（オン）にする

画像が、自動的に転送されます。カメラの設定のしかたは「Eye-Fiを設定する」（p.243）をご覧ください。
画像モニターには次のアイコンが表示されます。

アイコン	説明
Eye-Fi •))	Eye-Fi通信中。「Eye-Fi」が☑に設定されていて、通信を行っているか、アクセスポイントを探しているとき
Eye-Fi •--	Eye-Fi通信待機中。「Eye-Fi」が☑に設定されていて、通信を行っていないとき
Eye-Fi ⊘	Eye-Fi通信禁止。「Eye-Fi」が□に設定されているとき
Eye-Fi ⚠	Eye-Fiバージョンエラー。Eye-Fiカードのバージョンが古いときまたはカードがライトプロテクトされている

使用可能なEye-Fiカードについて
- Eye-Fi Share
- Eye-Fi Share Video 4GB
- Eye-Fi Pro X2 8GB※
- Eye-Fi Explore X2 8GB※

※エンドレスモードには非対応
Eye-Fiカードは、最新のファームウェアに更新してご使用ください。

- 新しいEye-Fiカードを初めて使用するときは、カードをフォーマットする前にカード内のEye-Fi Managerのインストールファイルをパソコンにコピーしてからフォーマットしてください。
- 画像は無線LANにより転送されるので、航空機内など無線通信の使用が制限または禁止されている場所では、Eye-Fiカードを使用しないか、Eye-Fi設定を□（オフ）にしてください。
- バージョンの古いEye-Fiカードをカメラにセットすると、エラーメッセージが表示されます。
- 以下の場合は、画像は転送されません。
  - 使用可能な無線LANアクセスポイントが見つからないとき
  - 電池の容量が少ないとき（▭黄色または▭赤色表示）
- 音声ファイルは転送されません。
- 大量の画像を転送すると、転送に時間がかかる場合がありますので、ACアダプター（別売）の使用をお勧めします。
- 画像の転送中は、オートパワーオフ機能は働きません。
- 大きな動画ファイルなどを転送すると、カメラ内が高温となり、回路保護のために、電源が強制オフになることがあります。
- 無線LANによる画像転送を行うには、アクセスポイントの利用とインターネット環境および設定が必要です。詳しくは、ホームページをご覧ください。（http://www.eyefi.co.jp）
- Eye-Fiカードの使用方法は、Eye-Fiカードの使用説明書をご覧ください。
- Eye-Fiカードに関する不具合は、カードの製造元へお問い合わせください。
- このカメラには Eye-Fi カードの通信機能をオン／オフする機能がありますが、Eye-Fiカードのすべての機能を保証するものではありません。
- Eye-Fiカードの使用が認められているのは、カードをご購入された国のみです。使用する国の法律を遵守してください。

9 付録

各撮影モードの機能対応

○：設定・変更できます。　×：設定・変更できません。　—：設定・変更が反映されません。

機能			撮影モード AUTO PICT	P						
ズームボタン	ズーム操作		○*2	○*3	○*3	○*4	○*3	○*4	○*3	○*3
ボタン	顔検出オン		○	○	○	○	○	○	○	○
	スマイルキャッチ		○	○	○	○	○	○	○	○
	自分撮りアシスト／自分撮りアシスト＋スマイルキャッチ		○*33	○*33	○*33	×	○*33	×	○*33	○*33
	顔検出オフ		×	○	○	○	○	○	○	×
ストロボモード	オート		○	○	×	×	○	×	○	○
	発光禁止		○	○	○	○	○	○	○	○
	強制発光		○	○	○	×	○	×	○	○
	オート＋赤目		○	○	×	×	○	×	○	○
	強制＋赤目		○	○	○	×	○	×	○	○
ドライブモード	標準		○	○	○	○	○	○	○	○
	セルフタイマー		○	○	○	○	○	○	○	○
	連続撮影/高速連写		×	○	×	×	○	×	○	○
	リモコン		○	○	○	○	○	○	○	○
	インターバル撮影		×	○	○	○	○	○	○	○
	オートブラケット		×	○	○	×	○	×	○	○
フォーカスモード	AF 標準		○	○	○	○	○	○	○	○
	マクロ		○	○	○	○	○	○	○	○
	1cmマクロ		○	○	○	○	○	○	○	○
	PF パンフォーカス		○	○	○	○	○	○	○	○
	無限遠		○	○	○	○	○	○	○	○
	MF マニュアルフォーカス		○	○	○	○	○	○	○	○
「撮影」メニュー	画像仕上		×*9	○	○	○	×*9	×*9	×*9	×*9
	記録サイズ		○*11	○*11	○*11	○*12	○*11	○*12	○*11	○*11
	画質		○	○	○	×*20	○	×*20	○	○
	ホワイトバランス		×*22	○	○	○	×*22	×*22	×*22	×*22
	AF	AFエリア	×*23	○	○	○*24	○	○*24	○	○
		オートマクロ	○	○	○	○	○	○	○	○
		AF補助光	○	○	○	×	○	×	○	○
	測光方式		×*26	○	○	×*26	×*26	×*26	×*26	×*26
	感度		○	○	○	×*27	○	×*27	○	○
	感度AUTO調整範囲		○	○	○	×*29	○	×*29	○	○
	露出補正		×*31	○	○	○	○	○	○	○
	D-Range設定		×*8	○	○	○	○	○	○	○
	手ぶれ補正*1		○	○	○	×*8	○	×*8	○	○
	まばたき検出		○	○	○	×*8	○	×*8	○	○
	シャープネス/彩度(調色)/コントラスト		×*32	○	○	○	×*32	×*32	×*32	×*32
	日付写し込み		○	○	○	×*8	○	×*8	○	○
	超解像		○	○	○	×*8	○	×*8	○	○
	マクロ照明		○	○	○	○	○	○	○	○

	WIDE									撮影モード／機能	
○*5	×	○*6	○*3	○*3	○	○*3	○*3	○*6	○*7	ズーム操作	ズームボタン
×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	顔検出オン	ボタン
×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	スマイルキャッチ	
×	×	○*33	○*33	×	○*33	×	○*33	×	○*33	自分撮りアシスト／自分撮りアシスト+スマイルキャッチ	
×*8	○	○	○	×	○	○	○	○	○	顔検出オフ	
×	○	○	○	○	×	○	○	○	○	オート	ストロボモード
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	発光禁止	
×	○	○	○	○	×	○	○	○	×	強制発光	
×	○	○	○	○	×	○	○	○	×	オート+赤目	
×	○	○	○	○	×	○	○	○	×	強制+赤目	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	標準	ドライブモード
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	セルフタイマー	
×	×	○	○	○	×	×	×	○	×	連続撮影/高速連写	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	リモコン	
○	×	○	○	○	×	×	○	○	×	インターバル撮影	
×	×	○	○	○	×	×	×	○	×	オートブラケット	
×	○	○	○	○	×	○	○	○	○	AF 標準	フォーカスモード
×	○	○	○	○	×	○	○	○	○	マクロ	
○	×	○	○	○	×	○	○	○	×	1cmマクロ	
×	○	○	○	○	×	○	○	○	×	PF パンフォーカス	
×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	無限遠	
×	○	○	○	○	×	○	○	○	×	MF マニュアルフォーカス	
○	○	○	×*9	×*9	×*9	○	○	○	×*10	画像仕上	「撮影」メニュー
×*13	×*14	×*15	○*11	○*11	○	○*16	×*17	×*18	×*19	記録サイズ	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	×*21	画質	
○	○	○	×*22	×*22	×*22	○	○	×*22	×*22	ホワイトバランス	
○	○	○	○	○	×*23	○	○*24	○	×*23	AF: AFエリア	
×	○	○	○	○	×	○	○	○	×*25	AF: オートマクロ	
○	○	○	○	○	×	○	○	○	×*25	AF: AF補助光	
○	○	○	×*26	×*26	×*26	○	○	×*26	×*26	測光方式	
○	○	×*27	○	○	×*28	○	○	○	×*27	感度	
○	○	×*30	○	○	×	○	○	×*30	—	感度AUTO調整範囲	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	×*31	露出補正	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	×*8	D-Range設定	
×*25	×*8	○	○	○	×*8	×*8	○*8	○	×*8	手ぶれ補正*1	
×*8	×*8	○	○	○	○	○	○	○	×*25	まばたき検出	
○	○	○	×*32	×*32	×*32	○	○	×*32	×*32	シャープネス/彩度(調色)/コントラスト	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	×*8	日付写し込み	
○	×	×	○	○	○	×	○	×	×*9	超解像	
×*25	○	○	○	○	○	○	○	○	×*8	マクロ照明	

*1： 動画はMovie SR、静止画は手ぶれ補正
*2： デジタルズーム、インテリジェントズーム使用時は花判定になりません
*3： 光学ズームは常に可、デジタルズームとインテリジェントズームは感度3200／6400を選択した場合に使用不可
*4： 撮影前は光学ズームとデジタルズームのみ可、撮影中はデジタルズームのみ可
*5： 光学ズームとインテリジェントズームのみ可、デジタルズームは使用不可
*6： 光学ズームのみ可、デジタルズームとインテリジェントズームは使用不可
*7： 光学ズームとデジタルズームのみ可、インテリジェントズームは使用不可
*8： □（オフ）固定
*9： ナチュラルに固定
*10： 鮮やかに固定
*11： 感度3200／6400設定時は5M／4M 16:9固定
*12： 動画メニューで設定
*13： 2M 16:9固定
*14： 1枚撮影時3M固定、合成画像は5M固定
*15： 5M／4M 16:9固定
*16： 1枚撮影時2M固定、3枚合成画像は5M固定
*17： 3M／2M 16:9固定
*18： 1280固定
*19： 14M固定
*20： ★★★（S.ファイン）相当に固定
*21： ★★（ファイン）固定
*22： **AWB**固定
*23： [ ]（マルチ）固定
*24： （自動追尾）不可
*25： ☑（オン）固定
*26： （分割測光）固定
*27： AUTO固定
*28： 最低感度固定
*29： 80-800で自動設定
*30： 80-6400で自動設定
*31： ±0.0固定
*32： 標準に固定
*33： マクロ照明がオンのときは不可

メッセージ一覧

カメラを使用中に、画像モニターに表示されるメッセージには以下のようなものがあります。

メッセージ	内容
電池容量がなくなりました	バッテリーの残量がありません。バッテリーを充電してください（p.38）。
カードの空き容量がありません	SDメモリーカードに容量いっぱいの画像が保存されていて、これ以上画像を保存できません。 新しいSDメモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください（p.45、p.174）。 撮影済み画像の記録サイズまたは画質を変えると、保存できる可能性があります（p.186）。
カードの空き容量が足りません 画像/音声をコピーできません	
カードが異常です	SDメモリーカードの異常で、撮影／再生ともにできません。パソコン上では画像を表示またはコピーできる場合もあります。
内蔵メモリーがフォーマットされていません	内蔵メモリーの内容が壊れています。内蔵メモリーをフォーマットしてください。
カードがフォーマットされていません	フォーマットされていないSDメモリーカードがセットされているか、パソコンなどでフォーマットされたSDメモリーカードがセットされています（p.226）。
カードがロックされています	SD メモリーカードがライトプロテクトされています（p.47）。
圧縮に失敗しました	画像の圧縮に失敗しました。画質／サイズを変えて、もう一度撮影または保存してください。
画像/音声がありません	SDメモリーカード、内蔵メモリーに再生できる画像／音声が保存されていません。
動画記録を中止します	動画撮影時にカメラ内部の温度上昇が限界を超えた場合に表示されます。
消去中です	画像／音声を消去中に表示されます。
再生できません	このカメラでは再生できない画像／音声を再生しようとしています。他社のカメラやパソコンでは表示できる場合があります。
フォルダーが作成できません	最大のフォルダー番号（999）で最大のファイル番号（9999）が使用されているため、画像を保存できません。新しいSDメモリーカードをセットするか、SDメモリーカードまたは内蔵メモリーをフォーマットしてください（p.226）。
プロテクトされています	プロテクトされた画像／音声を消去しようとした場合に表示されます。
記録中です	画像がまだ記録中なのに、▶モードに切り替えたとき／プロテクト／DPOF設定記録中に表示されます。画像または設定の記録が終了したら表示が消えます。

メッセージ	内容
処理中です	画像処理などに時間がかかり5秒以上スルー画像が表示できないとき、またはSDメモリーカード／内蔵メモリーをフォーマット中に表示されます。
内蔵メモリーの空き容量がありません	ファイルを保存するときに、内蔵メモリーの空き容量がない場合に表示されます。
処理できる画像がありません	画像／音声ファイルが1つもない場合に表示されます。
この画像/音声を処理できません	実行できないファイルの場合に表示されます。
カードが入っていません	SDメモリーカードが挿入されていない場合に、再生モードパレットで「画像／音声コピー」を選び、OKボタンを押すと表示されます。
内蔵メモリーの空き容量が足りません 画像/音声をコピーできません	コピーに必要な空き容量が内蔵メモリーに残っていない場合に表示されます。
正しく処理できませんでした	赤目補正処理に失敗した場合に表示されます。
電池容量がたりないためピクセルマッピングを行えません	ピクセルマッピング時に電池容量が足りない場合に表示されます。バッテリーを交換する（p.39）か、ACアダプターキットK-AC92J（別売）を使用してください（p.43）。
これ以上選択できません	コラージュで選択可能な枚数を超えた場合に表示されます。
カメラが高温になりました 電源をオフします	カメラ内部の温度が上限を超えた場合に表示されます。
これ以上ログが記録できません。 消去しますか？	カードにログファイルを記録する容量がない場合、または通し番号が「999」のファイルが作成されていた場合に表示されます。（Optio WG-1 GPSのみ）

こんなときは？

現象	原因	対処方法
電源が入らない	バッテリーが入っていない	バッテリーが入っているか確認し、入っていなければ入れてください。
	バッテリーの入れかたを間違えている	バッテリーの挿入方向を確認してください。⊕⊖表示に従ってバッテリーを入れ直してください（p.39）。
	バッテリーの残量がない	バッテリーを充電してください。
画像モニターに何も表示されない	パソコンに接続している	パソコンに接続しているときは、画像モニターは常にオフになります。
	テレビに接続している	テレビに接続しているときは、画像モニターは常にオフになります。
	画像モニターがオフにセットされている	**OK**/**DISPLAY** ボタンを押すと、画像モニターがオンになります。
画像モニターの表示が見にくい	画像モニターの明るさが暗く設定されている	「🔧設定」メニューの「LCDの明るさ」で明るさを調整してください（p.244）。
	節電機能（エコモード）が働いている	節電機能が働いていると、一定時間操作しないときに、画像モニターの明るさが自動的に暗くなります。何かのボタン操作をすると、元の明るさに戻ります。「🔧設定」メニューの「エコモード」で「オフ」に設定することで、節電機能が働かないようにすることもできます（p.244）。
シャッターが切れない	ストロボが充電中	ストロボ充電中は撮影できません。充電が完了すると撮影できます。
	SD メモリーカードまたは内蔵メモリーに空き容量がない	空き容量のあるSD メモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください（p.45、174）。
	書き込み中	書き込みが終了するまで待ってください。
撮影した写真が暗い	夜景などの暗い場所で撮るものまでの距離が遠い	被写体までの距離が遠すぎると、撮影した画像が暗くなります。ストロボの光が届く範囲で撮影してください。

現象	原因	対処方法
ピントが合わない	オートフォーカスの苦手なものを撮影しようとしている	いったん撮りたいものと同じ距離にあるピントの合いやすいものにピントを固定（シャッターボタン半押し）したまま、撮りたい構図に変えてシャッターを切ります（p.75）。またはマニュアルフォーカスを使用してください（p.118）。
	AFエリアに被写体が入っていない	画像モニター中央のAFエリアに、ピントを合わせたいものを入れてください。撮りたいものが、AFエリアにない場合は、いったん撮りたいものをAFエリアに入れて、ピントを固定（シャッターボタン半押し）したまま、撮りたい構図に変えてシャッターを切ります。
ストロボが発光しない	ストロボの発光方法が（発光禁止）になっている	（オート）または（強制発光）に設定してください（p.115）。
	ドライブモードが(連続撮影)、(高速連写)、(オートブラケット)、フォーカスモードが(無限遠)、撮影モードが(動画)、(マーメードムービー)、(花火)、(デジタル顕微鏡)になっている	これらのモードではストロボは発光しません。

静電気などの影響により、まれにカメラが正しい動作をしなくなることがあります。このような場合には、バッテリーを入れ直してみてください。入れ直してから再度、電源を入れてカメラが正常に動作すれば故障ではありませんので、そのままお使いいただけます。

初期設定一覧

工場出荷時の設定を表に示します。
各メニュー項目の中で、初期設定値があるものの表示内容を示します。

ラストメモリ設定

する　：カメラの電源を切っても現在の設定（ラストメモリ）が保存される
しない：カメラの電源を切ると初期設定に戻る
※　　：「する」／「しない」は「モードメモリ」(p.156) の設定による
—　　：該当なし

リセット設定

する　：リセット（p.250）で初期設定に戻る
しない：リセットしても設定が保存される
—　　：該当なし

●「撮影」メニュー項目

名称			初期設定（撮影モード：P）	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
画像仕上			鮮やか	する	する	p.122
記録サイズ			14M（4288×3216）	する	する	p.123
画質			★★（ファイン）	する	する	p.125
ホワイトバランス			**AWB**（オート）	※	する	p.126
AF	AFエリア		[ ]（マルチ）	する	する	p.119
	オートマクロ		☑（オン）	する	する	p.120
	AF補助光		☑（オン）	する	する	p.121
測光方式			（分割）	※	する	p.128
感度			AUTO（80～800）	※	する	p.129
感度AUTO調整範囲			80～800	※	する	p.130
露出補正			±0.0	※	する	p.131
動画	記録サイズ		1280 30（1280×720・30fps）	する	する	p.150
	Movie SR		☑（オン）	する	する	p.151
	インターバル撮影	撮影間隔	1分	する	する	p.152
		撮影所要時間	10分	する	する	p.152
		撮影開始時間	0時間0分後	する	する	p.152

名称		初期設定 （撮影モード：P）	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
D-Range設定	ハイライト補正	□（オフ）	する	する	p.132
	シャドー補正	□（オフ）	する	する	p.132
手ぶれ補正		□（オフ）	する	する	p.133
インターバル撮影	撮影間隔	0分10秒	する	する	p.134
	撮影枚数	2	する	する	p.134
	撮影開始時間	0時間0分後	する	する	p.134
まばたき検出		☑（オン）	する	する	p.136
デジタルズーム		☑（オン）	※	する	p.89
クイックビュー		☑（オン）	する	する	p.137
モードメモリ	顔検出モード	□（オフ）	する	する	p.156
	ストロボモード	☑（オン）	する	する	
	ドライブモード	□（オフ）	する	する	
	フォーカスモード	□（オフ）	する	する	
	ズーム位置	□（オフ）	する	する	
	MF位置	□（オフ）	する	する	
	ホワイトバランス	□（オフ）	する	する	
	感度	□（オフ）	する	する	
	露出補正	□（オフ）	する	する	
	測光方式	□（オフ）	する	する	
	デジタルズーム	☑（オン）	する	する	
	DISPLAY	□（オフ）	する	する	
	ファイルNo.	☑（オン）	する	する	
グリーンボタン		グリーンモード	する	する	p.137
シャープネス		（標準）	する	する	p.141
彩度		（標準）	する	する	p.142
調色		（白黒）	する	する	p.142
コントラスト		（標準）	する	する	p.143
日付写し込み		□（オフ）	する	する	p.143
超解像		☑（オン）	する	する	p.144
マクロ照明		□（オフ）	する	する	p.145

●「設定」メニュー項目

名称		初期設定	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
サウンド	操作音量	3	する	する	p.227
	再生音量	3	する	する	
	起動音	1	する	する	
	シャッター音	1	する	する	
	操作音	1	する	する	
	セルフタイマー音	1	する	する	
日時設定	表示スタイル（日付）	初期設定による	する	しない	p.55 p.229
	表示スタイル（時刻）	24h	する	しない	
	日付	2011/1/1	する	しない	
	時刻	初期設定による	する	しない	
アラーム	アラーム	□（オフ）	する	する	p.231
	時刻	0：00	する	する	
ワールドタイム	時刻切替	⌂（現在地）	する	する	p.234
	目的地（都市）	初期設定による	する	しない	
	目的地（夏時間）	□（オフ）	する	しない	
	現在地（都市）	初期設定による	する	しない	
	現在地（夏時間）	□（オフ）	する	しない	
文字サイズ		標準	する	しない	p.236
Language/言語		初期設定による	する	しない	p.51 p.237
フォルダー名		日付	する	する（※1）	p.238
USB接続		MSC	する	する	p.259
ビデオ出力		初期設定による	する	しない	p.241
HDMI出力		オート	する	する	p.242
Eye-Fi		□（オフ）	する	する	p.243
LCDの明るさ		−・＋	する	する	p.244
エコモード		5秒	する	する	p.244
オートパワーオフ		3分	する	する	p.245
クイック拡大		□（オフ）	する	する	p.246
ガイド表示		☑（オン）	する	する	p.247
リセット		キャンセル	—	—	p.250
全画像消去		キャンセル	—	—	p.177
ピクセルマッピング		キャンセル	—	—	p.248
フォーマット		キャンセル	—	—	p.226
GPS（※2）	GPS測位	オフ	する	する	GPSガイド
	ログの記録	オフ	する	する	
	自動時刻修正	オフ	する	する	

（※1）作成したフォルダー名を除く
（※2）Optio WG-1 GPSのみ

● 再生モードパレット項目

名称		初期設定	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
スライドショウ	表示間隔	3秒	する	する	p.167
	画面効果	ワイプ	する	する	
	効果音	オン	する	する	
画像回転		正位置	—	—	p.170
小顔フィルター		約7%	しない	しない	p.188
魚拓フィルター		3	しない	しない	p.195
コラージュ	記録サイズ	3M/2M 16:9	する	する	p.196
	配置		する	する	
	背景	白	する	する	
	画像選択	—	—	—	
デジタルフィルター		白黒／セピア	しない	—	p.190
オリジナルフレーム	ぼかし	4方向／白	しない	—	p.205
	縁取り	4方向／白	しない	—	
フレーム合成		デフォルト1	する	する	p.202
動画編集	静止画保存	—	—	—	p.209
	動画分割	—	—	—	
	タイトル画像追加	—	—	—	
赤目補正		—	—	—	p.201
リサイズ	記録サイズ	元画像による	—	—	p.186
	画質	元画像による	—	—	p.186
トリミング		元画像による	—	—	p.187
画像/音声コピー		内蔵メモリー → SDカード	—	—	p.212
ボイスメモ		—	—	—	p.222
プロテクト	1画像/音声	画像/音声による	—	—	p.178
	全画像/音声	画像/音声による	—	—	
DPOF	1画像	枚数：0枚 日付：オフ	—	—	p.214
	全画像		—	—	
起動画面設定		☑（オン）	する	する	p.249

● キーによる操作

名称		機能	初期設定	ラストメモリ設定	リセット設定	参照
▶ボタン		動作モード	▶モード	—	—	—
ズーム/♠♠♠/♠ボタン		ズーム位置	広角端	※	しない	p.87
十字キー	▲	ドライブモード	□（標準）	※	する	p.101～p.108
	▼	撮影モード	AUTO PICT（オートピクチャー）	する	する	p.77
	◀	ストロボモード	⚡A（オート）	※	する	p.115
	▶	フォーカスモード	AF（標準）	※	する	p.117
MENUボタン		メニュー表示	撮影モード：「📷メニュー」 再生モード：「🔧メニュー」	—	—	p.65
OK/DISPLAYボタン		情報表示	標準	※	する	p.25
顔ボタン		動作モード	顔検出オン	※	する	p.79
グリーンボタン		機能呼び出し	グリーンモード	する	する	p.85

都市名一覧

都市名：「初期設定」（p.51）やワールドタイム（p.234）で設定できる都市
ビデオ出力方式：「初期設定」で設定した都市のビデオ出力方式

地域	都市名	ビデオ出力方式
北米	ホノルル	NTSC
	アンカレジ	NTSC
	バンクーバー	NTSC
	サンフランシスコ	NTSC
	ロサンゼルス	NTSC
	カルガリー	NTSC
	デンバー	NTSC
	シカゴ	NTSC
	マイアミ	NTSC
	トロント	NTSC
	ニューヨーク	NTSC
	ハリファックス	NTSC
中南米	メキシコシティ	NTSC
	リマ	NTSC
	サンティアゴ	NTSC
	カラカス	NTSC
	ブエノスアイレス	PAL
	サンパウロ	PAL
	リオデジャネイロ	NTSC
ヨーロッパ	リスボン	PAL
	マドリード	PAL
	ロンドン	PAL
	パリ	PAL
	アムステルダム	PAL
	ミラノ	PAL
	ローマ	PAL
	コペンハーゲン	PAL
	ベルリン	PAL
	プラハ	PAL
	ストックホルム	PAL
	ブダペスト	PAL
	ワルシャワ	PAL
	アテネ	PAL
	ヘルシンキ	PAL
	モスクワ	PAL
アフリカ・西アジア	ダカール	PAL
	アルジェ	PAL
	ヨハネスブルグ	PAL

地域	都市名	ビデオ出力方式
アフリカ・西アジア	イスタンブール	PAL
	カイロ	PAL
	エルサレム	PAL
	ナイロビ	PAL
	ジッダ	PAL
	テヘラン	PAL
	ドバイ	PAL
	カラチ	PAL
	カブール	PAL
	マーレ	PAL
	デリー	PAL
	コロンボ	PAL
	カトマンズ	PAL
	ダッカ	PAL
東アジア	ヤンゴン	NTSC
	バンコク	PAL
	クアラルンプール	PAL
	ビエンチャン	PAL
	シンガポール	PAL
	プノンペン	PAL
	ホーチミン	PAL
	ジャカルタ	PAL
	香港	PAL
	北京	PAL
	上海	PAL
	マニラ	NTSC
	台北	NTSC
	ソウル	NTSC
	東京	NTSC
	グアム	NTSC
オセアニア	パース	PAL
	アデレード	PAL
	シドニー	PAL
	ヌーメア	PAL
	ウェリントン	PAL
	オークランド	PAL
	パゴパゴ	NTSC

別売アクセサリー一覧

本機には、別売アクセサリーとして以下の製品が用意されています。（※）の製品は同梱品と同じものです。

- **電源関連**

  充電式リチウムイオンバッテリー D-LI92（※）
  バッテリー充電器キット K-BC92J（※）
  （バッテリー充電器 D-BC92・ACコード D-CO2Jのセット）
  ACアダプターキット K-AC92J
  （AC アダプター D-AC64・DC カプラー D-DC92・AC コード D-CO2Jのセット）

  バッテリー充電器とACアダプターは、セットでのみ販売しております。

- **ケーブル類**

  USBケーブル I-USB7（※）
  AVケーブル I-AVC7（※）

- **ストラップ**

  O-ST104（※）
  O-ST117（※）
  O-ST118（※）
  O-ST24　本革を使ったリッチなレザーストラップです。
  O-ST8　シルバーに輝くチェーンストラップです。
  O-ST81　防水加工を施したストラップです。

- **プロテクタージャケット**

  O-CC1182（近日発売予定）
  本体を傷や軽い衝撃から守るカバーです。

- **リモートコントロール**

  防水リモートコントロール O-RC1
  リモートコントロール E
  リモートコントロール F

主な仕様

型式	ズームレンズ内蔵全自動コンパクトタイプデジタルスチルカメラ		
有効画素数	約1400万画素		
撮像素子	1/2.3型CCD		
記録画素数	静止画	14M（4288×3216）、10M 1:1（3216×3216）、10M 16:9（4224×2376）、 7M（3072×2304）、5M 16:9（3072×1728）、 5M（2592×1944）、4M 16:9（2592×1464）、 3M（2048×1536）、2M 16:9（1920×1080）、 1024（1024×768）、640（640×480）（ピクセル） ※ 高感度モード時は5M／4M 16:9固定 ※ フレーム合成モード時は3M／2M 16:9固定 ※ デジタルワイドモード時は5M固定（合成後） ただし1枚撮影時（合成前）は3M固定 ※ パノラマモード撮影時は1枚2M固定 ※ デジタル顕微鏡モード時は2M 16:9固定 ※ 感度3200／6400設定時は5M／4M 16:9固定 ※ 高速連写時は5M／4M 16:9固定 ※ CALSモード時は1280固定	
	動画	1280 30（1280×720・30fps）、1280 15（1280×720・15fps） 640 30（640×480・30fps）、640 15（640×480・15fps） 320 30（320×240・30fps）、320 15（320×240・15fps）	
感度	オート、マニュアル（ISO 80～6400） ※高感度モード時はAUTO（80～6400）に固定		
記録方式	静止画	JPEG（Exif2.3準拠）、DCF2.0準拠、DPOF対応、 PRINT Image Matching III対応	
	動画	AVI（MotionJPEG準拠）、約30fps／約15fps（フレーム／秒）、 PCM方式・モノラル音声付、Movie SR（動画手ぶれ補正）	
	音声	ボイスメモ、ボイスレコード：WAVE（PCM）方式、モノラル	
画質	静止画	★★★（S.ファイン）、★★（ファイン）、★（エコノミー）	
	動画	★★★（S.ファイン）固定　※変更不可	
記録媒体	内蔵メモリー（約97.0MB）、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、 SDXCカード		

撮影枚数と時間

静止画

	内蔵メモリー			2GB SDメモリーカード		
	★★★	★★	★	★★★	★★	★
14M (4288×3216)	19枚	39枚	61枚	394枚	778枚	1205枚
10M 1:1 (3216×3216)	24枚	49枚	70枚	487枚	975枚	1397枚
10M 16:9 (4224×2376)	24枚	49枚	70枚	487枚	975枚	1397枚
7M (3072×2304)	33枚	61枚	81枚	653枚	1205枚	1617枚
5M 16:9 (3072×1728)	39枚	75枚	109枚	778枚	1499枚	2119枚
5M (2592×1944)	39枚	75枚	109枚	778枚	1499枚	2119枚
4M 16:9 (2592×1464)	49枚	98枚	151枚	975枚	1921枚	2927枚
3M (2048×1536)	61枚	121枚	177枚	1205枚	2364枚	3415枚
2M 16:9 (1920×1080)	90枚	177枚	238枚	1756枚	3415枚	4728枚
1280 (1280× 960)	141枚	258枚	365枚	2794枚	5122枚	6830枚
1024 (1024× 768)	214枚	365枚	477枚	4098枚	6830枚	8782枚
640 (640× 480)	443枚	690枚	776枚	8782枚	12294枚	15368枚

- 撮影枚数は目安です。SDメモリーカードや被写体により実際の撮影枚数は異なることがあります。
- 1280（1280×960）は (CALS) モード時だけの記録サイズです。

動画・音声

	内蔵メモリー	2GB SDメモリーカード
1280 30（1280×720・30fps）	30秒	10分8秒
1280 15（1280×720・15fps）	1分	19分42秒
640 30（640×480・30fps）	1分28秒	29分16秒
640 15（640×480・15fps）	2分47秒	53分55秒
320 30（320×240・30fps）	2分15秒	44分32秒
320 15（320×240・15fps）	4分8秒	1時間18分48秒
音声	26分30秒	8時間44分34秒

- この数値は、当社で設定した標準撮影条件によるもので、被写体、撮影状況、使用するSDメモリーカードなどにより変わります。
- 動画は連続で内蔵メモリー／SDメモリーカードの容量いっぱい、または大容量のSDHCカード／SDXCカードを使用した場合は、最大で2GBまで撮影可能です。2GB撮影終了後に、再度撮影をし直すことで、引き続き2GBずつ、残りの容量を撮影することができます。

ホワイトバランス	オート、太陽光、日陰、白熱灯、蛍光灯、マニュアル	
レンズ	焦点距離	5.0～25.0mm （焦点距離の35mm換算値：約28～140mm相当）
	F値	F3.5（W）～F5.5（T）
	レンズ構成	9群11枚（非球面レンズ5枚使用）
	ズーム方式	電動式
光学ズーム	5倍	
インテリジェントズーム	7M：約7倍、5M 16:9：約7倍、5M：約8.3倍、4M 16:9：約8.3倍、3M：約10.5倍、2M 16:9：約11.2倍、1024：約20.9倍、640：約33.5倍 （光学ズームと合わせたズーム倍率）	
デジタルズーム	最大約6.7倍（光学5倍ズームと合わせ、最大約33.5倍ズーム相当のズーム倍率）	
手ぶれ軽減	静止画	電子式手ぶれ補正、高感度ぶれ軽減モード
	動画	電子式（Movie SR）
画像モニター	2.7型（ワイド）約23万ドットLCD（ARコート（カバーのみ））	
再生機能	1コマ、6画面、12画面、拡大（最大10倍まで、スクロール可）、顔アップ再生、ペット顔アップ再生、フォルダー表示、カレンダー表示、音声再生、ヒストグラム表示、白とび・黒つぶれ表示、選択消去、スライドショウ、リサイズ、トリミング、画像/音声コピー、画像回転、デジタルフィルター、オリジナルフレーム、魚拓フィルター、コラージュ、小顔フィルター、動画再生・編集（静止画保存、分割、タイトル画像追加）、フレーム合成、赤目補正、ボイスメモ、プロテクト、DPOF、起動画面設定	
フォーカスモード	オートフォーカス、マクロ、1cmマクロ、パンフォーカス、無限遠、マニュアルフォーカス	
フォーカス	方式	撮像素子によるTTLコントラスト検出方式 マルチ（9点AF）／スポット／自動追尾切替可
	フォーカス範囲	標準　：0.5m～∞（ズーム全域） マクロ　：0.1m～0.6m（ズーム全域） 1cmマクロ　：0.01m～0.3m（ズーム域の中間部） ※ 無限遠、パンフォーカス、マニュアルフォーカス切替可 ※ 顔検出中のみ、顔検出AF可
	フォーカスロック	シャッターボタン半押しによる
露出制御	測光方式	撮像素子によるTTL測光（分割、中央重点、スポット）
	露出補正	±2EV（1/3EVステップで設定可能）
顔検出	最大32人まで検出可（画像モニターに表示される顔検出枠は最大31個）、スマイルキャッチ、まばたき検出、自分撮りアシスト、自分撮りアシスト＋スマイルキャッチ ※顔検出中のみ、顔検出AE可	
ペット検出	登録数：3、検出数：1	
撮影モード	オートピクチャー、プログラム、夜景、動画、マーメード、マーメードムービー、風景、花、ポートレート、デジタルワイド、サーフ&スノー、高感度、キッズ、ペット、スポーツ、花火、キャンドルライト、夜景ポートレート、テキスト、料理、パノラマ、フレーム合成、CALS、デジタル顕微鏡、グリーン、ボイスレコーディング（Fn割当時使用可能）	

デジタルフィルター	白黒／セピア、トイカメラ、レトロ、カラー（赤、桃、紫、青、緑、黄）、色抽出（赤、緑、青）、色強調（晴天、新緑、花見、紅葉）、ハイコントラスト、トゥインクル（クロス、ハート、星）、ソフト、フィッシュアイ、明るさ、ミニチュア	
動画	連続録画時間	約1秒～内蔵メモリー／SDメモリーカードの容量いっぱいまで（ただし最大で2GBまでの制限あり）
シャッタースピード	1/1500～1/4秒、最長4秒（夜景モード）	
内蔵ストロボ	発光モード	自動発光、発光禁止、強制発光、自動発光+赤目軽減、強制発光+赤目軽減
	調光範囲	広角時 約0.3～3.9m（感度オートの条件において） 望遠時 約0.3～2.5m（感度オートの条件において）
ドライブモード	1コマ撮影、セルフタイマー撮影（約10秒後、約2秒後）、連続撮影、高速連写、リモコン撮影（即、約3秒後）、インターバル撮影、オートブラケット撮影	
セルフタイマー	電子制御式、制御時間：約10秒、約2秒	
時計機能	ワールドタイム	世界75都市に対応（28タイムゾーン）
	スタイルウォッチ	電源オフ時に**OK**/**DISPLAY**ボタン長押しで時刻表示（約10秒間）
	アラーム	指定時間にアラームと同時にスタイルウォッチを表示
電源	専用リチウムイオンバッテリーD-LI92、ACアダプターキット（別売）	
電池寿命	撮影可能枚数 約260枚	※ 撮影可能枚数は CIPA 規格に準じた測定条件による目安であり、使用条件により変わります。（CIPA 規格抜粋：画像モニター ON、ストロボ使用率50％、23℃）
	再生時間 約280分	※ 時間は当社の測定条件による目安であり、使用条件により変わります。
	動画撮影時間 約120分	※ 時間は当社の測定条件による目安であり、使用条件により変わります。
	音声録音時間 約350分	※ 時間は当社の測定条件による目安であり、使用条件により変わります。
外部インターフェイス	USB 2.0（ハイスピード対応）／PC/AV端子／HDMI端子（タイプD（Micro））	
ビデオ出力方式	NTSC／PAL（モノラル音）	
防水・防塵性能	JIS防水保護等級8級、JIS防塵保護等級6級（IP68）準拠 水深10m、連続2時間の水中撮影が可能	
耐衝撃性能	MIL-Standard 810F Method 516.5-Shockの測定方法に準じた、当社独自の基準（高さ:1.5m、落下面:厚さ5cm合板）での落下テストをクリア ※ 本製品をぶつけたり落下させたりなどの衝撃を与えた場合、防水性能は保証しません。 ※ すべての条件で無破損・無故障を保証するものではありません。	
外形•寸法	約115.5（幅）× 58.5（高）× 28.5（厚）mm（操作部材、突起部を除く）	
質量（重さ）	Optio WG-1 GPS： 本体約146g（バッテリー、SDメモリーカード含まず） 約167g（バッテリー、SDメモリーカード含む） Optio WG-1： 本体約143g（バッテリー、SDメモリーカード含まず） 約163g（バッテリー、SDメモリーカード含む）	
主な付属品	専用バッテリー、バッテリー充電器、ACコード、USBケーブル、AVケーブル、ソフトウェア（CD-ROM）、ストラップ、カラビナストラップ、マクロスタンド、使用説明書、簡単ガイド、GPS機能活用ガイド（Optio WG-1 GPSのみ）、保証書	

索引

記号

数字

A

C

D

E

H

L

M

9
付録

さ行

た行

な行

は行

ま行

9
付録

や行

ら行

わ行

9
付録

アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満1年間無料修理致しますので、お買い上げ店か当社のサービスセンターまたは当社サービス窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接お持ちください。修理品ご送付の際は、輸送中の衝撃に耐えられるようしっかり梱包し、発送や受け取りの記録が残る宅配便などをご利用ください。不良見本のサンプルや故障内容の正確なメモを添付していただけると原因分析に役立ちます。

2. 保証期間中［ご購入後1年間］は、保証書［販売店印および購入年月日が記入されているもの］をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様にてご負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。

3. 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
   - 使用上の誤り（使用説明書記載以外の誤操作等）により生じた故障。
   - 当社の指定するサービス機関以外で行われた修理・改造・分解による故障。
   - 火災・天災・地変等による故障。
   - 保管上の不備（高温多湿の場所、防虫剤や有害薬品のある場所での保管等）や手入れの不備（本体内部に砂・ホコリ・液体かぶり等）による故障。
   - 修理ご依頼の際に保証書のご提示、添付がない場合。
   - お買い上げ販売店名や購入日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。

4. 保証期間以降の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。

5. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に保有しております。従って本期間中は原則として修理をお受け致します。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので、当社サービス窓口にお問い合わせください。

6. 海外でご使用になる場合は、国際保証書をお持ちください。国際保証書は、お持ちの保証書と交換に発行いたしますので、使用説明書記載のお客様窓口にご持参またはご送付ください。［保証期間中のみ有効］

7. 保証内容に関して、詳しくは保証書をご覧ください。

製品の点検・修理について

ペンタックスピックアップリペアサービス

全国（離島など、一部の地域を除く）どこからでも電話一本でペンタックス指定の宅配業者がお客様ご指定の日時・場所に梱包資材を持って不具合品を引き取りにお伺いし、専門修理スタッフが修理を行って、お客様ご指定の場所に完成品をお届けするサービスです。（全国一律料金）

電話受付

0120-97-0405（フリーダイヤル）
受付時間　平日　8:00～21:00
土・日・祝日・年末年始　9:00～18:00

宅配便・郵便による修理受付

PENTAXイメージング・システム事業部
東京サービスセンター

TEL 03-3960-5140　FAX 03-3960-5147
〒174-0041　東京都板橋区舟渡1-12-11　ヘリオスIIビル3F
営業時間　9:00 ～ 17:30
（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

PENTAXイメージング・システム事業部
大阪サービスセンター

TEL 06-6271-7996（代）　FAX 06-6271-3612
〒542-0081　大阪市中央区南船場 1-17-9　パールビル2階
営業時間　9:00 ～ 17:00
（土・日・祝日および弊社休業日を除く）

お客様窓口のご案内

ペンタックスホームページアドレス **http://www.pentax.jp/**

[PENTAX イメージング・システム製品に関するお問い合わせ]
お客様相談センター **ナビダイヤル　0570-001313**
（市内通話料金でご利用いただけます。）

ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、右記の電話番号をご利用ください。

TEL 03-3960-3200（代）
FAX 03-3960-4976

営業時間　9：00 ～ 18：00（平日）
10：00 ～ 17：00（土・日・祝日）
休業日　年末年始およびビル点検日

[ショールーム・写真展・修理受付]
ペンタックスフォーラム **TEL 03-3348-2941（代）**
FAX 03-3345-8076

〒 163-0690　東京都新宿区西新宿 1-25-1 新宿センタービル MB（中地下 1 階）
営業時間　10：30 ～ 18：30
休業日　毎週火曜日、年末年始およびビル点検日

大阪サービスセンター TEL 06-6271-7996（代）
FAX 06-6271-3612

〒 542-0081　大阪市中央区南船場 1-17-9 パールビル 2 階
営業時間　9：00 ～ 17：00
休業日　土曜日、日曜日、祝日および弊社休業日

ユーザー登録のお願い
お客様へのサービス向上のため、お手数ですがユーザー登録にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。
付属しています CD-ROM と弊社ホームページから登録が可能です。同梱の「簡単ガイド」をご参照ください。

HOYA 株式会社
PENTAX イメージング・システム事業部
〒 174-8639 東京都板橋区前野町 2-35-7

☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

53241
H01-201102
Printed in Vietnam